

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Report from Tibet

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青木, 文教, 長野, 泰彦, 高本, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003981

西藏調査報告

青本文教 著

長野泰彦*・高本康子** 校訂

Report from Tibet

Bunkyo Aoki

Revised by Yasuhiko Nagano and Yasuko Komoto

[校訂者序言]

本稿は初期入蔵者のひとり、青本文教師のチベット学資料の一部である。青木師は1912年チベットに入り、1913年から約3年間教学顧問としてラサ市街に滞在した。師の事蹟については、長野泰彦（編）『青本文教師将来チベット民族資料目録』（1983 国立民族学博物館研究報告別冊 No. 1）及び江本嘉伸『西藏漂泊』下巻（1994 東京：山と溪谷社）に詳しい。

この資料は、東京大学の学生時代、個人的に青木師からチベット語の指導を受けた中根千枝教授が、同師から生前贈与されたものである。同教授の東京大学退官後は財団法人民族学振興会に保管されていたが、1999年末同振興会が解散したことに伴い、中根教授は資料の散逸を避け、且つ、アーカイブズとして研究者の利用に供するため、国立民族学博物館での整理・保存を希望された。2001年のことである。

現在その資料の整理・記述と受け入れ手続きが進行中であるが、中でも本稿は青木師が現地で認めた調査のまとめとして、オリジナルな価値の高い資料である。既に刊行された幾つかの著書と内容的に重なる部分があるが、ここに公開しておくことは意義が深いと判断した。また、原タイトルは『調査事項報告第壹号』『調査報告第貳号』であるが、内容把握を容易にするため、本稿のタイトルは『西藏調査報告』とした。

* 人間文化研究機構、国立民族学博物館民族文化研究部

** 東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期

Key Words : Tibet, Lhasa, the 13th Dalai Lama

キーワード : チベット, ラサ, 13 世ダライラマ

[凡例]

- 1) 本資料は 210 × 276 ミリの洋紙に、横書きで、おおむね 25 行、1 行平均 26 字、黒のペンで手書きされている。これらの行数と字数を忠実に再現する方法もあるが、そのこと自体はあまり意味を持たないので、改行とインデント部分のみを再現している。
- 2) 番号その他符号については原文の形式を極力残すよう努めた。
- 3) 漢字は新字を用いた。
- 4) 句点は「。」と「.」が使われているが、ピリオドに統一した。
- 5) 読点は「、」と「,」が使われているが、コンマに統一した。
- 6) 判読できなかった文字は□で示し、後注に写真を添付した。
- 7) [] は校訂者の見解を示す。
- 8) 気象観測表は 2 部あるが、その清書版のほうを採用した。また、そこに使われた記号・略号については後注に示した。

『調査事項報告第壱号』

第一ページ

白紙

第二ページ

調査事項報告第一号

- (1) 調査事項一通り終了済ノ分ノ是レヲ第一号トシ御覧ニ供ス。引キ続キ残部（第二号）急送申シ上ゲ可シ。
- (2) 本調査ハ西藏征府の調査公報；当局者談；一般ノ説。及ビ自己ノ観測推測ニヨリタル者也。
- (3) 中央（拉薩）以外＝地方^マの状況ニ関シテハ調査不充分ナル所少ナカラズ。〔調査未十二項中ノ“拉薩”ノ近況ハ略 各項ヲ通ジテ示セリ。報告第二号ニハ之レヲ約説ス〕
- (4) 本文中ニ用フル地名等ノ固有名詞ハ Roma 字ヲ主トセリ。之レ西藏征府ニテハ漢字ヲ用フルノ習慣無ク調査ニ不便ナレバ特ニ漢字ニ訳スル事ヲバ省略セリ。

中央征府所在地ニ於テ支那ガ滅亡シテ以来漢字ヲ以テ記セル調査事項ハ稍困難ニシテ漢字ニ精通セル支那人ハ絶無ナリ。今後の御下命ハ便宜上 Roma 字ヲ御使用有ラン事ヲ乞フ。（幸ニシテ此回ハ支那字地図ヲ手ニ入レタレ共）
- (5) 西藏ニ関スル著中印度方面ヨリ拉薩ニ至ル百般ノ状態ニ関シテハ次ノ著書ヲ推薦ス。“Lhasa and its misteries” L. Austine Waddell. methueu reo. London, 発売ニ関ルモノ、此書ハ今ヨリ約拾年前即ハチ 1903-1904 ニ於ケル英藏戦争ノ後ナリシモノニシテ同戦争ノ記事ヲ掲グル事詳細ニシテ印度方面ヨリスル各種ノ観察ニ対シ有力ナル参考ヲ与フルガ上ニ他ノ著書ニ比シテ“正確”ナルヲ特色トス。蓋シ他ガ秘密的行動ニナリシニ反シ此書ガ武力ニ訴エテ生レタリシ故ナル可シ。而シテ西藏ニ於ケル Eastern Himalaya 地方及ヨビ Central Tibet ノ正確ニ近カキ略図ト拉薩及附近ノ Sketch map ト

第三ページ

拉薩市街等ニハ誤謬無キ方也。

北部西藏地ハ Sven Hedin ノ書ガ参考トスルノ価値アリト思ハル。

- (6) 拉薩ニ於ケル過グル一年間ノ氣象觀測表ハ本派本願寺ニ既着ノ筈ナリ。拉薩ノ天候寒暖等御参考アリタシ。
- (7) 目下拉薩ニ於ケル我ガ同胞ハ我ガ同侶多田等觀ノ外ニ帝国力行會員ト称スル矢島安次郎氏アリ。曾テ入藏セシ河口氏ハ今回再タビ秘密入藏ヲ企ハダテ後藏 Shikatse ニ安着シ目下拉薩入城の許下ヲ待テリ。遠カラズ、拉薩ニ吾新同胞ヲ迎フル事ナル可シ。入藏ニ秘密ト公然トノ差コソアレ拉薩ニ於テ日本人トシテ公然ノ居留ヲ許可セラルルニ至リシハ我ガ同胞發展上寧ロ有望ナル趨勢ト云ハザル可カラズ。

西藏征府ヲ挙ゲテ親英派ニ満テル今日法王独リ吾人日本同胞ニ対シテモ好意ヲ失ハザル認ムルニ足ル。

- (8) 法王ガ屢々日本政府ノ指導援助ヲ求メラレタルニ対シ日本政府又ハ私人トシテ何等カノ指導の良策ノ可能ヲ期シ殊ニ日本ニ対スル西藏留学生ノ派遣吾人の大イニ注意ス可キ価値アルモノト信ズ。

大正三年二月一日

西藏拉薩ニテ 青蓮 B. A

第四ページ

(名称) 参照事物 (page)

西藏郵便切手……30

王座ニツケル達賴法王

西藏服ヲ着ケタル吾ガ平常

法王印度ニ於ケル三年間ニシテアヘテ特ニ Kalimpong ヨリ帰藏ノ写 [写真?]

法王宮附近全景

最上流兒童

Chopari ヨリ見タル四方ノ全景

貴族及家僕

達賴宮殿

◻ 兒童

ラツサヨリ眺メタル宮殿及 Chopari

◻ 令嬢

最近ノ西藏新兵

◻ 婦人盛装

西藏新式兵ノ初期

西藏劇ノ四種

新式西藏騎兵（現今ノ）
新式西藏兵——チュンコルヤンツエ時代——（一人）
菩薩ノ化身ト信セラルル大高僧及一般服装
曾テ本派本願寺ニ留学セシコトアル僧正職ニアル高僧
蒙古正服ヲ著タル化身僧
法王ノ菩提寺 Chokhang (or Tsulak Khang) Lhasa,
ラツサ市民ノ群集
ラツサ市街一部
中流以上ノモノノ “家僕”
Tsangusebang 祭ニ於ケル僧ノ行列
“Kawa” The hide boat, 西藏ノ皮舟
1912-1913 ニ拉薩戦争ニ於ケル西藏軍ヨリ破ラレタル支那軍ノ本陣一部破壊図
西藏貴族ノ平常
同婦人平常

第五ページ

内容（及ビ附写真）

	(page)
第一項 英露両国対蔵計画 ^{ママ} の近況及ビ其勢力扶殖ノ情况等……………	1
第二項 西藏ニ於ケル英兵派遣ノ有無特ニ変装英兵ノ有無等……………	6
第三項 宗教盛衰ノ現況. 特ニ達喇ト庫倫活佛ト及ビ他宗教状況……………	7
第四項 支那及ビ英国ニ対スル達頼喇府 [麻?] ノ向背ノ真意……………	11
第五項 西藏行政ノ状況（報告第二号ニアリ）……………	—
第六項 西藏軍隊ノ状況殊ニ蕃兵ノ価値及支那軍隊ノ状況……………	13
第七項 西藏内道路ノ状況等（報告第二号ニアリ）……………	—
第八項 西藏の河川ニ就イテ（報告第二号ニアリ）……………	—
第九項 西藏内外ノ通信連絡法……………	23
第十項 西藏人ノ外人ニ対スル意向, 殊ニ日本人ニ対スル感情等詳細…………	24
第十一項 西藏ノ風俗習慣等……………	32
第十二項 拉薩・察木多等其ノ他要地ノ近況（主に報告第二号ニアリ）……	—
第十三項 新疆方面ニ対スル露国……………	42

第十四項 西藏ニ於ケル支那官憲ノ近寧及ビ施設経営ノ状況

第十五項 西藏利源及ビ将来ノ予測（報告第二号ニアリ）

第十六項 西藏内地地図其ノ他地形ヲ明知ス可キ写真ノ入手等……………44

附録

(A) 英帝と法王（印度通信ノ切抜）…………… 5

(B) 英国ニ於ケル西藏留学生ノ状況 ……………21

(C) 西藏政府郵便切手各種及消印切手附画ハガキ ……………25

(D) 写真附頁十四（写真数三十四枚）……………末尾

(E) 西藏地図支那字版（三枚一組ノ分ニテ一枚ヲ欠ク）……………別附

第六ページ

調査第一項

{ 英露両国対蔵計画ノ近況及勢力扶殖ノ
 情況（成ル可ク具体的ニ事実ヲ摘記セラレンコトヲ希望ス） }

第一 英国対蔵計画ノ近況及ビ勢力扶殖ノ状況

(A) 中央（拉薩）ニ於ケル英国

特筆ス可キ具体的勢力ノ存在及ビ発動ヲ認メズ。英人又ハ英ノ代表者ニシテ駐
 筭セル者無ク又西藏政府ニ対シ正式ニ指導政治ヲ行ヘル形跡モ見ズ。唯英ノ潜力
 トモ名ズク可キモノハ西藏政府百官ヲシテ悉ク親英派タラシメ諸官ヲシテ万事英
 国ヲ顧慮セシメ公然ナラズト雖モ屢々英ノ指導ヲ仰ガントスルノ趨勢ニ立チ至ラ
 シメントタルト雖モ□¹⁾ 象ナリトス。彼ノ親露・親日（本）親支（那）と称セラ
 レシ数派ハ自然ニ消滅セリ。サリ乍ラ神聖ナル国王達賴法王ニ於イテハ其ノ態度
 比較的慎重ニシテ専ラ英国ニノミ盲頼スルト云フニモ非ラズ。

一般人民ハ今尚愚昧ニシテ世界ノ事情ニ通セズ。列強ノ区別スラモ識別スル能
 ハズ。単ニ印度ニ近キヲ以テ英国ニ畏服ス。

然ルニ爰ニ今後少クモ間接的英ノ勢力ノ一変態トモ考エ得ベキハ従来拉薩ニ駐
 在セシネポール領事ニ対シ英ノ印度政府ハ新ラタニ一位官を授ケ（大正二年十
 月）毎月一定ノ手当ヲ支給シテ英ノ内意ヲ含マセタルノ事態ナリトス。目下
 Nepal-Consul ニハ従事一名書記生一名下吏数名ト護衛兵十二名程アリ。拉薩ニ於
 テ治外法権ノ下ニアルハ Nepal 国民ノミナリトス。

(B) 地方ニ於ケル英国ノ近況

Chumbi Valley 以北 Phari Gyantse ニ至ル

第七ページ

所謂英ノ勢力地ニ対シテ極力設備ヲ施セル形跡ヲ見ル：—

(a) Gyantse ニハ約百名ヲ収容シ得ベキ石造兼コンクリート造リノ堅牢ナル兵營（半永久的ナリト云フ）ヲ新築セリ。（1912-1913）目下英將校一名（Macdonald^{ママ}（?）ト云フ）軍医一名（英人）英印度兵約五十名及英商務官一名常ニ駐在セリ。

(b) Phari 英商務官一名駐在ス。

(c) Chumbi 英商務一名及將校一名軍医一名及英領印度兵約五十名駐在セリ。

(d) 印度 Darjeeling-Himalayan Railway ノ基点ナル Siliguri ハ曾テ西藏遠征ノ時兵帖^{ママ}基地タリシ以来今日尚此ノ地ヲ基点トシテ国境 Yatong ヲ經テ Chumbi, Phari, Gyantse ニ至ル二百十余哩間ノ道路ヲ改築シ車道ノ全通スル日モ遠キニ非ラザル可シ。

(e) 印度 Siliguri [Siliguli?] 又ハ Darjeeling ヨリ Gyantse ニ至ルニ二百哩間ニ要セシ從來ノ郵便所要日数ハ約十日間ナリシガ最近此ノ間ヲ五日間ニテ達スルニ至レリ。電信ハ印度ノ内地ト略其規定ヲ一ニシテ目下二線ヲ使用セリ。

(f) 印度 Siliguri [Siliguli?] 又ハ Boxa ニ通ズル狹軌鐵道計畫中ニテ Bhutan ニ通ジ測量中ナレ共之レガ実施ハ条約等ノ改締ヲ要スルヲ以テ直チニ実行セラル可キモノニ非ラズト考察ス。

(G) 後藏 Shikatse ニ於テハ未ダ英ノ具体的勢力ハ何等見ル能ハザレ共 Trashi Lama（班禪刺摩）ハ純親英派ニシテ曾テハ英ガ之レヲ利用セントシテ彼レヲ買収セシモ今ヤ達頼ノ為ニ勢力ヲ奪ハレ其ニ屈服スルノ衰態ニ陥リタレバ英モ目下余リニ熱心ナラザルガ如シ。当地ニ於テモ英人又ハ英国ノ代表者ト称ス可キモノ駐劄スルナシ。

(h) 印度北東国境 Abor 地方 Miri 地方（Bhutan ノ東方）

第八ページ

ヨリスル英ノ新計畫トシテハ英印及西藏ノ国境確定道路鐵道兵舍等ノ新築（英勢力範圍内ニ於テ）盛ニ行ハル殊ニ国境ノ如キハ從來ノ西藏国内ニ著ルシク食ヒ込ミ居ル模様也。Miri 地方ニハ最近印度約五百來襲シ調査シ居レリ。是レニ對シ西藏政府ハ西藏委員ヲ急派セリト雖モ Abor 地方ニ對シテハ元來西藏本国トハ多少

趣異ニスルヲ以テ等閑視セルガ如シ。

(i) 北西辺境ヨリスル Ladak 方面ニ於ケル英ノ活動ガ詳ナラズ。

第二 露国ノ対蔵計画ノ近況及勢力扶殖ノ近況

(A) 中央（拉薩）ニ於ケル露国

具体的ニ表頭スベキ物無シ。露人又ハ露国代表者等ノ公然駐在スルモノナシ。英国ト共ニ1906ノ協商ヲ実行セルハ明ラカ也。曾テ露領 Siberia, Briad 人 Dorjjeff ナル者及其他ノ蒙古人ニシテ勢力侮ル可カラザル者アリシト雖モ今ヤ達頼法王ガ個人トシテ彼等ヲ媒介者トシ露帝ト親交ヲ結び時々秘密ノ往復アル外西藏政府ニ対スル露ノ勢力ハ殆ンド之レヲ認ムルニ由ナシ。是ニ於テ西藏ニ対スル英露ノ暗闘ハ速カニ決定セラル可キモノニ非ザルガ如シ。

目下拉薩ノ新式西藏兵ノ教官ニ一蒙古人アリ。露領ニ籍ヲ有スルモノニシテ一種ノ露ノ手先トモ見ル可キモノナレ共勢力ハ著シカラズ。注意ス可キ価値ヲ有スル者ニ非ルガ如シ。怪シキ蒙古人ハ常ニ往復スルヲ見レドモ之ガ調査ハ不得要領ニ終ル。蓋シ西藏政府ノ英化シタル結果露ノ勢力モ亦英ノ次位ニ下ルガ如シ。

(B) 地方ニ於ケル露国

何等特筆ス可キモノヲ認メズ。曾テ Siberia ヨリ Tibet ニ通ズル道路及鉄道ヲ計画測量中ナルト聞ケ共露人が直接之レニ従事セルニ非ラズ。又英露協商（1906）ノ為メニ之レガ実施ハ遠キ未来ナル可ク英国ノ “Chumbi Railway” ノ計画ニ比シ

第九ページ

其ノ望稍遠キガ如シ。（調査ナリ次第御報告申シ上ゲ可ク。）

之レヲ要スル英露両国共ニ自国ノ発展防衛上西藏ヲ併呑セントセル事ハ明ラカニシテ西藏ハ実ニ亜細亜ニ於ケル英露両国ノ勢力防衛上一分銅ナル事尚プルシアノ如ク二国ガ西藏ノ為ニ苦心スル物質上見積額ハ決シテ少ナカラズシテ而モ其ノ効果ハ著シカラザルガ如シ。

露国ハ主トシテ法王ニ金錢又ハ宝玉類ヲ献上シ英国ハ文明ノ実用品ヲ献上スルヲ常トセリ。別紙切抜ニアル如ク今日英ハ又法王ニ銃、劍、馬車等ニ添フルニ英皇帝ノ親書ヲ以テシ遠カラズ見品到着ス可クラ薩ニ於テ “車” ナル者ヲ見ル日モ近キニアル可シト想像セラル。

西藏征府ノ愚昧ナル “利” の外ニ眼無ク与フルニ利ヲ以テスレバ如何トモ成シ得可シ。凡テ秘密主義ヲ固持スル愚官ノミニヨリテ政治ガナサルル故ニ外人ヨリスレバ其

ノ觀察甚ハダ難ク往々西藏人制禦難ヲ聞クモ恩威ヲ以テスレバ極メテ制禦シ易キ民ニシテ帷モ「雖モ？」小女小人^{ママ}の如ク恩ニハナレ易ク威ニハ反シ易シ。

恩威列ベ行ハルレバ西藏拳ゲテ其ノ掌中ニ帰ス可シ。近來英ノ恩ノミニヨリ露ニ対シテハ多少輕侮ノ兆アリ。露ハ組シ易スキ国ナリトノ觀ハ著ルシク西藏上下ノ間ニ表ハルルヲ見ル。頼達法王ノ一侍従曰ハク“目下西藏ハ百人ノ良好ナル Adviser ヲ得ルヨリモ一挺ノ兵銃ヲ要スル時代ナリ”ト愚蒙ノ言亦愚言ナリト雖モ苟モ西藏ヲ經營セントスル者ハ此言ヲ等閑ニスル能ハズト信ズ。

附英文…次ノ如シ

第十ページ

The Dalai Lama

The presents which the government of India is making to Dalai Lama also include a Wilkinson scimitar with a highly embossed blade, two twelve-bore hammerless ejector guns, a costly writing case fitted with polished pigskin and silver mountings, a regulation English saddle with bridle, an embroidered saddle cloth and all accessories, long rolls of best Irish table linen and Setch [Scotch?] tweed, a sequence of English Coinage for 1913, from a sovereign to a farthing, two gold models of a lion mounted on white marble pedestal, two silver photo-graph frames containing water colours of the House of parliament and Buckingham palace [palace?], and a carriage with harness and all accessories, together with three horse being purchased in India. The gifts will be accompanied by a signed letter from the King, enclosed in a most valuable silk scarf.

第十一ページ

調査第二項

（西藏ニ於ケル英兵派遣ノ有無特ニ変装英兵ノ有無（從來英兵ハ江孜ノミ）
ニ將校以下五十名アリトノ説ト察木多拉薩 日喀則、庫の加托克ニ
数多ノ配兵駐屯スルトノ説トノツアリ其ノ真否ヲ明ラカニセント欲ス）

- (1) 中央（拉薩）ニハ英兵ナシ。変装英兵ナキ者ト認ム。
- (2) Shikatse（後藏）ニハ英兵ナシ。変装兵ナキガ如シ。
- (3) Gyantse ニハ英將校一名 英軍医一名及英領印度兵五十名駐屯セリ。半永久の兵

営アリ、変装兵有無不明ナリ。

- (4) Phari 英商務官一名アル外英兵ナシ、変装兵アリトノ説。
- (5) Chumbi ニハ英将校一名軍医一名及英領印度兵 50 名アリ、変装兵有無不明。
- (6) 其ノ他ノ地方ニハ目下英兵ナシ、変装兵ハ国境附近ニ常ニアリトノ説アリ、英領印度兵モナシ。
 昨年（1913）五月拉薩^{ママ}の南東三日程ノ所 Ye 地方ニ某欧州探検家来リ Chethang 地方ニ於テ Yeru Tsangpo（雅魯藏布江）ヲ探検シ写真等ヲ取りタル事アリ、何国ノ人間ナリカヲ明ニセズ、数日後直チニ Bhutan 方面ニ去レリトノ公報政府ニ達セリ
- (7) 南東西蔵ト印度 Assam 境ニ英兵（英将校ノ率フル印度兵）駐屯セリ、Abor 地方ニハ約 300 名アリトノ説アリ、又 Miri 地方ニハ最近 500 駐屯セリトノ公報ヲ実見セリ。
- (8) 其ノ他ノ地方又ハ国境ニ英又ハ英印兵ノアル事ヲ聞カズ。

第十二ページ

調査第三項

〔宗教盛衰ノ現況特ニ達頼ト庫倫活佛及他宗教普及状況。〕

(1) 宗教盛衰ノ現況。

数種ノ宗教アレ共仏教ヲ以テ国教トシ其ノ勢力ニ於テモ之レニ比ス可キ者無シ。Bon ト称スル一宗教及西藏移住者中ニ小^{ママ}数ノ Mahomet 教徒其ノ他尚二三ノ宗教有レ共其ノ存在スラ容易ニ認識能ハザル程仏教ノ勢力威大ナルモノアリ、故ニ茲ニハ仏教ノ盛衰ノ現況ヲ述べ他宗教ニ関スル調査ハ他日ヲ期ス。

試ニ拉薩ノ街頭ニ立チテ行途数万ノ群衆ヲ見ルニ総群衆ノ約二分ノ一ハ僧侶ナリ、又市ノ内外ニアル大寺院ノ如何ニ壯麗ナルカ、幾百ノ参詣者ガ朝夕ヲ問ハズ仏殿中ニ群集シ三拝スルノ如何ニ虔敬ナル大家ハ家毎ニ壯麗ナル仏殿ノ為メニ特ニ別室ヲ設ケテ最下流ト雖モ仏像又ハ仏画像ヲ奉祀シテ之レニ供養敬礼セザルナク拉薩約五万ノ住民ハ勿論西藏人口ノ約十分ノ九以上一人トシテ念珠ヲ有セザル無シ。

拉薩ノ北ニ哩ニシテ Sera 寺院アリ、約 5500 人以上ノ僧侶ヲ常居セシム、約五哩ノ西 Drepung 寺院ニハ約七千七百人ノ僧ヲ有シ約二十余哩ノ東 Ganden 寺院ニハ約三千三百ノ僧ヲ有ス、其ノ他ノ寺院及尼僧寺ヲ合スレバ実ニ多数ノ僧侶及尼

僧ヲ有シ群集ノ半ガ非俗ナル敢ヘテ怪シムニ足ラズ。

西藏宗教ノ過去ハ知ラズ。今日ノ現況スノ如シ僧モ俗モ皆悉ク仏教ニ狂熱シ迷信ノ奴隸トナリテ世事万端皆此ノ迷信ト真正仏教義ニ基カザル者無シ。

然ルニ西藏仏教盛衰ハスクノ如キ皮相ノ状況ヲ以テ判断スルヲ許サズ。先ズ次ノ諸項ヲ熟考セザル可カラズ。

第十三ページ

(a) 僧侶ノ多数ナル理由。(現今ノ)。一ツハ宗教上ノ慣例ヨリ子女ヲ僧尼トスル事(主ニ上流民也)ニツハ生活上ヨリ子女ヲ僧尼トスル事。(中流以下全部)而シテ僧尼ノ多数ハ後者ニ属スル者ト云フ可シ。

(b) 多数ノ大寺院ハ仏教全盛時代ノ遺物ナル事

(c) 仏教ニ熱狂セル万民ハ真ノ仏教の信仰ニ非ラズシテ迷信ナル事即ハチ万事ガ利己心ノ発動ニヨリテ行ハル。毎朝ノ寺院参詣、勸修ノ供養仏等皆単ニ自己ノ幸福ヲ“祈祷”スルノ外ナシ。年少者ハ現在ノ幸福ヲ祈リ、老者ハ来世ノ幸福ヲ祈ル。

(d) 僧裁[尼?]ハ仏教ヲ専修スルノミニシテ之レヲ一般ニ布教セズ。凡ソ布教又ハ開教ナル者ハ絶無ナリ。俗人ハ勝手ニ仏学ヲ修ス。自己ガ悟道ニ入り幸福ヲ得死後楽土ニ生スルヲ祈ル。外他人ヲ省ルノ高僧ハ寥々トシテ晴夜ノ星ヨリモ稀ナリ。

其ノ昔西藏仏教ノ全盛時代ニハスクノ如キ状態ニ非ラザル可シト思ハル。

(e) 社会ノ墮落及ビ腐敗。西藏ノ僧ハ所謂真ノ“出家”ナリ。家ト財トヲ棄テ利慾愛慾トヲ離レ清浄ノ修行ヲナス可キ性質ノモノナリ。然ルニ此等多数ノ“出家”ハ諸罪ヲ犯シテ省^マリミズ酒色男色女色等秘密ニ行ハレ喧嘩、論、詐偽、殺盜、所有十惡五惡ヲモ多少行ハザル無ク俗業タル商工業ニ直接ニ從シテ省^マミズ。我ガ浄土真宗他力信仰利他教化宗ニ籍ヲ有スル非僧非俗ト此ノ西藏ノ“神聖ナル出家”即チ純僧トヲ比較シテ同一仏教徒トハ云ヒ乍ラ如何ニ其ノ懸隔ノ甚ハダシキ。吾人西藏ノ僧ヲ見ル度ニ大聖釈尊ノ聖訓ガ何ガ故ニ斯ノ如キ状況ニ惡変セシヲ思ヒ戰慄措ク能ハズ。

大正元年及二年(1912-1913)ニ於ケル拉薩戦争ノ実況ヲ見ルニ一般兵士モ僧兵モ皆死ヲ恐ルル者ノミニシテ“死ヲ顧リミザル仏教的精神”ト“死ヲ賭シテ君国ノ為ニ忠ヲ尽スト

第十四ページ

云フ国民的精神”ノ存在発動ヲ毫モ見ヲ能ハザリキ。会々勇敢ナル二三ノ志士ヲ認メシト雖モ尚自己ノ名誉ト自利ノ為ノ行動ニシテ忠君愛国ノ美精神ハ遂ニ認ムル能ハザリキ。

別項ニ記セシガ如ク西藏人ガ国王——一天万乗ノ法王達頼ニ対スル虔敬心ノ皮相ガ如何ガ殊勝ナル。

法王ヲ真ノ仏ト信シ真ノ神ト崇メ“Chawang”即チ Blessing ヲ受クル最上ノ徳ト考エ仏殿ニ参詣供養祈祷スルト共ニ法王ヲ恭礼スル事ニヨリテ自己ノ利福ヲ祈リ死後ノ安楽ヲ願フ即ハチ自己ガ利福ヲ得ンガ為メノ“尊王”ニシテ仏ノ鴻恩国王（法王）ノ大恩ヲ感謝スルテフ精神極メテ少ナリ主ニ要求的祈願ノミ。

斯クノ如キ腐敗の精神ヲ有スル人間ニ苟クモ尊王忠君愛国ノ精神ガ存在ス可キ道理無シ。

幸ニ国内異教ノ注意ス可キ無ク仏教ハ動カス可カラザル国教トシテ専制法王ノ下ニアルニヨリ全盛当時ノ外観ハ今尚存在スト雖モ一度全国民ニ教育普及シテ愚昧ノ夢ヨリ醒メタル時異教徒若シクハ真正仏教徒ノ蜂起スルアラバ西藏宗教ニ一大改革ヲ来ス可シ。但シ西藏人ガ迷信仏教ノ夢中ニアル茲数十年間ハ異教徒ノ侵略ハ難カル可ク同種ノ真正仏教ニヨリテ闇迷ノ夢ヲ破スル事一日早ケレバ西藏仏教ノ生命ハ一日ノ長キヲ得可シ。西藏今日ノ仏教ヲ發芽後数百年ヲ経シ大樹ニ譬フレバ其ノ幹根枝葉ノ外形ガ盛況ヲ呈シテ繁茂スルニ関ラズ大幹ノ中心既ニ腐敗又ハ空虚トナリテ一度強風之レニ中ル時ハ最早国家ノ柱梁トナレリ能力無キガ如シ。鎖国ノ旧慣ヲ維持セル高原西藏寒地ニ此ノ仏教ガ盛時ノ余命ヲ保テルハ又冷蔵庫中ノ生肉ノ腐敗セルガ如ク一度之レニ印度平原ノ熱風ヲ触レシタル

第十五ページ

時ハ其ノ生命電光朝露ノ如カル可シ。之レ今日ニ於ケル西藏仏教ノ現状ナリトス。

(2) 庫倫活仏ト達頼利摩

常ニ親厚ノ状態ニアリ。彼此ノ交通絶エズ。国書ノ往復アレ共内容ヲ聞ク能ハズ。時々彼此攻守同盟ノ文意アル事ヲ一侍従ヨリ聞キシ外条約ニ関スル確聞ニ接セズ。両国民ハ彼此相交通スル事自由ニシテ互ヒニ保護ヲ与フ。西藏内ニ蒙古人ノ僧侶多キガ如ク蒙古ニモ西藏ノ僧侶多シト云フ。後蔵^マShakatse, Trashi Lama トDalai ト相ヒ善カラサルニ反シ活仏トハ親交厚キガ如シ。露国ハ活仏ト共ニDalai ヲ掌中ニナレントシテ両者ヲ巧ミニ操縦セリ。

第十六ページ

調査第四項

(支那及英国ニ対スル達頼頼摩^{ママ}ノ向背ノ真意)

(A) 英国ニ対スル意向.

目下英国ニ対シテハ極メテ好感情ヲ有ス. 蓋シ法王ガ印度三年間滞在ト今日迄引キ続キ受ケツツアル親切ニ起因スルナリ. 1903-1904 ニ於ケル Young Husband 西藏遠征ニヨリテ抱カレタル悪情ハ清ク洗ヒ去ラレタリ. 然ノミナラズ 1913 ニ西藏少年四名ニ一名ノ政府代表者ヲ附シテ印度 Calcuth^{ママ} ニ留学セシメントシタルニ英国政府ニテハ之レヲ英京倫敦ニ迎エ旅費, 学費, 手当, 等ハ英国政府印度局ニテ之レヲ支弁シ留学ノ目的ヲ達セシムルノ方法ヲ講ゼシ以来法王ノ対英感ハ愈良好トナリ英ヲ信頼スルニ至レリ. 恰カモ曾テ法王ノ代命タリシ高僧 Ganawang Lobsang^{ママ} ガ 1911 ニ日本本派本願寺ニ留学セシ頃法王ガ日本ニ信頼セント試ミタリシガ如シ (不幸ニシテ日本政府ガ之レヲ関知スル事ヲ避ケシガ為メニ法王ハ其ノ意ヲ果サザリキ) 西藏留学生ノ英国ニ於ケル状況ハ別紙倫敦通信ヲ御参考願ヒ上ゲ.

(B) 清国ニ対スル意向

近来支那ニ対シテハ極メテ悪感ヲ有ス.

蓋シ先年支那ノ駐藏大臣 (Amban) ノ威圧ト駐屯兵ノ横暴ト侵入兵ノ残忍無道ナル蛮行ヲ憤レル結果ナリ.

法王以下百官庶民皆支那人ヲ見ルコト蛇蝎ノ如ク親支党ハ其ノ証跡ニヨリテハ直チニ誅殺セラルルヲ普通トシタトヒ西藏一国ヲ亡ボストモ暴支 (那) ノ権下ニ屈スルヲ得ズト威張レリ. 近来 “独立” ナル語ノ流行セルモ此ノ影響ナル可ク支藏英三国協商ノ容易ニ決着エザルモ支藏ノ折合ヒ悪シキニヨルナル可シ. (藏内支那人ニ関シテハ第十四項参照.)

第十七ページ

From The Land of Mystery

The visit to this country of a party of members of the last of the exclusive nations of the East to mingle with the great world of international relationships is, naturlly enough, exciting the interest and the curiosity of most of us who grasp the significance and the romance attached

to the coming to England of these strange folk from Thibet the roof of the world, as it has not inaptly been termed. A course of education in this country is the object of the visit of the juvenile members of the party, the others having ^マCome to ^マwach over the young people and to make them selves acquainted with western methods.

The Thibetans are all in native dress a very wide gown nearly 6ft. long, with sleeves of great length. The gown is tightened at the waist and gathered up so as not to fall below the ankle. The material is wool, and the younger members of the party are all attired in dark red. The Thibetan officer wears a distinctive blue cape, whilst from his left ear there hangs a series of coloured beads, which serve the purpose on indicating his rank. The headgear of the visitors differs very consid-

第十八ページ

-erably, and while some disport for hats, others are wearing those made of a closely-woven.

THE TIBETAN BOY IN ENGLAND

Students at Welington College.

As I stood in pelting rain outside the house of Mr. Gould at Heath end, near Aldershot, writes a representative of the Dui^マly Mail, a boy sprang out of a shrubbery and opened the door for me. He was dressed in a bright yellow suit, was hatless, and looked for all the world like a Japanese. He grinned broadly and in silence motioned me to enter.

He was Gongkar, one of the ten Tibetans who have arrived in England.

They had just been to Wellington in a “lung-korls” (motor car). I could extract no ^マexp^マression of admiration, for they told me that there were two ears in Tibet. What the younger people did admire, however, was Wellington College.

It is probable that the five younger Tibetans will go to school in England, and they have already fallen in love with Wellinton on account of the “box-like places”(studies)they have seen there.

第十九ページ

First Woman from Tibet

The soul of the party in Mr. Ladenla, who is in the servise of the Indian Government. He

has the manner and tact of a diplomatist. One of his party is related to the Darai Lama, and another, the wife of a tibetan Civil Servant, is the first Tibetan woman to visit England. The five boys are dressed in native garments-long purple tunics with a yellow sash round the waist, like a dressing-gown. Mr. Ladenla assured me that the material was broadcloth sent to Lhasa from Manchester.

I was fortunate enough to be asked to have cha (tea) with our Tibetan visitors. The boys at present are being broken into the Spartan life of an English public school. Work then takes up their time until midday. After that they either motor or play tennis, at which, it is to be feared, they are not yet very proficient.

At 6 p.m., they have a school high tea, and at nine they go to bed.

Ultimately they are to join the Tibetan Government Service. They have been brought here to Ultimately the education that has done so much to produce our own Indian Civil Service. I could not help thinking as I sat at tea with them now

第二十ページ

vivacious they all were, and how different from their brooding neighbour, the India native. They knew, of course, only a few words most excellent use. Mr. Ladenla's son (Tapge) was at school for six years in Darjeeling, and will soon be able to speak English as well as his father. He looks the brightest and cleverest of them all. Perhaps we shall hear of him again. name means "the Conqueror".

第二十一ページ

調査第六項

(西藏軍隊ノ状況殊ニ蕃兵ノ価値並ニ西藏ニ於ケル支那軍隊ノ近況調査)

(第一) 西藏ノ軍政

西藏政府ガ中央集權制ヲ取ルニ及ビ封建時代ノ群王ヲ腐^{ママ}シテ其等ニ一定ノ私領ヲ割与セシ以來兵役ハ一種ノ国税トナリ私領地域ノ広狭ニ応ジテ一定数ノ兵士ヲ出シ奉公セシメザル可カラザル事トナリ遂ニ以テ今日ニ至ル。即ハチ封建時代ノ各王ハ今日ノ貴族トシテ自己領内ヨリ定数ノ兵士ヲ選ビ召集ノ命アラバ服役スルノ制ニシテ身体ノ強弱体格等ニ標準無ク又年齡ニモ制限ナシ私領内ノ臣民(私臣民)ニシテ青年強壯ノ

モノヲ選出スルヲ常軌トス而シテ各兵士ハ自己ノ衣食住ハ自費ヲ以テ支弁セザル可カラザルノミナラズ一切ノ武器皆自弁ナリトス。蓋シ兵制ハ一種ノ人税ナルヲ以テ也。政府直轄ノ領内ニモ亦此制ヲ適用セラル而シテ国家事件ノ緩急ニヨリ此ノ兵士ノ定数ヲ超過スルコトアレ共其ノ増加率ハ其ノ場合ノ政府ガ必要ニ応シ各私領及直轄領ニ賦課ス。此外ニ特種兵トシテ僧兵アリ。平常寺院内ニアル間ハ“僧兵”ナル特種階級アルコトナク政府ガ徴集令ヲ下シタル時ト其ノ寺院ガ出兵ノ必要ヲ認メタル時ニ限り義務ノ又ハ随意的ニ僧兵ヲ偏成シ出陣セシム。古ヨリ僧兵ハ勇敢ノ評アリ。

又ハ“十八六十”兵ナルモノアリ。即ハチ西藏ノ古ノ所謂国民兵ニシテ男子ハ十八歳ヨリ六十オマデハ兵士タルノ義務ヲ有ストナセリ。此ノ国民兵ニ関シテハ本項ノ終リニ於テ稍詳説ス可シ。

(第二) 区分編制序列

- (1) Dün mak' 便宜上今茲ニ第一 Dün mak 及第二 Dün mak' ト命名シテ略説セン（實際此ノ区別アルニ非ラズ。仮ニ適宜ニ名ケタルモノ）第一 Dün mak' トハ常備現設ノ如ク經常ニ於テ

第二十二ページ

税制ニヨリ徴集セラル可キ兵士ニシテ常ニ約三千人アリ即ハチ

中	Lhasa	1000	3000 総数
心	Shikatsé	1000	
地	Gyantse	500	
名	Tengli	500	

此三千アリ。称シテ Dün mak' (Dun ma') ト称シ現役兵ノ如クナレトモ常ニ服役スルニ非ズ年ニ一回各中心地ニ集合シテ検閲点呼ノ如キモノアル外平常ハ自家ニアリテ家業ニ従事シ傍ラ各自ニ武ヲ練ル。(刀剣, 弓術, 銃射, 投石, 槍術, 等ノ類也)

第二 Dün mak' トモ云フ可キハ国家ガ戦争ヲ予期セル場合又ハ戦時ニ於テ經常ノ税率ヲ増加スル際定数以上ノ稍劣等ナルヲ免レズ蓋シ個人的訓練ニ欠クヲ以テ也。

- (2) Ser-mak' 第一 Dün-mak ヲ以テ不足ヲ感ズル時第二 Dün-mak' ヲ召集スルト同時ニ通常 Ser mak' 即チ僧兵ヲ召集スルガ常軌ナレ共最近ノ実列ニヨリテ見レバ第一 Dün-mak' 出兵ト同時ニ僧兵ノ徴兵集有リ。又昨年ノ拉薩戦争ノ場合ニ於テ増兵ハ自動自出シタルモノニシテ政府ノ命令ニヨリシニ非ラズ。必要ト認ムル時ハ僧

兵ハ命ヲ待タズ。独立偏成シ自由行動ヲトルノ实例ヲ見タリ。

元来序例編成等ニ確乎シタル法規アルニ非ラズ。否規定アリテモ実行セラレズ。規定ハ別個トシテ政府ハ臨時手順ヲ講ジ、成り行き主義ヲ取ルガ如シ。

Ser mak (僧兵) ニハ一定ノ数ナク政府ガ一定数ノ徴集ヲ命スル時ハ寺院ノ最高級官ガ選抜シ又ハ志願方ニヨリテ数ヲ充タス。僧兵ガ独立行動ヲトル時ニハ其ノ数編成等ハ指揮者任意トス。

第二十三ページ

- (3) “十八六十” 兵。即国民兵ノ如キモノニシテ Dün mak^マ, 及 Ser mak (僧兵) ノ出師ヲ了レバ男子国民ハ十八ヨリ六十二至ル者皆ナ悉ク出兵ニ従フノ義務ヲ有ス。此規定ハ今日ニ於テハ実施セラレズ。所謂 “十八六十” ノ国民兵ハ上流貴族ヲ除ク外——即ハチ下流民ニ於テノミ此ノ方ヲ適當セラル。

- (4) 兵種及組織 (指揮官)

兵種ハ事実ニ於テ “歩兵” ノ一種ニ限ラル。此ノ歩兵ガ運動ヲ起ス時ニハ場合ニ応ジ騎乗スル事アリ。之ヲ仮リニ騎兵ト俗称スレ共戦地ニ臨スハ騎乗シテ戦闘セズ。砲兵モ工兵モ皆歩兵ノ専用也。彈藥食糧ハ自己携帯ナルヲ以テ輜重兵ヲ用セス。要スルニ歩兵一種ニテ全部ヲ兼ねタルモノト見テ可ナリ。此ノ兵ガ如何ニ部署セラルカトナレバ日本等ノ如キ師団——中隊等ニ偏成セラルニ非ラズ。指揮官ニヨリテ大凡次ノ如ク組織セラル (但シ新式ヲ除ク)

兵 1000 人ノ頭ヲ……Däpün ト云ヒ	}	Chin da (総大将) 之レガ総司令者トナル (一人ニ限ル)
〃— 250 〃 ……Rupün		
〃〃 100 ……Gyapün		
〃〃 25 ……Shelngo		
〃〃 10 ……Chu-pun		

通常平時 Däpün ハ四名 Rüpün ハ六名アリト云フ。但シ今日實際ニ於テハ十数名ノ Däpün アリテ是等ノ規定ハ今日名ノミ存シテ實際トハ其ノ数量ヲ異ニセリ。

尚此等ノ編制序列等ニ関シテ些細ナル規定アリ。兵種ノ区分ニハ制服ノ色彩ヲ異ニセル有レ共今日ハ之レヲ実見スル能ハズ。他日ノ歴史の研究ニ譲リ次ニ現今西藏軍隊ノ状況及其ノ価値ヲ述ブ可シ。

第二十四ページ

第三 現今ノ状況及其ノ価値。

- (1) 兵士ノ数. 新式兵約二千及旧式兵約一万五千ノ出兵実力ヲ現在ニ於テ充分有セリ但シ此等ノ兵ハ一般青年強壯者ニシテ体格及年齢標準ヨリテ召集スルニ非ラズ.
- (2) 武器ノ数量. 新式ライフル銃単発又ハ五連発ニシテ政府支給ノモノト各兵私有ノモノト合シテ二三千ノ数ニ達ス可キ見込ミナリ.

旧式西藏火縄鉄砲ハ旧式兵ノ数ニ応シ携帯スル事ヲ得. 此ノ外ニ刀剣, 槍, 及, 弓, ノ数種アリ. 旧式兵ハ多少之レヲ有スルモノト見ル可シ.

- (3) 武器ノ種類及価値. 新式銃ノ中ニハ支那及露国独逸ノ古手兵銃英米ノ獵ノ古手小銃日本ノ三十年式ノ古手又ハ騎兵銃ノ少数アリ. 何レモ皆完全ナルモノトハ云フ可カラズ. (新品ハ極メテ少数ナレバナリ) 此ノ外ニ政府銃工場ニテ毎月一挺ノ平均ニテ文明兵銃ヲ横造〔模造?〕セル者少数アレ共火力著ルシカラズ. 次ニ旧式ノ西藏火縄鉄砲ハ各自ノ嗜好ニ応ジテ製シタルモノナレバ大小長短一ナラズ.
- (4) 弾薬. 新式ノモノハ夫々種類ニ応ジ外国ヨリ密輸入シ又ハ西藏内ニテ模造ス. 材料ハ印度方面ヨリ密輸セルガ如シ旧式ノモノハ土製火薬ヲ使用シ丸ハ鉛製ノ球状ノ子トス.
- (5) 武器ノ実力. 種類ノ区々別々ナルガ上ニ完全ナラズ. 殊ニ土銃ノ不一定ニシテ火縄銃口丸ツメ式ノ銃ハ雨天ニハ何等ノ実力ナク目下射撃巨離 200 metre 以上ニ於テハ殆ンド効力ナシ. (200 metre 以内ニ於テハ其ノ破碎力ハ文明国ノ兵銃ニ優ル.) 要スルニ土式銃ハ 200 m 以上ノ巨離ト雨天ノ夜間ト戦争ノ撃烈 (繁忙) ナル時ト被蔽物遮避物ナキ場合ニ於テハ殆ンド無価値ノ長物ナリ.

第二十五ページ

- (6) 教練 旧式兵ハ前述ノ如ク自家ニアリテ各自ニ武ヲ諫ルノ外年々一回ノ集会アル外特ニ教諫ヲ行フ事ナシ.

新式兵ハ支那式 (日本ノ二十八年頃ノ式) 及ビ露国式ノ折衷式也. 目下蒙古人ノ教官アリテ主トシテ露式ヲ教エ西藏人又ハ支那人 (西藏帰化人) ガ支那式ヲ教フ. 而シテ一般教諫ハ兩式ノ折衷トナリ. 其ノ幼稚ナル事我ガ国小学校ノ学生ノ如ク到底中学ノ中隊教諫ニ匹敵スル能ハズ. 而シテ此ノ教諫ハ中隊若シクハ中隊以下各国教諫ヲ主トシ時ニ実弾射撃ヲナス外特別演習又ハ戦闘教諫アル事ナシ. 此新教諫ハ教官ノ不足ト経財上ヨリ中隊以上ノ兵員ヲ養成スル能ハズ. 従ツテ大隊以上ノ教諫ヲ行フ事無ク又現今ノ西藏人ニハ良教官ヲ得ザル限り大隊以上ノ協同動作ヲ要スル実習ハ望ム可カラズ.

普通日々ノ教諫ハ朝一回ニシテ時々短巨離ノ行軍ヲナス事アリ. 教諫ハ約一時

間乃至二時間ニシテ了リ他ハ兵士ヲ開放ス。(目下新式兵ノ粗教諫ヲ了エタルモノハ悉ク^{ママ} Khama ノ交戦地ニ向ヒ現ニ残レルハ特別兵ト云フ可ク税法ニヨラザル孤独者ヲ集メテ衣食住ヲ給シ所謂“雇兵”ヲ養成ス。十五六才ヨリ三十五六才ノ年齢ノ者体格不整一ノ現兵約二百名アリ。)

- (7) 兵ノ衣食住。新式ニアリテハ服役中(期限一定セズ)新式銃ヲ貸与セラレ日々“食”ノ補給ト僅カノ手当アレ共是レ生活ニ充分ニ非ラズ。幾分ハ私費ヲ以テセザル可カラズ。住所ハ服役期間政府立ノ建築物ノ収容シ得ル限り之レニ満テ然ラザル者は知人等^{ママ}ノ宅ニ寄留スルヲ常トス。目下拉薩ニハ各種ノ新式兵ヲ合シテ約500名アリ。(旧式兵ハ“服役”無キヲ以テ除外ス。)要スルニ服役スルト否ナトハ其ノ時ノ政府ノ都合ニヨリ一般ノ義務ニ非ラズ。所要ニ応ジ新式教諫ヲ施スモノノ如シ。

第二十六ページ

戦時ニアリテハ旧新ヲ問ハズ日々一定ノ手当アリ十銭以上二十銭以下ノ俸給トス。目下服役中ト戦時ニ限り支給セラル。

- (8) 実戦ニ於ケル西藏兵ノ新価値。
- (a) 体格一般ニ善良強壮ナルガ上ニ天然ノ障碍ニ堪フルノ特性ヲ有ス。即チ寒烈ナル天候、險悪ナル地勢^{ママ} 粗食粗衣ニ甘ンズル事^{ママ} 不規則ナル生活ニ習熟シ数日間ノ不眠減食等ニ経験アル事等実戦ニ必要ナル特性ヲ具備ス。
- (Kham 地兵ノ人種ハ愚昧ノ太ハダシキ為メニ殆ンド文明ノ利器ノ恐れ可キ事ヲ知ラズ頗ル盲勇ノ者也。)
- (b) 武器ノ威力ハ前述ノ如シ。
- (c) 戦闘法ハ個人闘ニシテ統一アル指揮ノ下ニ行ハルルニ非ズ。平常ニ於テハ Chupün (即十人ノ指揮者) 以上 Dăpün (1000人ノ指揮者) ヲ見レ共実戦ニアリテハ我国ノ如ク例ヘバ大隊長ノ命令ガ統一的ニ各戦士ニ通達スル如キモノニ非ズ。要ハ各個戦闘ノ範圍ヲ出テズ。新教練実施以来ノ実戦有様ヲ聞カザル故今後ノ戦振りハ如何ナルカ——多少変化アル可シト思ハル。
- (d) 戦略及戦術ナル者ハ極メテ幼稚ニシテ殆ンド児戯ニ類スルガ上ニ愚昧ノ甚ダシキ“戦略戦術”何ノ為メニナルカト嘲弄スル者多シ。
- (e) 軍人ノ知識ハ殆ンド絶無ニシテ読ミ書キノ出来ウル者極メテ少ナシ。指揮官ハ相当ノ智識アレ共読、書、算ノ外ニ多少武ニ熟練セルモノトナス。
- (f) 彈藥糧食ハ各自携帯ニシテ糧食ハ其ノ附近ノ地ヨリ徴ス。即自国内ニ於テ兎

ニ角外国ニ侵撃スル如キハ甚ハダ至難ナリトス。(古代ハ智ラズ、今日デハ殆ンド不可能也)

(g) 忠君愛国ノ精神——軍人精神ナルモノハ殆ンド認メス)

第二十七ページ

(9) 西藏軍人精神価値.

別項ニ述ベシガ如ク軍人タルト僧侶タルト一般人タルトヲ問ハズ“忠君愛国”ノ精神ハ絶無ニシテ進退万事自己ヲ中心トシ国家ノ危急若シ直接自己ニ関スト思考スルトキハ勇奮スルモ然ラザル時ハ私情ヲ訴エテ出陣ヲ辞スルニ踴躍ヲ以テシ之ヲ為ス能ハザル者ハ戦地ヨリ退却スルカ逃亡スルカ又ハ降服スルノ一ヲ選ブヲ普通トス。臣民(自己)ト国家ガ其ノ利害ヲ別々ニスル国ニアリテハ国家ノ危急ハ必ラズシモ臣民ノ危急ニ非ラズ。臣民ト国家ガ利害ヲ別ニスル事ハ事実上有リ得ベカラザル事ナレ共西藏ニアリテハ各人ガ勝手ニ君ト国家ト人民トヲ區別シ各孤立セルモノト思惟シ万事自己ヲ以テ中心トスルヲ以テナリ。

義務アルガ為メニ戦ハザル可カラズ，“税”ナルガ為戦ハザル可カラズ，上流貴族ニ非ザルガ為メニ戦ハザル可カラズ，即吾等ハ“軍人”テフ一階級ニ生ルルノ因縁ヲ有セシガ為ニ戦ハザル可カラズ。テフ精神ハ一般西藏軍ノ覚悟ニシテ幸ニ“不平的”觀念少ナシ。若シ国民ニ今日ノ如キ兵役ノ義務ニ有無ノ差ヲ生ズル事上流ト下流トニ其ノ有無ヲ生ゼル事上ハ権大ニシテ義務小下ハ権無義務大ナル事ヲ思考シテ茲ニ不平觀社会義務權利ノ均等主義ヲ起スニ至ラバ西藏軍人ハ一般下流民ト共ニ革命ヲ称エザル可カラズ。ト雖モ自己ノ今日ヲ以テ凡テ“前世ノ因縁”ト信ジ因縁ノ不完全社会ノ欠陥アル事ヲ恨ラマザルノ愚民ノ可憐ナル精神ハ寧口愀然タルモノニシテ専制国民ノ不遇ト云フ可シ。故ニ政府及指揮官ガ暴圧手段ヲ以テ兵士ヲ命令スル時ハ外国ノ強敵ニ遭ヒテ一時敵愾の勇敢性ノ發揮シテ忠勇精神ノ発動ニ類スル者無キニ非ズト雖モ恒続常在ノ真正精神ニハ非ザル也。

第二十八ページ

抑モ西藏軍人ガ以上ノ如キ精神アルニ至ラシメタル由来ハ

(a) 兵役ガ一種公平ヲ欠ケル課税法ニシテ国民ニ義務ノ有無ヲ生ゼル也。(同シク兵士中ニテモ通常指揮者ハ主ニ上流ヨリ出デ *Dānpūn* ノ如キハ殆ンド世襲の將官ナリ。兵士ハ永久下卒トシテアラザル可カラズ) 上流ニハ兵役ノ義務無ク中流ハ随意ノ状態ニテ之レアルニ下流ニ限ラル。斯ノ如キ慣例ニヨルヲ以テ軍人ニ

忠君奉公ノ念生ズ可キ理由ナシ。

(b) 国体ヲ異ニスルコト、君主^{ママ}と国家ノ臣民一元来此三者ハ同一利害ハ元ニアリテ相離反スベカラザル筈ノモノヲ西藏ニ於テハ個々別々ニ思考ス。即人民ニ国家的觀念無シ。西藏ノ君主ガ誰ナリトモ国体ガ何ナルトモ又ハ属ニテモ独立国ニテモ自己ト無關係ノ他人ガ如何ナル状態ニアリテモ要ハ“自己”ガ幸報ヲ受クレバ足レリテフ誤解矛盾觀念アルヲ以テ君ノ為国ノ為テフ念露起ル道理ナシ。

之レヲ要スルニ西藏ハ目下万事維新ノ緒ニ在リ以テ一定ノ論ヲナス能ハズ。兵制等ハ常ニ改革アルヲ以テ今後時ニ応ジ其状態ヲ報告スルヲ忘レザル可シ。

(第四) 支那軍隊状況

- (1) 一昨年冬(1912)中央西藏ノ支那兵ハ将卒一人モ残ラズ西藏外ニ驅逐セラレタリ。(西藏人強ガ為メニアラズ支那人無能ナレルト本国ヨリ万里長蛇ノ糧食彈藥ノ補充ノ道絶エタルガ為也。例エバ本国ヨリ西藏拉薩迄^{●●●}年間ノ糧食彈藥ヲ輸送スレバ途中ノ実費ヲ差引拉薩ニ着スル絶対価値ノ糧彈ハ約三四^{●●●}ヶ月ノモノト減スル理ノ如シ。)

第二十九ページ

現今 Lhasa, Gyantse, Shikaki^{ママ} [シガツェ?] 及 Chumbi Valley 等ニハ一人ノ支那兵ナシ但シ一昨年拉薩戦争当時ノ支那兵ハ主ニ湖南、湖北、四川ノ各省ヨリ来リシモノニシテ我廿七八年式ノ教諫ヲ有シ将校中ノ或ルモノハ日本語殊ニ軍語ヲ能スルモノアリシガ彼等ハ悉ク既ニ本国ニ帰着セリ。

- (2) 東部西藏 Kham 地方ニハ多少ノ支那兵從來駐屯セルモノノ如ク目下西藏兵ト交戦中ノモノ約壺千アリト云フ。全数ノ駐屯兵ハ打箭爐ニ至ル迄約二千乃至三千ノ数ニ達ス可シト云フ。(西藏政府ニテハ東部打箭爐ニ至ル迄西藏国ト見ナシ居レリ。)而シテ此是支那兵ハ純支那人ノミニアラズ。西藏人即チ Kham 人種ノ混同セルモノ頗ル多シト——当局者ハ語ル。尚此等ノ支那兵ハ新来侵^{ママ}の兵ニ非ザル事モ事実ナリト云フヨリ察スレバ支那本国ヨリ当分新征軍ノ来ル事ナカル可シト想像サル。而シテ略之ト同数ノ西藏軍ト交戦中ニシテ一勝一敗優劣無キヨシ察スレバ支那軍ハ強大ナルモノニ非ラザル事ヲ察スルニ足ル。

目下兩軍ノ対陣地ハ Chamdo (察木多) Traya ヲ中心トシテ Biru (?) 地方ニ於テハ支那化 Kham 軍ト西藏軍ト交戦中ナリトノ伝報ニ接セリ。(政府着公報)其ノ他ニ支那軍ノアルコトヲ聞カズ。

第三十ページ

調査第九項

{西藏内外ノ通信連絡法}

(第一) 西藏内通信連絡法

(A) 西藏政府郵便

大正元年ヨリ二年(1912-1913)ニカケ法王ガ印度ヨリ帰藏ノ通^{マ マ マ マ} Chtunkor-^マyantse
[チュンコルヤンツェ]ニ滞在中ノ計画ニ属シ1912十一月始メテ国都^マ Lbash^マ 及
Chlunkar-^{マ マ マ マ}yangtse 約40ms間ニ試施セラレタリ。

今日(1914-January)ニテハ既ニ^{マ マ} Lbash-Gyantse 間145哩ヲ約50時間ヲ以テ達
スルニ至レリ。目下更ラニ之レヲ Phari ニ延長中也。

^{マ マ} Lbash 及 Gyantse 間ニ於テハ毎日午後五時ヲ以テ□²⁾ 各兩地ヲ發スル郵便飛脚
アリテ毎日又略同時刻頃(午後五時又六時頃)兩地ニ達ス可キ時間割ニシテ兩地
間ニハ約五哩毎ニ交代家屋ヲ設ケ各飛脚ハ各五哩間ヲ走ル手ニ小剣ヲ持シ駝ケ足
ニテ進ムコト印度 Darjeelings 州ニ於ケル制度ヲ模倣シタルモノナリ。此当地間
ニハ約壹万六千尺以上ノ峠ニケ所アリ。(一ツハ Khamba La 他ハ Karo La トス)

道路ハ一般ニ惡道ノ処多シ。目下通用セリ西藏切手各種別紙ニ附添ス。勿論西
藏以外ニハ通用セザルモノ也。

(B)³⁾ 其ノ他通信連絡法

政府タルト民間タルトヲ問ハズ一切臨時所要ニ応ジテ飛脚ヲ發シテ事ノ緩急ニ応
ジ或ハ騎乗シ或ヒハ歩行シテ之レヲ運搬ス。

第三十一ページ

西藏内地ノ大部分ハ現今此ノ法ニヨリテ通信連絡ス。騎乗用トシテ主ニ馬又ハ騾
馬ヲ使用シ駝駝ヲ使用スル処モ有リ但シ水路ハ片道ノミニシテ遡航スル事ヲ知ラ
ズ。

(C) 西藏内ニ於ケル英ノ郵便電信

印度 Shiliguri [Shinguli?] 又ハ Darjeeling ヨリ西藏ノ Gyantse ニ至ル約二百一十
余哩間ハ普通便ヲ5日トシ最速ヲ三日トス。(最速ハ一般ノ通用ニ供セラレズト
云フ)郵便夫ノ運搬法ハ Darjeeling 州ノ其ト同シク時ニ騎乗ヲ用フル場合無キニ
非ラズ。此兩地方ノ發着ハ毎日一回ナリトス電線ニ^{マ マ}二線を使用シオレリ。料金ハ
印度内地ニ等シ。(但郵便ノ料金(小包)ハ印度内地ヨリハ高率ナリトス。)

(第二) 西藏外ニ対スル通信連絡法

- (A) 印度方面ニ対シテハ中央拉薩ヨリ Gyantse 迄ハ西藏郵便ニヨリ Gyantse ヨリ印度へハ英国郵便電信ニヨル外拉薩印度間ニ西藏政府独立ノ通信連絡法もあり。即郵便制度ニヨラザル飛脚ノ往復セルモノトス。
- (B) 支那、蒙古、Bhuten Nepal、等ニ対シテハ旧式飛脚便ノ騎乗又ハ歩行ニヨリ必要ニ応ジ相往復スルノ習慣トス。(支那ノ駐藏大臣アリシ頃ハ支那西藏及印度間ニ支那式ノ郵便制度実施セラレタレ共目下ハ絶亡セリ) 此ノ旧式ニヨリ飛脚法ハ一定ノ時間ニ制限トシ緩急ト事ノ大小ニヨリテ個々別々トナリ若シ通常往復セル飛脚又ハ商人等ノ速度ヲ基準ニシテ各地ニ達スル平均日数ヲ別記スレバ次紙ノ如シ。

第三十二ページ

- (i) 支那打箭爐へハ通常二ヶ月早ケレハ四週間。
- (ii) Nepal 首府 Khatumandu へハ約二十日間。
- (iii) 蒙古 Urga へハ通常四ヶ月早クテ 50 日間。
- (iv) 拉薩ヨリ Darjuling 間ノ旅程ハ約二十日間ヲ普通トス此当地間ノ巨離ハ約 350 哩ナリ。

附 4)

切手及消印付画葉書一枚

no	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
Sample					
Name	Tram-ka stamp	Shokang stamp	chhegye stamp	Karma-nga stamp	Kha-Kang stamp
Price	我十六錢 乃至十七錢	我十錢余 ニ相当ス	我八錢 余ニ当ル	我五錢余	我二錢七厘

5)

post card

大正元年二月分
西藏拉薩
青蓮

参謀本部御中

切手
stamp

(1) 西藏郵便ニ就テ
郵便制度ヲ建テタル動機ハ通信連絡上即国内交通上ノ為ニ非ズシテ政府ガ収益手段ノ一法ナリト当局者ハ断言セリ。

(2) 郵便物トシテ小包、書信、及替為、ノ三種ニシテ普通郵便ト書留郵便ノ二種アリ。

(3) 一般ニ其規模小劣、万事殆ンド兒戯ニ類ス。

(4) 切手用紙ハ土製、印刷ハ木刷、直接スリワケタルモノ色彩モ同種土製インキナレバハゲル又水ニ入ルレバ共ニ溶解ス。

(5) 日付消印ハゴム版ノ粗製、日付時間ハ局員ガ肉筆ヲ以テ記入ス

表 (裏ハ法王宮ノシャシン)

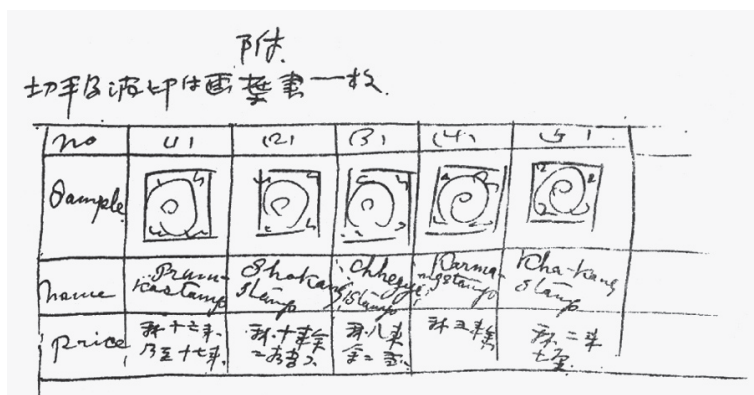


图 1

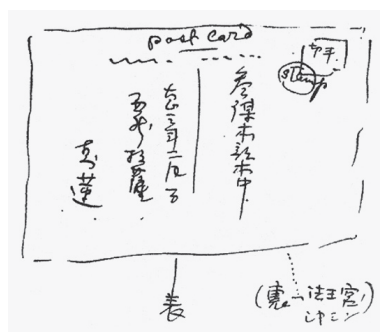


图 2

第三十三ページ

附◎⁶⁾

No.	1	2	3	4	5
	カラシシ図		〃	〃	唐獅子図
	唐獅子図	〃	〃	〃	唐獅子図
名	one Tramka	Shokkang	Chegye	Karmanga	Khakjang
値	我十六七銭	〃十銭八厘弱	八銭程	〃五銭程	〃二銭六七厘

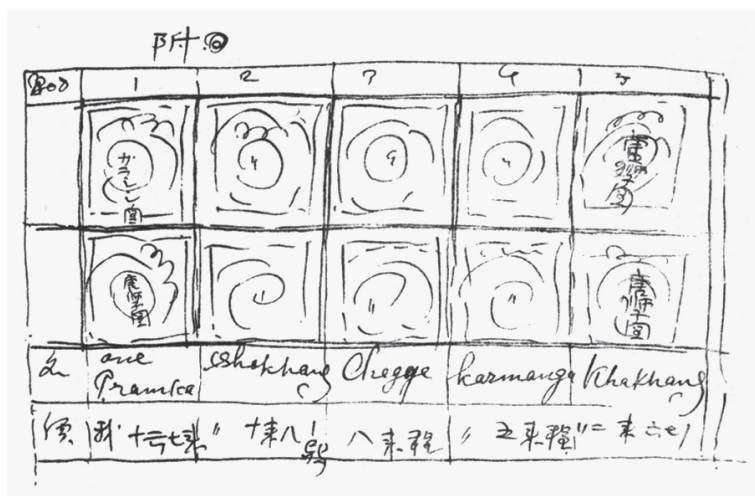


図 3

調査第十項

{ 西藏人ノ外人ニ対スル意向，殊ニ日本人ニ対スル感情ヲ詳細ニ知悉シタシ。 }

（第一） 中央拉薩

（A） 一般外人ニ対スル感情.

法王始メ官民一般ニ文明ノ外人ニ対シテ好感ヲ有ス。彼等ノ入蔵ヲ欲スト雖モ西藏ヲ併呑セラルルノ患アリト耶蘇教ノ侵入ヲ憂フルトニヨリ今尚鎖国主義ヲ継続シツツアリ。但シ西藏ト人種及宗教ヲ同クスル蒙古人，日本人，ネポール人，等及従来ノ例ニヨリ Mahomet ノ商人等ノ入蔵ヲ防ガズ。此等對外好感情ハ最近ノ風潮ニシテ法王ガ印度ニ於ケル三年間ノ滞在ニヨリ学ビ得タル結果ニシテ文明人ハ賢ナルガ上ニ畏ル可キ威力ヲ有スルモノナリトノ概念アリ茲ニ至リシモノナル可シ。

第三十四ページ

日本人ニ対スル感情

少数ノ上流西藏人ヲ除キ一般ニ“日本国”ナル存在ヲ知リタルハ極メテ最近ニシテ日本ナル者ノ概念ヲ得シハ吾人日本人ノ入蔵即 1912-1914 ニ至ル近時ニ属ス。然レ共日本ガ世界ニ於ケル一強国ナル事ハ上流ノ少数ヲ除キテハ知ルモノナシ。曾テ法王ガ支那ニ行キシ当時（今ヨリ六七年前ノ事）ハ日本ハ支那ノ属国ニシテ日清戦争ニヨリテ独立セシモ宗主権ハナキ支那ニアリト云フガ一般西藏国民

ノ頭ニ普編セルヲ今日学ブコトヲ得タリヨ一ヤク日本ナル概念ヲ得始メタル今日
日本人ニ対スル感情^{ママ}を記スルハ至難ニシテ定評ヲ下スコト与ハズト雖モ此ニ西藏
ノ法王ト日本人及ビ上流ノ小^{ママ}数ガ日本人ニ意向^{ママ}の由来及ビ現下ニ於ケル対日観ヲ
略記ス可シ。

(1) 「法王ト本願寺。」

- (a) 支那五台山ニ於ケル会合（今ヨリ六七年前ノ事）
- (b) 印度 Darjeeling ニ於ケル会見（1910）
- (c) 法王ハ本願寺ニ身分位置学位高キ高僧一名ヲ留学生トシテ派遣セリ（1911）。
法王派遣留学生ノ海州ニ出遊セシ嚆矢（？）（該高僧ノ写真ハ次章ノ別紙ニアリ。）
日本留学後十ヶ月ニシテ西藏国難アリ。法王ニ從ヒ印度ヨリ還藏シ目下宮殿ニ住
シ法王ニ從属ス。日本再遊ノハズ也。
- (D) 壱千九百十二年ニハ本願寺ヨリハ留学生（小職）入藏アリ。是レ法王ガ外
国人ニ入国証旅券ヲ下附シタル異例ニシテ英清英露ノ協定条文ニ特別解釈ヲホド
コシタル者也ト聞ク
- (e) 1913 本願寺僧（多田等観）入国モ許サル。

第三十五ページ

同時ニ日本僧侶ハ拉薩ノ三大寺；—— Sera, Drepung, Gander, ——ニ入寺スルト云
フ勅アリ同僧ハ目下 Sera ニ入寺セリ。

- (f) 1912-1913 法王ハ日本ニ対シ留学生ノ教育ニ附キ援助ヲ受ク可ク紹介中ナレ
共日本政府又ハ本願寺ヨリハ相当ノ返答ナシ。

(2) (a) 法王ト日本政府

法王ハ本願寺ヲ經由シテ日本政府ト親交ヲ結ブ為ニ常ニ書面ノ往[●]アレ共復[●]ナシ。

- (b) 法王ハ本願寺又ハ他ノ日本僧ヲ經由シテ日本天皇陛下ニ親書ヲ進呈セラレタ
ルコト兩数回アリ。西藏政府ニ於テハ各国ノ国書国王ノ私親来アレ共日本側ヨリ
ノ文ハ目下一ツモ無キハ目下一異彩ヲ放テリ。

(3) 法王以下一般上流社会ガ日本人観

- (a) 彼等ノ吾人（入藏セル現住日本人）ニ対スル感情ハ良好ニシテ吾人ガ個人ト
シテ受クル好意ハ有望ナリ。彼等ノ日本人トシテノ吾人ニ対スル評ハ次ノ如シ。
（但シ彼等未ダ日本人ノ真相迄見スカス与ハザレバ其ノ誤解セル点ハ少^{ママ}ナカラズ。
- (i) 日本人ハ温良ニシテ才智ニ富メル勇士也。
- (ii) 勤勉ニシテ清潔ナル人種也。

- (iii) 個人主義ニシテ何等西藏国利ノ為メニ事業ヲ起スノ勇志ナキハ遺憾也。
- (iv) 本国ノ政府ト没交渉ニシテ今日迄何等国家的代表生ノ行動ノ認ムルナク。
- (v) 忠告提案共ニ巧ミナレ共一^{ママ}篇ノ実力ヲ以テ他ヲ利スル事ナシ。

第三十六ページ

西藏自国ガ抑モ如何ナル国情ノ国カ又吾人ハ日本人ガ如何ニシテ入蔵シ居ルカラ根本的ニ解セザル愚民ガ此ノ評ヲナスハ怪シムニ足ラズ。

吾人入蔵邦人ガ西藏当局及法王ヨリ特別ノ厚遇ヲ受ケ一般上流ヨリ寧口歡迎セラルルニモ拘ハラズ其ノ利権ハ絶無ニシテ彼ノネポールヨリモ劣等視セラル即吾人ハ西藏ノ法律ニ服従ス可キ義務アレ共ネポールニモ其ノ義務ナキガ如シ

- (4) 若シ西藏法王及当局者上流社会ガ日本ニ対スル希ヲ有リノ儘ニ列記スレバ次ノ如シ——

《a》日本政府ノ代表者特派員ノ派遣ヲ望ミ公式ト非公式トヲ問ハズ公然ト秘密トヲ論ゼズ常ニ拉薩ニ駐在スル一名（又ハ数名）ノ日本人アル事ヲ期待ス。

《b》軍事一切及最新式ノ武器ノ関スル留学生ノ養成，文明武器ノ輸入，同武器ヲ西藏内ニテ造リ得ル様設備スル事，及此種ノ教師派遣ト同時ニ処要ノ資材ノ輸入等ニ関スル日本政府又ハ私人ノ助援ヲ期待ス。

《c》各種ノ工業及鉱業農業ニ関シ実力的ノ援助ヲ日本政府又ハ私人ノ有志家ニ望ム。（技師等鉱山ノ性質鑑定者ハ勿論必要ナレ共鉱山ノ種類又ハ其ノ発見等ニ関スル調査家ハ不必要ナリ。要ハ調査鑑定ヨリハ實際ニ於テ金等ヲ発掘又ハ採集シテ實用ニ供セシムルノ人ヲ望ム，ト云フガ西藏愚人ノ希望也。

(C) 結論

要ハ何レノ国民ヲ問ハズ西藏^{ママ}の為メニ多少ノ実利ヲ計ル篤志家ニ対シ最モ之レヲ畏敬シ感謝ス，若シ夫レ此レ等ニ有志家ニシテ西藏人ト“種”ヲ同ジクシ“教”ヲ同ジクス者アラバ西藏ノ経営者トシテ最適當ナル可ク西藏人ガ今日ノ如愚昧状態無教育ノ境域ニ有ル間ハ（少ナクトモ今後三十年間）ハ異人種異教徒ハ西藏経営者

第三十七ページ

トシテハ不適任ニシテ西藏人ハ決シテ是等ノ徒ト同化シ難ク可ク“恩ト威”ヲ以テスル要ハ茲ニアリ。

西藏当局ノ衆愚ハ曰ハク“文明国ヨリ百人ノ良顧問善指導者ヲ得ルヨリモ一人

ノ実力者ヲ望ム”ト未開ノ愚民ヲ開發經營シテ自己ノ利權ヲ扶植セントスルニハ多少常識以外ノ行動ニ出デザル可カラズ。万金ヲ得ル方策ヲ授クル事ヲ止メテ尅錢ヲ与フルノ主義ヲ取ラザル可カラズ。近來英ガ稍勢力ノ基礎ヲ有スルニ至レルハ単ニ“物品”ヲ与フルト云フ兎戯的政策ニシテ之レニ“英”ト云フ威力ヲ示シタルヲ以テ也。夙ニ西藏經營ニ着眼セシ露國ハ近時迄英ノ以上ニ勢力ヲ有セシモ之レヲ威圧スルノ手段ヲ忘レタルガ為メニ多少輕蔑セラルルニ至レリ。吾人ガ拉薩ニ在リテ西藏政府ノ真情ヲ見“若シ吾ガ英人ナラバ”ノ感無クンバ有ラズ。

即チ吾人ガ若シ英人ナラバ西藏内ニ雄固トシテ動ス可カラザル利權ノ基礎ヲ獲得スル事今日ノ如ク容易ナルハ無シト思考スレバナリ。(英露、英清条約等ニ抵触スル事ナクシテナシ得可ケレバナリ)蓋シ大英モ既ニ衰退シ老紳士の態度ナルガ上ニ英ノ内政外政多事ノ状ナレバ西藏ニ對シテモ全力ヲ注グト云フ能ハザル可ク目下ハ英領印度政府ノ直轄事業位トシテ西藏ニ勢力扶殖ヲ計レルモノノ如ク英本國ノ西藏トノ直接交渉ハ頻々ナラズ。吾人ハ英ノ為メニ之レヲ惜ムト同時ニ各國ノ西藏經營ニ着手スルコトノ一日モ早カラコトヲ望ムト共ニ大亜ヲ經營セント志セリ我日本帝國ガ滿蒙ヨリ露ヲ驅逐スルト同時ニ西藏ヲ他手ニ委センコトヲ務メンハ先ズ支那ノ安全ヲ計リ我が勢力ノ全支那ニ發展スルノ日滿蒙ハ自カラ手中ニ歸ス可ク中亞及印度ペルシャノ征服又困難ニアラズト信ズ。

第三十八ページ

(第一)⁷⁾ 地方。

(a) 後藏首都 Shikatse ニ於ケル Trashilhunpo, Trashi-Lama (班禪) ハ全タク英ノ手中ニアル程親英主義者ナレ共目下勢力無シ。英ニ頼ル傍時々ハ親日(本)手段ヲ調ジ国書等ヲ我國ニ寄セテ心慮シ給マヘトモ要ハ自己勢力ノ恢復手段ノ資料トシ Lhasa ノ Dalai-Lama ニ對抗スルノ具ニ供セントナシ給マフ外ニ別ノ仔細アルコトナシ。斯ク神聖ラシカラザル行為ニ對シ老紳士のノ英ハ早クモ彼レヲ重要シセズ、寧ロ直接本城ノ達賴攻撃ノ容易ニシテ又有利ナルヲ看破セルガ如シ。

曾テ達賴ガ印度ニ在リシ時班禪刺摩^{ママ}ガ Lhasa ニ入城シ王宮ニ入り自カラダライ法王ニ指定シ西藏萬民ノ嘲弄ヲ買ヒ同時ニ英ノ信用ヲ墜シタル事ハ班禪刺摩ガ今日ノ盛衰ヲ來セシ主因ナリト云フ。

(b) Chunbi Vally 地方及 Phari and Gyantse ノ各地方ノ一般ニ親英ナルハ自然ノ趨勢ト云フ可シ。

(c) 東部地方 Khama [Kham] 一帯ハ支那ニ近キダケ支那化シ親支(那) 普通ニシテ人民又愚ノ極ナレバ支那ノ令ヲ奉ジテ西藏政府ト反対シ西藏ノ本国ト交戦スルコトヲ辞セザルコト今尚然リ.

(d) 其ノ他ノ一般ノ地方ニアリテハ外人(異人種) ニ対シ嫌惡ノ思想アル事ハ從來ノ如シト雖モ之ニ危害ヲ加フルガ如キ惡習慣ハ大ニ減シタト云フ.

(e) 地方ニ於テハ“日本” ナルモノヲ知レルモノ無ク從ヒテ日本人觀ナルモノナシ.

第三十九ページ

調査第十一項

{ 西藏風俗習慣(図画写真) }
{ 等ノ附ヲ求ム }

(第一) 緒言 西藏人種ニ就テ

西藏人種ノ起源ハ今知ラズ. 紀元六七世紀前ニ於テハ(仏教流藏前) 遊牧ノ民ノミアリシガ如シ. 今日ノ西藏人ハ云フ迄モ無ク蒙古人種ニシテ同ジク西藏^マ高源^マ人種中ニモ其系統ヲ異ニスル数種ノ類別アリ. 即 Lhash 及 Shikatse ヲ中心トスル所謂“中央西藏” 内ニハ略其種ヲ壺ニシ東部ニハ Kham 種西部ニハ Phū 種(マ) 北部ニハ Chāmpa (主ニ牧畜ノ民) 其他各所ニ遊牧ノ民アリ今吾人ノ知レル中央西藏ニ於テ Shikatse 及 Lhash ヲ中心トセル人種——即吾人常ニ目撃セル人種ニ就テ其ノ特徴ヲ挙ゲンカ此ノ地方ノ西藏人種ハ大体ニ於テ印度 Sikkim 人種ニ似タル蒙古本国人ニモ多少似タルカナアレ共支那本国人ニハ似ズ. 寧ロ日本人ト其ノ典形ヲ同ジクスル所多シト雖モ日本人ニ比シテ体格優レ顔面扁平胴体太ク鼻ハ低キハ特色ナルガ如シ. 上流ニアル人種ハ幼時ヨリ体育上ノ關係ナルカー一般ニ醜形少ナシ. (写真中各人物参照)

尚西藏高源寒国ノ特性トモ云フ可キハ熱帶地ノ如ク幼児ノ成育速ニシテ男女共ニ五六才ニ達テ普通一般會話ニ通ジ通常語ヲ卒業スルモノナリ. 十四五才ニ達セル中流以上ノ児童ニアリテハ成年ノモノト異ナルナク一見廿四五才ト見ユルヲ常トス. 而シテ多ク短命ニシテ百才長寿アリシコトヲ聞カズ. 多クハ五六十才ニ達シ老衰シテ死スルヲ普通トス斯ク短命ナルニハ理由アリト雖モ主因ハ各自精神ノ各自自カラ老衰セシムルコト生活上不潔ニシテ飲食ニ不規則ナルト, 運動ニ欠ケル等ナル可シ. 斯クノ如キ西藏人種ガ如何ナル風俗習慣性質アルカ中央西藏ニ就イテ略説ス可シ.

第四十ページ

(第二) 風俗習慣(衣, 食, 住, ニ就テ)

(A) 衣及装飾ニ就テ(写真参照)

- (1) 衣服ノ質, 下流民ハ土製ラシャヲ普通トシ中流以上ハ土製ラシャノ高等品, 舶来ラシャ(英国品)支那絹織物, 支那錦及露国錦襪等ヲ用ヒ木綿織ヲ用フルコト殆ンド無シ.
- (2) 衣服ノ形状, 普通服ニハ二種有リ. 一ツハ日本ノ筒袖ト同型ニシテ更ニ寛広ナリ. 着方ハ日本ト同ジク帶ヲ以テ之レヲシメ他ノ一種ハ蒙古式ニシテ支那服ノ変化セルモノ也. 上衣ヲ着スル事アリ. 上衣ニハ男ハ短キモノヲ普通トシ婦人ハ長キモノヲ用フ. 又男子ノ上衣ニハ袖ノ無キモノトアルモノトノ二種アリ. 婦人通常服ニハ必ラズ前垂レヲ用フ. (本邦ノ前垂ト同風同形) 又一般ニ襦袢ヲ着ス. 短及ビ長ノ二種アリ.
- (3) 衣服ノ色, 蝦茶色ヲ普通トシ青色, 紫色, 暗黄色, 灰色, 黒色, アレ共一般派手ナル色合ヲ好ム. 錦襪ヲ除キテハ紋様アル同色種ノモノニシテ縞物ハ普通ナラズ.
- (4) 僧侶ノ服装ニ就テ. 通常ナル蝦茶色ニシテ上衣及下衣及內衣ノ三種ヨリナル. 形ハ上代ノ印度僧風ヲ真似タルモノ也ト云フ. 質ハ土製ラシャノ優等品ヲ用フ. 錦襪ヲモ添縫セリ. 帽子ヲ着スル場合ハ少ナシ. 大ナル長形ノモノニシテ黄色ナリ. 旅行等ノ時ハ蒙古式服ヲ着シ上流ノ高僧ハ黄色ヲ用フ. 一般ニ僧侶ハ黄色ヲ用フルヲ普通トス. 靴モ俗人ノモノトハ形ヲ異ニシ上流ト下流トニ於テ差アリ.

第四十一ページ

- (5) 帽子. 用フル時期ト場合ニヨリ形, 質, 色彩種アリ. 支那ヨリ輸入セルモノト蒙古ヨリ輸入セルモノトアレ共何レモ支那ニ起源トス. 近来印度方面ヨリ欧風ノ中折帽(felthat)輸入流行スルニ至レルモ夏季ニ限ラルルガ如ク(写真中ノ人物帽子参照)婦人ハ普通帽子ヲ用ヒズ. 冬季ハ下流民ヲ之レヲ用フルヲ見ル.
- (6) 頭髮 僧尼ハ悉ク剃髮ナレ共或ル宗派ノ僧尼ハ髮ヲ貯フ. 俗人ハ髮ヲ貯フ. 俗人ノ頭髮ニハ通常三種アリ. 一種ハ純支那式ノ豚尾, 一ツハ前頭部ニ於テ二分シ後方ニ束ネテ垂レ之レヲ編ム. 一ツハ有位有官ノモノニシテ結髮シ頂ヲ造ル(写真参照.)

マ マ
小女ハ前頭部ヲ二分シテ後方ニ東ネ編ミ下ゲタルモノ無ク成年（十七八以上）ノモノハ二分シタル髪ヲ右左両側ニ編ミ下グ。

- (7) 盛装 (a) 頭飾 男子ハ頭上又ハ垂髪ノ所ニ金ト銀トトルコ石ヲ以テ成レル飾ヲ附ス。婦人（十七八以上）ニアリテハ心臟形又ハ菱菱形ノ枢ワクニ珊瑚、トルコ石、真珠ヲ以テ編ミ付ケタル飾ヲ冠ル。（写真参照）
- (b) 耳飾。男子ト女子トハ形ヲ異ニス。（写真参照）
- (c) 腕々。婦人ニ限り必ラズ用ヒラル。
- (d) 指輪。男女共ニ用フルコト外国ニ同ジ。
- (e) 首飾。主ニ婦人ノ専用ニ属ス。
- (f) 胸々。婦人ニ限ラル。

凡ソ婦人ハ飾ノ為メニ全力ヲ注ギ数十万円ヲ投ジテ惜マズ写真中一首相夫人ノ如キハ最優等ノモノヲ着シタルニ非ズト雖モ時価 50000 円以上ニ見積ラル。其ノ他中上流ノ婦人ハ稍盛装ヲシイタル時ハ約 5000 円以上ノ飾ヲ附シテ平氣ナリト

第四十二ページ

裝飾ニ用ヒラルル宝玉類ハ主ニ金、銀、金剛石、トルコ石、ルビー、珊瑚、真珠ニシテ又此等ハ最モ多ク使用セラル印度支那ヨリ輸入セラルラ普通トス。

(B) 食ニ就テ

- (1) 土式。土人式即西藏固有ノ食物ハ主食物トシテハ大麦ヲ煎リテ細粉トシ（京都地方ノハッタイ粉ト同ジ）之レヲ碗（又ハ茶碗）中ニ投ジ西藏式茶ヲ以テ手ニテネリ適宜ノ形トナシテ食ス。（袋中ニテネリコネル習慣モアリ）副食物トハ肉類ハ普通ニシテ豊富也。

ヤクノ肉羊肉等普通ニシテ豚肉モアリ。魚肉ハ普通ナラズ。野菜類ハ豊ナラズ値モ亦高シ。茶ハ支那ヨリ輸入セラルル瓦茶（Brick tea）ニシテ圧搾シテ製シ皮袋ニ押シツメタルモノ也。西藏式茶ヲ製スルニハ之ノ圧搾茶ヲ粉細シ普通茶汁ヲ製シ之レヲ別器ニ移シ^マ Butta（牛酪）ト塩トヲ投ジテ攪乱シテ能ク混同セシメ之レヲ茶瓶ニ移シテ木碗又ハ茶碗ニテノム。抑モ此茶ハ西藏人ニハ実ニ欠ク可カラザル飲料ニシテ吾人ガ茶ニ対スルヨリ以上必須ニシテ苟モ睡眠ト歩行トヲセザル限り即チ座セル場合ニ於テハ用事中ト談話中ト家内ナル戸外ナルトヲ問ハズ必ラズ此茶ヲ欠ク可カラズ。故ニ外出スル時ハ必ラズ碗ヲ懷中ス。所謂西藏臭ナル一種ノ不快臭ノ主力ハ此茶ノ不腐臭トモ云フ可ク西藏ト云フ概念中ニハ“不潔”ト共ニ此“茶”ナル觀念ヲ除キ去ル能ハザルモノトス。

- (2) 支那式，材料ノ不充分ナルガ為メニ優等ナル支那式ヲ望ミ得可カラズ。上流ニ於ケル宴会ニハ必ラズ支那式ヲ用ヒ通常ハ其西藏ト折衷式ヲ用フ。支那式ニ箸ヲ用フルコトハ勿論ナレ共西藏ニハ之レヲ要セズ。
- (3) 食糧ノ質、脂肪、澱粉、蛋白質共ニ豊富ナレ共野菜ニ乏シキヲ欠点トス。一般ニ滋養ニ富メル食料ナリト雖モ所謂美食美味ヲ味ハフ事ハ西藏内ノ今日ノ状態ノ許サザル処ナリトス。

第四十三ページ

- (4) 燃料，薪炭極メテ少ナク主ニ獸糞ヲ以テス其ノ主ナルモノハヤクノ糞也人糞ハ肥料ノ外用フル事ナシ。

(C) 住ニ就テ

- (1) 家屋：多クハ三階又ハ二階ノ石造土造ニシテ平屋根式ナリトス。(写真参照)
壁厚ク屋郭堅固純然タルーツノ城郭也。
床ハ西藏式コンクリートニシテ之ヲ鏡ノ如ク磨キタルモノト板床ナルトノ二ツアリ。

- (2) 屋内：座席ニハ厚サ五六寸ノ座布団ヲ布キ其ノ上ニ西藏式緞緋ヲ敷ケルモノト日本式ノ座布団ヲ敷ケルモノト有リ。日本式様ノ座布団ハ多クハ錦爛ニシテ綿製ノモノモアリ。支那式卓ノ机ヲ置キ食卓ヲ兼ヌ。

字ヲ書ク時ニハ決シテ机ヲ要セズ。日本式ニ手ニ持チテ書クコト日本人ガ半切書簡用紙ヲ左手ニ持チ机ヲ要セザルニ類ス。

但シ用フル処ノモノハ竹製ノペンニシテ墨ハ日本ノモノト性質同ジナレ共墨汁ヲ製シ置キテ之レヲ瓶ニ貯フヲ異ナル処トナス。

各室ノ排置ハ通常三階ヲ以テ主人ノ居間等ニ宛テ客応接室，寢室（食堂ハ別室ヲ設クルコトナシ）下僕室，番頭，書記室，台所，料理人室，門衛所，馬置場，及倉庫数室ヲ設クルガ大家ニ缺ク可カラザル者ニシテ仏殿モ亦大家ニ於ケル必須ノ室トシテ莊嚴ヲ極ム。

一般ニ室内ノ柱梁ニハ調刻ト美麗ナル極彩色ヲ施シ特ニ柱ニ意ヲ用フ。

第四十四ページ

- (3) 寺院ノ建築法モ一般家屋ト類ヲ同ス。

否普通家屋ガ寺院ヲ模シタルモノト云フ可シ。

即チ中央ニ本堂（集殿或ハ觀修殿）ヲ置キ四周ニ僧院アリテ数僧院毎ニ一小堂ヲ

設ク、(寺院ノ組織及僧侶生活状態ニ就イテ他日詳報スル機会アル可シ。)

- (4) 寺院ト普通家屋ヲ論ゼズ凡テ南向ニ築造スルヲ建築ノ通則トス。宗教上ヨリノ習慣ニヨレ共(?)氣候トノ關係ニ基ク可シ。

(第三) 其他風習及人情性質。

- (1) 年中行事冠婚祭礼ヲ重ジ宗教心ニ厚シ。迷信甚ハダシト雖モ世態万事一トシテ宗教的基礎ニ由ラザル無ク年中行事モ多ク仏教ニ関シテ行ハル。僧俗共ニ仏教ニ篤婦セザルナシ。
- (2) 最上流ヲ除ク外“清潔ノ觀念”絶無ニシテ所有不潔ヲ經驗シタルコト無カリキ。其例証枚挙ニ遑アラザレバ之ヲ省略ス。
- (3) 辞礼ニ巧ミナレ共太ダシキ虚礼ニ流ル。茶、食事、酒、等ヲ強フル事、強ヒラレテ遠慮スルノ風本邦ノ習慣ト毫モ異ナルナシ
- (4) 上ヲ敬シテ下ヲ卑ム——有位有官ハ尊敬セラレ無位無官ハ卑輕セラル上ハ權重ク下ハ權ナシ。上ハ義務ナク下ニアリ。上ハ永久上ニシテ下ハ永久下タリ。

官位ト權威ハ第一ニシテ智徳ハ第二位ニアリ。

上ハ怠惰放逸ニ安ンジ下ニ奮闘向上ノ精神ナクタトヒ之レ有レ共登ラントスルニ道ナシ。上下共々言論ノ自由束縛セラレ正義ノ光ハ客塵ニヨリ永ク閉サル。

第四十五ページ

- (5) 人情。

極メテ温和ニシテ慈悲ニ富ミ甚ハダ親切ナル民族ナレ共義侠ノ性ヲ認メズ。

- (6) 上下不一致ニシテ愛國尊王ノ心露モナシ。(法王ヲ真ノ神仏トシテ尊敬スルハ尊王心ニ非ズ又吾人ノ仏ニ對スル尊敬心ニ非ズ。法王ハ仏ノ代理トシ觀音菩薩ノ化身トシテ西藏ニ暫シ降臨シ給ヒタル方ナレバ之レヲ尊敬スレバ自己ガ利益ヲ受ケ幸福ト安穩長寿死後極樂ニ往生ス可シト云フ、迷信の行為ナレバ也)
- (7) 純利己主義ニシテ公德ト云ヒ公義ト云ヒ公衆ト云フ如キ觀念ノ存在ヲ認メ難シ。従ツテ公私ノ區別無ク公私混同私ノ為ニスル公ノ外ニハ他ノ為ニ計ルナシ。
- (8) 時間的觀念、便利・簡單ニスルノ習慣、永久的觀念、対久心、熱心、奮闘性、沈着、勇敢ナシ(無教育ノ結果ニモ由ル可シ。)
- (9) 遊随ニシテ勤勉敏捷ニ欠ク。又虚言、曖昧言多シ。又絶対ニ事ノ弁ゼザル国ナリ。
- (10) 賄賂盛ニシテ公行シ政府ノ機關、世事万端皆コノ賄賂ニヨリテ活動運転ス。
- (11) 国ニ法文アレ共法律ノ実施ハ殆ンド無ク旧慣例ニヨリ法律ニ代フ。要スルニ未開

ノ法文ハ今日改正セラレズシテ其ノ盡政府古文書箱中ニ秘セラレ万事が所謂吾人ノ“慣例”ニヨリテ行ハル。事が敏捷ニ運ビ法律事件ガ直チニ解セラレ随意ノ為メニ事務ノ停滞等ヲ見ズ愚官一人アリテ兎ニ角政府ノ機関ガ“滅亡”ノ坂ヲ容易ニ下ルコトヲ得ルハスベテ皆賄賂ノ原動力ト見レバ可ナリ。凡ソ金品財力ニ対シ知力道德力ノ薄弱ナルハ嘆ク可シ。

第四十六ページ

- (12) 無教育ナル愚民ニヨリテ成ル社会ニ無作法ノ分子多キハ云フ迄モ無ク道德衰エ風紀ノ振興ヲ望マレズ。淫靡ナル社会ニハ女色酒色男色アレ共怪ム者無シ。女色酒色ヲ大罪トセル僧侶ニ於テ唯一人男色ノ非ヲ云フ高僧ナシ。
- (13) 社会ニ於ケル婦人ノ地位ハ低ク公ニ関シテ婦人ノ分子ヲ含マズ。家庭ニ於ケル婦人モ亦斯ノ如ク夫ノ慰安者トシテ相手トシテ単ニ衣食住セルノミ日々ノ粧粧ト裝飾ノ外ニ事務ナク年中行事ニ着飾ルコトガ唯一職業ナル可シ。小供ヲ養育スル事モ乳母ト小守トニ任セ自カラ成ル可ク扼介ナコトニ手ヲ出サザランコトヲ務ム下流民ニ於テハ夫ト共ニ動ラク良風アリ。
- (14) 婦人 Tüchi (孩ノ□□⁸⁾?) ト称シ黒褐色ノ塗料ヲ顔ニ塗ル習慣アリ。元來僧侶ニ対シ婦人ノ美性ヲ覆ヒ隠ス為メノ用ニ出デシモ近在ニテハ一種ノ顔皮保護用ニ供セラル。
- (15) 外出ノ際上流ハ必ラズ数名ノ従僕ヲ連レテ乗馬スル時ニハ前後ヲ護衛シ行ク公式ニ外出ヲ要スル時ハ盛装シテ悉ク乗馬シ堂々列ヲ為シテ行クノ風アリ。男女共ニ乗馬スルノ風アリ。乗り方ハ男女共ニ跨ルノ習慣ニシテ吾人ノ乗馬トハ稍趣ヲ異ニス。即尻ヲ馬鞍上ニ据エ腰カケ状態ヲ以テ跨ルナリ故ニ乗馬ノ乱動スル〔スル?〕時ニハ落馬スル患アルヲ以テ良馬ニシテ上下反動ナキモノヲ好ム

第四十七ページ

- (16) 家僕制度ハ我国封建時代ノ家臣ト趣ヲ同クス。
家臣ハ永久家臣ニシテ貴族ニナル望ミモ大臣ノ椅子ヲ夢ム事能ハズ。番頭書記ガ最上ナル可シ。但シ政府直接ノ臣民ハ或程度迄独立ノ官位ニ就クヲ得。
- (17) 早婚ノ弊アリ。早キハ十四五才ニシテ結婚ス。父母ノ選択ニヨルモノニシテ自己ノ志望ヲ述ブルノ習慣ナシ。近時迄ハ此習慣尚奇ナルモノノ有リテ父母ハ是レヲ本人ニ秘シ結婚当日ノ而カモ其所定時間ノ到着スル迄結婚先ノ家名ヲ告ゲザルガ如シ。今日デハ多少本人ノ志望ヲモ顧慮スルニ至レリ。(第七親等以内ニ於テハ親

戚結婚ヲナサズ)

- (18)一家ニ数人ノ兄弟アル時ハ此数人ノ兄弟ニ対シ一人ノ嫁ヲ共有セシムルノ奇習アリ。又一家ニ多数ノ女子アル時ハ尼僧トナシ兄弟アル時ハ僧トスルノ習慣アリ。
- (19)葬式ハ風葬ヲ普通トス。我国王ニ火葬——葬又ハ埋葬即地葬ニシテ水葬スルハ印度ニ多ク風葬スルハ西藏ニ多シ。即チ死体ヲ一定ノ風葬場ニ運び仏式ノ葬式ヲ了シ肉骨ヲ粉細ニシテ肉ハ是レヲ Gü (Tu) ト称スル鳥(秃雁?即 Vultur)ニ与エ骨ハ粉碎セラレテ自然ニ砂等ト混ス。風ノ為メニ運び去ラルヤウニスル也。
- 即此式ハ物ノ起原タル“地^マ水^マ火^マ水^マ”ノ風葬ニヨルモノナリト云ヘリ。蓋シ人ハ死シテ此地水火風ノ何レカニ帰還スルテフ信仰ヨリ出シモノニシテ勿論仏教義ニ基ケルモノ也。
- (20)一般嗜好, 賭博, 飲酒, カルタ類, 弓術, 支那品, 文明ノ利品, 銃器, 美衣, 煙草(土製)
- (21)教育ハ寺子屋式読ミ書キ, 算盤, 全テ教フ(別項被□⁹⁾)国語ハ所謂西藏語也。日本印度語ト其ノ典型ヲ一ニシ英国支那語ナドトハ大イニ異ナリ。文字ハ梵字ノ变化セル者也

第四十八ページ

国民一般ニ元来愚ナルガ上ニ無教育多シ。

事ヲ秘密ニ附スル習慣多キ為メ露見スル事モ多シ。

他ヲ信頼スルコト極メテ少ナシ。西藏ニ於ケル“Yes”ト“No”ハ実ニ容易ナルダケ無責任不誠実不確實曖昧ノ事多シ。

吾人ハ根本的ニ野心ヲ去リテ真ニ西藏ノ為メニ利福ヲ計リ發展向上セシメントスルニハ先ズ教育ノ普及即チ国民ヲ一般ニ愚ノ域ヨリ遂出ニアリト信ジ之レ万策ノ基礎ニシテ万民皆事理ヲ解スルニ至ラバ諸種ノ施設經營自カラ行ハルル事ヲ屢々人ニ語レ共語ルル其ノ人矢張り西藏人ニシテ吾人ノ言ハ必意“驢耳黄金”ノ西藏ノ諺ニ葬ラルルヲ免ル能ハザリキ

第四十九ページ

調査第十四項

{ 西藏ニ於ケル支那官憲ノ近況及其他ノ }
{ 施設經營ノ近況 }

(A) 中央拉薩ニ於ケル状況.

拉薩ニ於テハ支那官憲絶無也.

拉薩ニ於テハ大正二年十一月 (1912) ヲ以テ駐藏大臣ヲ始メ西藏軍司令官從來ノ駐屯兵及侵入兵其ノ他支那官吏全部一人モ残ラズ拉薩ヨリ放逐セラレ数百ノ支那人ニ残留セルモノハ歸化人ニシテ殆ンド商人ナリ. 然ラザルモノハ乞食同様ノ悲境ニアリ約 500 ノ支藏雜種人ヲリト雖モ順境ニ非ラズ. 目下拉薩ニ於ケル支那人ノ慘狀斯克ノ如ク曾テ Amban 駐在セル当時ノ榮華ハ偲ブ可クモ非ラズ.

次ニ其ノ施設經營ニ関シテハ從ヒテ之レヲ記ス可キモノ絶無ニシテ曾テ支那人ノ使用セシ築造物ハ殆ンド破壊セラレ殘部ハ目下西藏兵舍其ノ他ニ充テリ.

要スルニ目下拉薩ニ於テハ支那ニ関スル利權ニ関シ何等之ヲ認ム可キモノナク残留セル数十名ノ支那乞食多少氣概アル者僅ニ打箭炉ノ空ヲ望ミ新侵入兵ノ到着ヲ待ツノミ.

(B) 地方ニ於ケル状況.

(1) 後藏 Shikatse, Gyantse, Chumbi, 等ニ於テモ支那人ノ状況ハ拉薩ト同様也.

(2) 東部西藏 Kham 地方主ニ Chamdo 以東打箭炉ニ至ル方面ハ支那勢力毎ル可カラザル者アリ. 支那官吏支那兵等各所ニ駐屯シ其ノ数二三千ニ達スト云フ. 現ニ西藏軍ト交戦中ノモノアリテ西藏軍ハ約 2000 各所ニ阻止セリト云フ. (詳細ハ調査成リ次第御報申ス可シ)

第五十ページ

最近ノ情報ニヨルニ Kham 地方ノ支那兵ハ純支那兵ニ非ラズシテ半バ Kham 人種ニシテ支那ニ服シ支那服ヲ着セルモノナリ. 而シテ兵民共ニ其時ノ情況ニ応ジテ支那ニ属シ或ヒハ西藏ニ從ヒ一定セズ. 要スルニ勢力ノ強キニ由リ抱イ¹⁰⁾ トナル人種ナリト云フ. 目下西藏軍ハ余リ有利ナラズ. 新ニ戦地ニ向ハントスル軍隊ハ拉薩ニ集中セリ. (戦闘ハ一勝一敗ナリト)

諸種ノ情報ニヨレバ目下交戦中ニアリ Kham ノ支那軍ハ新侵入軍ニ非ルモノノ如ク從來ヨリノ駐屯軍ノ侵略ノ挙ニ出シモノノ如シ.

附

達賴法王ト袁世凱 (支那共和国)

兩者間ニハ常ニ国書電ノ往復有リ. 間ニ相ヒ溶解シ得ベカラサル敵害心ヲ潜ムト雖モ表面ノ往復文面ニ於テハ良好ナル状況ニアリ. 而シテ Kham 地方ニハ両国軍交戦セリ. 印度 Delhi ニ於テ三国協商中也.

法王ト袁トノ關係以上ノ如シ。

法王ト協商全権員首相ト征支軍指令官（一大臣）^{ママ}と及拉薩^{ママ}とノ政府トノ間ニ流一也万
事無方針ニシテ皆動セル愚政府ノ近況ハ西藏ニ非レバ現出シ得ベカラザル奇現象ナリ
トス。

第五十一ページ

調査第十六項

〔 西藏内地地図（詳細ナルヲ可トス）其ノ他
山地河川森林等地形ヲ明知ス可キ写真ノ入手ヲ欲ス 〕

- (1) 拉薩ニ於テ此種ノ地図ヲ得難シ西藏政府自身スラ所有セズ、必要ノ場合ニハ吾人
ノ英版地図ヲ貸与スル程ナリ

（西藏府ニアル“西藏地図” C. A. Bell 氏著“Colloquial of Tibetan”ノ卷末ニ付属
セル地図^{ママ}の外何物モナシ）

曾テ支那駐藏大臣ノ居リシ頃ニ使用セラレシ地図アリ支那版ニシテ正確ヲ欠ケ共
稍詳細ナルノ感アリ。元来三枚連続ノ者ナレ共二枚ヨリ発見セズ。蓋シ目下支那
人ニシテ地図ヲ解スルガ如キ人間アラズ。搜索困難ニシテ西藏ノ愚民モ亦地図ノ
如何ナル者カヲ解スル者少ナリ。往々反籠¹¹⁾トシテ包紙等ニ使用スルガ如シ。

別紙二枚（一枚ヲ欠ク）ハ貴本部ニ於テ使用セラレタルモノト同ジヤ？否？知
ラザレドモ手ニ入レタレバ御送付申ス可ク同種ノ地図ハ寧ロ吾人ガ文明地ニ居ル
人々ニ対シテ要求ス可キモノナリ（吾人ガ地図ヲ製スル能ハザルノ境遇ニアルヲ
以テ）

- (2) 山地河川森林等地勢地形ヲ明示^{ママ}ス可キ写真ヲ得ルコトハ目下絶望也何トナレバ
ラッサニハ写真屋ナル物ナシ、若シ印度国境ヨリラッサニ至ル之ノ種ノ写真ノ最
モ正確ナルモノハ“Lhasa and its misteris” by Waddell, London 発行ノ著書ヲ可ト
ス。小生ガ他日地方旅行スル事ヲ得レバ此望シヲ幾分達シ得。但シ今首都拉薩ノ
四圍ヲ髣髴スルニ足ルノ地形写真ハ茲ニ特製シテ付属セシム凡ソ印度境
Darjeeling ヨリ西藏^{ママ} Lassa ニ至ル沿道ノ状況ヲ最モ正確ニ各種ノ方面ニ度リテ報
告セルモノハ

他ノ著者ハ余リ信用デキズ蓋シ英軍侵入ノ時ニ成リシモノナレバナリ（1903-
1904）

『調査報告第貳号』

第一ページ

調査報告第貳号

第二ページ

調査報告第貳号

第三ページ

調査報告第貳号

- (一) 調査報告第一号及第貳号ヲ以テ“第一回調査”トシ其後新ニ発生セル事件調査第一回ニ補足スベキモノ及ビ未完了ナリシモノハ凡テ之レヲ“再調査”ニ於テ御報告申上グ
- (二) 第一回調査（第一第二号）及今後調査記事中ノ地名ニ関シテハ英字版地図ニ拠リ、之レナキモノハ直接西藏語（Roma 字ニテ）ニテ記セリ尚小職ガ入蔵セシ時ノ進路等ヲ示セル略図ヲ御参考相成リ度シ本願寺ニハ同地図ノ原本又ハ写シテ貴部ニ差出スヨウ依頼致シ置キタリ（拉薩ノ氣象観測表モ同断）
- (三) 調査報告第十三項“新疆ヨリスル露国勢ノ近況”ニ関シテ嚮キニ調査報告（第一号）第一項ニ申上ゲタル外ニ今日迄特ニ具体的ノ情報スラ得ル能ハズ本項（第十三）ニ関スル調査ハ再調ニ譲ル当分該方面ヨリスル露勢ハ具体的ノモノナシト見テ可ナリト信ズ。
- (四) 調査報告第二号目次次ノ如シ
 - 1. 第五項 西藏行政 1
 - 2. 第十二項 拉薩等各都市^{ママ}の近況 10
 - 3. 第七項 西藏内道路ノ状況 22
 - 4. 第八項 西藏河川^{ママ}の状況 30
 - 5. 第十五項 西藏ノ利源及将来ノ予測 34
 - 6. 附属写真拾壹葉 43

第四ページ

調査第五項

{西藏ノ行政}

第一 中央

(1) 政体——專政教皇政体.

西藏仏教ノ一派ノ法主達賴刺麻ヲ以テ国王ト定ム. 拉薩ノ西隣一小岩山上ナル
“Potala”ヲ以テ其宮殿トス. (備考) 日喀則 Shikatse ノ南隣ナル Trashilhunpo 伽
藍ナル Penchenrinpche (班禪刺麻) ハ Dalai Lama ト同ジク同一宗派ノ管長ナレド
モ国王ニアラズ西藏ノ絶対政權ハ Dalai Lama ノ外ニナシ

(2) Kyam gūn [sKyabs mgon] Rimpochhe (又ハ Gyewa Rimpoche) = 達賴刺麻国政万機 ヲ総攬ス

(3) Lūnchhen (3) = 三大臣. 内一人ハ僧侶他ノ二人ハ俗所謂西藏ノ三首相即是レナ リ (近年ノ新例ニシテ以前ハナシ) 此三臣ハ西藏ノ内政及外交ノ枢要事ヲ協同掌 握シ三大臣ニテ決定シ難キ緊急事件及ビ三大臣ニテ決定セシ事件ハ之レヲ法王ニ 奏スルヲ例トス三大臣合議ナルモノハ西藏ニ於ケル最高ノ政府ナリ. (備考) 各 新聞ニ Primmimister (首相) ナル語ハ適當ニアラズ. 且西藏首相ハ目下 Shatra 一 人ノ如クニ思惟セラルルハ誤解ナリ. 目下三大臣トハ Shatra 氏 Shōkhang 氏 (以 上俗) 及 Trekhang (僧) (蓋シ師ハ 1914 一月死去, 故目下一大臣ヲ欠グ) 師ナ リトス. 其三大臣ノ事ヲ西藏ニテ Lūnchhen (ལྷན་ཅིག) ト云フ.

(4) Shape (Shi') 西 (亜) 大臣. 内三人ハ俗一人ハ僧, 国教ノ中心ニシテ四大臣ニ テ決定シ難キ事件ハ之レヲ三首相ニ謀ルカ直接法王ノ裁下ヲ仰グカ又ハ三大臣ト 連合シテ法王ニ裁下ヲ仰クヲ例トス其四大臣ノ合議ヲ Ka-Shak' ト称シ國務ハ多 ク茲ニテ執ラル而シテ四大臣協同掌握ナリトス.

(5) Nangmakhang——法王ニ関スル事務ヲ司ル所.

侍従長ヲ以テ其長トシ通例主侍医ヲ以テ此ノ職ニ任ズ. 政務ニ関係シ其權能時
ニ三大臣ニ超ユル事アリ.

第五ページ

- | | | |
|----------------------|---|----------------------|
| (6) (A) Chhahzukhang | } | 財政ニ関スル事務ヲ司ル所ニシテ各部独立 |
| (B) Tsi Khang | | シ之レヲ統一スルモノハ三大臣又ハ四亜大臣 |
| (C) Thopūn (khang) | | ナリトス. |

- (7) Chhinda. 総軍長（総司令官）軍ニ関スル全権ヲ掌握シ^{ママ}総総指令ノ任務ヲ有ス。特別ノ執務所ヲ有セズ軍ニ関スル事務ハ通常 Maktsi-khang（軍務局）ニテ行ハル。
- (8) Mipün. 中央政府ノ行政ガ拉薩（地方ヲ除ク）ニ於テ法ノ如ク行ハルルヤ否ヤヲ監視シ若シ違法ヲ発見シタルトキハ是レヲ適法ニ処分スルノ事務ヲ司ル。
- (9) Serpang. 裁判事務ヲ司ル。但シ拉薩（中央）ニ限ル
- (10) Chhikhap'-Khempo. 僧侶官吏ノ首領ニシテ目下ノ Chhikhap-khempo 職ハ侍従長（主侍医）ヲ以テ之レヲ任シ常ニ法王ニ侍シ補弼ノ大任ニ當リ其権三首相ニ超ユルヲ例トス
- (11) Trung Yik' Chhemmo 国ノ書記官ニシテ文書事務ヲ司ル
- (12) Yik' Khang 郵便事務ヲ司ル（目下普通書信及書留、小包為替ノ外ニ取扱ハズ、各種三大臣ニ直ス）。
- (13) 其他 種々ノ小雑独立シ幹部散在スト雖モ多クハ大臣（又ハ三大臣）ニ直属ス。凡テ政府ノ機関ハ一定ノ序列区分編制等法規ニ依リテ整備タルモノニアラズ古来ノ慣例習慣ニ従フ事及臨時又ハ新ニ創設セル時代ニアルヲ以テ定論ヲ立ツル能ハズ

第二 地方

- (1) Zong-Zong-pün（城司）国主又ハ県知事ノ如キモノ国内ノ行政上約百内外ノ諸国ニ別チ其内ノ五十三ノ諸国ニハ各々二名（僧侶）ノ国司ヲ置ク之レヲ称シテ Zong pün ト云フ（城司）城司ハ各領内ノ司法及財務ニ関スル政治ヲ司ルモノニシテ数年毎ニ（約三年）交代スルヲ例トス。緊急事件又ハ城主ニシテ決定シ難キ事件ハ之レヲ中央政府ノ四大臣又ハ三大臣ニ議ル（備考）城司ノ住所 Zong ハ我国封建時代ノ“城”ノ如ク軍事的ノ目的ヲ以テ建設セラレタル一要塞ナリ而シテ茲ニ仕スル城主即 Zong-pün ニハ兵権ナシト雖モ

第六ページ

戦時ハ之レヲ要塞ニ使用ス兵権ハ中央政府ニ直属セル地方駐在武官（Dapün 又ハ Dupün）之レヲ有シ Zong（城）ニヨリテ軍務ニ服ス。

- (2) (A) Tü-garpün 西部西藏数国ノ城主
- (B) Rutok garpün 西北辺境（西藏ノ）数国ノ城主
- (C) Mankham Theichi 東部西藏数国城主
- (D) Nyarong cbbikbap 東辺境（西藏ノ）数県ノ城主

以上^{ママ}ノ四其事務職権名 Zong pun ニ等シト雖モ中央政府ヲ距ル事各々遠キガ故ニ

独数¹²⁾ 専行の範圍大ナリトス。

- (3) 拉薩 (Lhasa) ハ前記 Mipün ノ治下ニシテ西隣ナル Shū 即法王宮殿^{ママ}の所在地ナル Potala 附近ハ Shūpdepa ノ治下ニアリ。

又 Sera, Drepūng, Gonden 其他ノ大寺院ノ所在地ニ於ケル統治權ハ中央權又ハ地方權外ニシテ各寺特有ノ治權ヲ有スルガ法王自身ノ權勢ノ發動ニ待ツ。尚拉薩ハ毎年一月四日ヨリ二十五日ニ至ル間即二十二日間ハ祈願會 (大師殿ニ中央寺院ニ於テ) ノ修行セラレ其期間ラッサノ統治權ハ該會主ノ手ニアルモノニシテ法王ヲ除クノ外何人タリトモ此會主ノ司令及ビ臨時法規ニ從ハザル可カラズ此間恰モ戒嚴令ヲ施カレタルガ如ク一般ニ不快ナル時期トス《但外人中ネポール人マホメット教徒、及一昨年迄ハ支那人 (今年ヨリ支那人此ノ特權ヲ失ス) ハ治外法權ニアル事依然カハラズ》尚此權ノ奇例他ニ数多アルベケレトモ之レヲ略ス。

(附) 第一 達賴ト班禪

西藏ニ関スル記事中日本新聞ハ動モスレバ誤解ヲ記スルヲ見ル試ニ政治上ニ関スルニ法王ノ比較ヲ略記スレバ

- (1) Dalai Lama 及 Trashi Lama 共ニ西藏仏教 Geluk-pa 派ノ一法王ナルコト我東西兩本願寺ノ別ニ似ル即宗旨宗風宗議ニ於テ殆ンド異ナル点ヲ見ズ
- (2) Dalai ハ西藏国王ニシテ Trashi ハ地方三個ノ Zong (三城) ノ主ナリ西藏ノ全權ハ Dalai ニアリテ其分部權ハ Trashi ニアリ

第七ページ

Dalai ハ Trashi 治下ノ三国司ヲ指令スルノ權 (緊急事件發生ノ時) ヲ有スレトモ Trashi ハ Dalai ノ權内ニ侵入スルノ特權ヲ有セズ但シ二者宗教權ハ共一ナリトス {Trashi ニハ Dalai ノ後繼者ヲ鑑定認明スルノ權モアリ}

- (3) 後藏ノ大都 Shikatse ハ Dalai 權下ノ城ノ最大ナルモノニシテ Trashi ノ權外ニアリ即チ Shikatse ノ南隣ニアル Trashi lhunpo 寺院ノミハ Trashi Lama ノ權下ニアリ

(備考) 地名ノ記シ方ハ英字一般ノ通用綴ト西藏ノ本綴トノ比較二三ヲ挙ゲ

Lhasa (誤音)	Hlasa (正音) ……………ལྷ་ས།
Shigatse (誤音)	Shikatse (正音) ……………ཤིག་ཅེ།
Dalai (誤音)	Talai (正音) ……………དལ་འི།
Tashi (誤音)	Trashi (正音) ……………བཤེན་པ།

- (4) 従来清朝等ハ此二王ヲ同一視シ事実上同權ヲ授ケタリ是レ清朝ノ対藏政略ニ基ケルモノニシテ二法王ノ分權主義ガ支那ノ為メニ安全ナルヲモツテナリ目下ノ支那

共和国ハ Dalai 法王ヲ以テ正国王ト承認セリ

国際ノ關係ニ於テハ從來常ニダライヲ以テ西藏国王トセルノ慣例アリ今回支蔵英三国ノ協商ニモタシラマヨリノ特派員ナルモノノ同席ヲ許サズ 但シ目下西藏ハ曖昧ナガラ支那ヨリ獨立シタル積リニシテダライノ如クタシラマモ亦西藏国王ヲ以テ野心トセルノ傾向歴々タリ

(附) 第二 行政状態ニ関スル觀察及附論

- (1) 西藏ノ行政ガ幼稚ナルハ暫ク之レヲ措キ其行政機關ニ殆ンド組織的統一の活動ヲ見サルコトハ國ノ統一及其發展ヲ著シク阻碍セルモノノ如シ
- (2) 行政事務ハ凡テ一定ノ法規ニ依ルト称シトモ如何ナル法文ナルカハ吾人ハ勿論三大臣以下百官之レヲ知レルモノハ一人モアル事ナシ所要ニ応ジ政府ノ秘密重要書類藏庫ヲ開封シ(平常ハ密封シテ封印セリ) 檢スルヲ例トス日々ノ執務ハ古來ノ慣例ニ準拠シ其他ハ臨機其執務

第八ページ

者ノ心持、手加減目分量感情等ヲ以テ判決施行スルモノト觀測セラル

- (3) 賄賂ト事務ハ不離不二ノ關係ヲ有シ事務發動ノ原動力ハ賄賂ニ非ラザレバ權位ナリ、

賄賂ノ多寡ト權位ノ高位ガ事務發動ニ及ボス威力ノ偉大ナル事ハ西藏以外ニ見ル事能ハザル可シ

- (4) 依頼訴訟等ニハ必ラズ賄賂ヲ必要トシ此ノ多少ニ応ジテ決定ノ遲速及ビ其レガ自己ニ及ボス利害ノ差ヲ生ズルハ勿論ノ事トシテモ 其依頼等ノ差シ出サルベキ方面ガ一定セザル事即チ或者ハ之レヲ四大臣ノ一ニ呈シ又ハ侍從長ニ呈スルモノ軍總長ニ呈スルモノ又ハ最初三大臣ノ一ニ呈シテ成効ノ見込ナシト見タルトキハ他ノ大臣又ハ四大臣ノ一ニ呈シ尚不可ト思フトキハ總軍長ニ尚不可ナルトキハ侍從長ニ斯クノ如ク各方面ニ持チ廻ルヲ常トス但シ之レハ一ヶ所ニ於テ否決セラレタルニ非ラズ又ハ採用セラレザリシモノアラズ依頼者ガ其当局ニ好マレザリシカ權位ノ低キモノカ又ハ賄賂ノ少ナカリシ結果其儘ニ放棄セラレタルモノナリ

金力權力位置アル者(但貴族中ニテ)ハ高官ニ就キ然ラサルモノハ振ハズ

- (5) 官ト民、貴族ハ悉ク官ニシテ世襲のナリ民ハ永久民ニシテ官途ニ就ク能ハズ偶々僥倖ニシテ就ク事ヲ待トモ最下位ヲ占ムルノ外ナク、若シ法王等ノ私情ニヨリ特志ニ浴スルトキハ愚者モ乞食モ一躍シテ大臣トナルガ如キノ例アリ、
- (6) 官吏ノ俸給、首大臣ノ俸給ハ年俸千五百円ノ少額ニ過ギズ凡ソ世界中最低ノ首相

俸給ナリシト想像セラル。然リト雖モ首大臣トモナルベキ家柄ニテハ地方ニ廣大ノ私領ヲ有シ俸給等ハ事実上不必要ナルノ状態ニアルガ上ニ首大臣ガ懷ニスル賄賂ナルモノハ年々莫大ノ額ニ上ルベク一回ノ賄賂ニシテ能ク一年ノ俸給ニ超スルモノハ通例ナリト云フ

政界ノ腐敗、中央地方共ニ甚ダシキハ言ヲ贅スルノ要ナシ

- (7) 政府百官執務スルニ当リテハ常ニ自己ノ利害ヨリ打算シ公益、国利ヲ思フノ志ハ一兩人ヲ出テサルベシ

他利ヲ知リテナサザルニアラズ全ク他利テフ事ヲ解セサルナリ人ノ為メ君ノ為メ国ノ為メニ議リテ何ノ利アリヤトハ屢々聞ク所ナリ宗教国民ニ

第九ページ

シテ此ノ如キハ実ニ解スルニ苦シム所ナリト雖モ彼等ノ頭ニハ宗教ハ宗教トシ世事ハ世事トナシ別々ニ考思シ理論ヲ以ツテ攻ムレバ乃チ了解スルニ至ルモ宗教愛王尊王ノ赤心ト云ヒ公德思想博愛思想ハ現今ノ西藏人ニ望ムベカラザル事ハ屢々其觀察ヲ述ベタリ。

- (8) 中央政府ノ行政機関上我十省制ニ比較シテ著シク不完全ノ感アルウチ特ニ文部省ニ相当セルモノ即チ西藏ノ国民教育ニ対スル設備ヲ欠ケル事ナリトス

若シ強ヒテ政府ノ教育機関トモ云フベキモノヲ挙タレバ僧侶ガ政府員タルノ資格ヲ作ル為ニ一ツノ学校アリ俗人ガ政府員タル資格ヲ作ル為ニ一ツノ階機トナレル学校ノ如キモノアリ。

前者ハ Tse'lap't're ト称シ目下 50 人内外ノ学生（僧）アリ。学ブ所ハ主ニ“書”ナリ次キニ読書、数学ヲ僅ニ学ブ一定ノ卒業年限ナシ金力強キモノハ約一年ノ在学ニシテ官途ノ高位ニ就キ之レナキモノハ七八年在学シテモ僥倖ヲ得ル事難シ後者ヲ Tse-Khang ト称シ元来政府財政ニ関スル計算ヲ主トシテ司ル役所ノ附属トシテ俗人（即チ平民ヲ除ク）ヲ養成シ学ブ所ハ前者ニ同ジ進級卒業年限等ナキ事前者ノ如ク金力ト身分ノ高下ニヨリテ進級モ卒業モ決定シ官途ニ就ケテ位置ノ上下ヲ生スルニ至ル学生約二三十人モアルベシ

ラッサニハ数個ノ私塾アリ西藏ノ所謂“学校”即チ是ナリ其内学生三十人内外ヲ有セルモノニアルノミラッサノ上流貴族等多少学力ヲ必要トセルモノハ之ノ塾ニ行クヲ慣例トセルガ如シ。其他各大寺ニハ附属ノ学校アリ私塾ニ比シ稍優レルノ概アリ

- (9) 西藏政府ガ上述ノ三大臣（首相）制ヲ取リタルハ約四年前ニ始マリ其以前ハ所謂

“王”ナルモノアリ即チラッサノ三大寺院ノ一住職ガ選ハレテ此“王位”ニ就ク〔ラッサ三大寺院トハ Kündeling; Tsumoling; Tenggyeling; ノ三ナリトス〕此王位ニ即カントスルモノハ西藏ニテ修行セシ僧中最モ学徳ノ高キモノニシテ所謂“活仏”トシテ尊敬セラル從來此“王”ノ権能ハダライ法王ニ次キ法王ガ首府ヲ去ッテ外国又ハ辺境ニアルトキハ法王ノ代命トシテ法王ノ印ヲ所持シ西藏ノ万機ヲ総攬スル事ヲ得タリ所謂 Tibetan-King ナルモノハ即

第十ページ

此王ノ事ナリ此王位ノ候補者タルベキ資格ノアルモノハ何レノ国民ヲ問ハズ西藏人ト同種同宗教同風俗ニ従フ国民ニシテ西藏ニ於テ修行シ学徳最高ト認メラレシモノハ王位ニ即ク事ヲ得、(タトヒ日本人ニテモ幼少ヨリ西藏ニ住シ同化スルトキハ此候補者タルノ権ヲ有ス)但僧侶ニ限ル、是レ今日マテ吾人ノ見タル西藏第一ノ良習慣ニシテ行政上ノ最良点ナルモ遺憾ニシテ此制ハ漸次改悪セラレ今日ノ如キ三大臣制トナレルヲ以テ此王ノ名称ハ当分存スルモ実権ノ九分九厘ハ此三大臣ニ占メラレタリ、今後目下ノ三大臣ガ悉ク死去スレバ如何ナル制度ニヨルガ疑問ナリ尚此“王”ハ常ニ四大臣ノ上ニアリ法王トノ間ニ立チテ政権ノ最上位タリシ事現今ノ三大臣ニ悉ナラサリキ、

- (10) 近來法王ハ政府ノ組織ヲ外国ニ擬シ部省制ヲ執ラントシ上院下院制ヲモ布ラントセシモ反対多ク未タ実行ノ端緒ヲモ開クニ至ラズ

第十一ページ

調査第十二項

{ 拉薩日喀則城庫の加托克ノ近況 (主トシテ人口各国人居住ノ有無)
{ 氣候衛生狀態風俗習慣彼我ノ交通法トヲ詳知スル事ヲ要ス }

緒論

拉薩及日喀則城ノ二都市ヲ除イテハ未ダ余遊歴セシ事ナキヲ以ツテ其等ノ地等ヲ旅行セシ経験アル商人又ハ土兵等ヨリ聞キ得タル所ヲ記ス、而シテ今日吾人ノ住居セル拉薩及曾テ滞在セシ日喀則ニ於ケル——例ヘバ人口ノ如キ——果シテ幾何アリヤハ中央政府(又ハ地方庁)ニ於テスラ調査シタル事ナシト云フ一般ニ調査トカ統計トカ觀察推測等ニ関スル觀念ナキガ上ニ数理上ノ知識ニ欠乏セルヲ以テ此種ノ調査ハ西藏本人ヨリモ在留外人ガ反ツテ能ク知レルモノアリトス

第一 拉薩

- (A) 海拔約一万二千呎（弱）ノ高原 Kyi 川ノ北岸ニアル西藏最大都市ニシテ人口約三万五千乃至五万（弱）ト見積ル事ヲ得即チ冬季ハ西藏 Ü 州ノ三大寺院ノ僧悉ク ラッサニ居住スルヲ以テ此季節ハ ラッサ市民全部各自宅ニ居住スルガ故ニ其人口ハ約五万ニ達スベク之ニ反シ夏季ハ地方ニ出カクル商人及旅行者多キガ上ニ各自ノ故郷ニ移ルヲ以テ其人口ハ三万内外ナルガシト概算セラル

而シテ冬季五万ノ人口ヲ分類スレバ約二万ノ僧侶ト二万ノ女子ト一万弱ノ普通男子（俗人）ノ比較ヲ得。

- (B) 各国人ノ居住（但シ本年ノ状態）

支那人 100 乃至 200 主ニ小商人，無頼流浪者，乞食等

西藏産支那人 約 500 普通西藏下等民ト大差ナシ純支那婦人ハ絶無也

Nepal 人 約 500 強 主ニ商人（純 Nepal 婦人ナシ）領事館ノ設ケアリ

Mohamedans 約 300 主ニ商人 Kashmir 及 Ladak 地方ヨリ来レルモノ領事館ノ如キ役所アリ

第十二ページ

蒙古人 約 500 乃至 800 主ニ僧侶ト商人領事館のノ役所ナシ冬季ハ蒙古人多ク居住シ夏季ハ少ナキモノノ如シ

Bhutan 人 約 50 主ニ商人領事館ノ如キモノアリ

Sikhim 人 青海蒙古人其他 Chinese Paskistan 人等常ニ五六人アリ日本人三人 {内二人ハ本願寺員他ノ一人ハ無錢旅行者（力行会員？）} アリ此外印度ヨリ来レル一老婦人（Bengal ノ下等女子）巡礼者ト自称セルモノ一人アリ其他ニハ外人ノ居住セルモノナシ外人ト嫌疑ヲカクル怪シキ人物モナシ

（附）通語 西藏語ニ限ル特ニ ラッサ語ヲ以テ一般社交語標準語トセラル。支那人蒙古人間等ニ各自ノ国語流通セルハ論ヲ俟タズト云ヘトモ各略人間ノ通語ハ西藏語ナリ英語及印度語（Urdu）ハ未ダ通スルニ至ラズ吾人ガ稍奇異ノ感アルハ西藏人間ニ往々日本語ヲ少解スルモノアリ蓋シ支那人ノ拉薩ニ全盛ヲ極メシ時代ニ於テ支那駐藏大臣（Amban）ハ常ニ“Ripen” 帝国ノ法螺ヲ吹キ“東方 Ripen 国ハ” 云々云々ト云フ事ヲ常ニ演説セシ由ニテ学校（支那ノ）ニテハ Ripen 語ヲモ教ヘシト云フ事ヲ聞ケリ。但シ当時西藏人ニハ Ripen ナル国ハ如何ナル帝国ナルカヲ知ルモノ絶無ニシテ吾人ノ入拉後稍一般ニ知レ渡リタルガ如ク市中ニ於テ吾人日本人ヲ見レバ時ニ片語交リノ日本語ヲ話シカケル西藏人ヲ二三

実見セリ

(C) 気候 (1) 天気ハ概シテ晴又ハ快晴曇天雨天ハ稀ナリ

(2) 雨量從ツテ少ナリ統計ヲ得サルモ雨天最モ多キ七月 (昨年ノ) ニ於テスラモ終日ノ降雨ヲ見ズ最モ長時間ノ降雨ニシテ十八時間ヲ超過シタル事ヲ見ズ降雪ノ少キモ当然ノ理ニシテ昨年 (1913) 中降雪 (微雪) 数回アリシモ地上ニ積雪セシハ只一回ニシテ約三寸五分ニ達ス而シテ冬季ニ於テハ殆ンド降雪ナク春三、四、五月頃ニ多シ (3) 風ハ概シテ東風及西風流行シ微風又ハ軟風普通トス東風ハ天候概シテ良好ニシテ寒冷ニ、西風ハ之ニ反ス秋末ヨリ冬季最寒候ヲ除キ冬春ノ交ニカケテハ殆ンド例日ノ如ク毎日午後ニ砂塵ノ

第十三ページ

疾風又ハ強風ヲ起シ其方向ハ西ヨリスルモノヲ最モ多シトス此塵風發生スル期間ハ約二三時間長クテ五時間ナレドモ全ク外出ヲ防害セラル (4) 温度春ハ暖ク夏ハ稍暑ク秋冬ハ寒キニ過ク試ニ 1913-1914 ニ至ル一年間ニ於ケル最寒ノ日は 1913、十二月二十九日ニシテ当日ノ天気概況ハ午前八時頃半曇静穩ニシテ雲ハ層卷雲 (Strato-Ciras) 最低温度 F,0°, (C-17.5°) 最高温度 F29° (C,-3°) ノ記録ヲ得、最暖ノ日ハ 1913 六月十二日ニシテ午前八時快晴、東ノ微風卷積雲 (Cirro-Cumulus) Min, F53° (C,12°) Max, F81° (C,27°) 午後三時頃西ノ疾風ニ雷雨ヲ伴ヒ約二時間險惡ノ天候ヲ發生セリ

概シテ五六七八九ノ五ヶ月間ハ稍暑ク十月ニハ急変シテ寒冷トナル天候ノ最不良ナルハ七月ナルガ如ク曇天雨天最モ多シト雖モ農事ニハ最モ適當セル天候ト云フ

尚 Lhasa ノ気候ニ関シテハ稍詳細ナル観測表 (1913-1914) 一年間調査ノ分本願寺ニ送付御参考下サレ度本願寺ヘハ該表写シテ貴部ニ差出スベク依頼致シ居キ候。

(D) 衛生状態、西藏中 Chumbi Valley 地方及ビ Gyantse ヲ除キテハ拉薩ハ最モ清潔ナル都市ナリト云フ

此市ノ衛生状態ニツイテ異記スレバ

(1) 不潔ノ程度一有ラユル不潔ノ状態ヲ具備ス、身体及衣類食物食器、家具住所戸外 (道路) 凡テ不潔ニ充チ充テリ最上流社会ヲ除キテハ身、衣ヲ洗フ事稀ニシテ食器等モ多クハ洗ハサルヲ普通トス、会々之レヲ洗フ事ナキニ非ズト雖モ元來清潔ト云フ觀念ナキ国人ナルヲ以ツテ忽チニ不潔ト化シ往々 “物ヲ洗フ” ト云フ

意義ヲ没却スル事多シ

試ニ婦人ノ前垂ヲ見ルニ絶ヘズ雑布ト拭布トヲ兼ヌルガ上ニ鼻カミトモナリ痰ハ
キ場所トモナル手先モ顔面モ新年ヲ除ケバ遺憾ナキ迄ニ垢ト塵ト脂肪トヲ以テ黒
染メニ彩ラレ往々自体ノ天質カトモ疑ハル又試ニラッサ市内ヲ散歩スレバ中央街
ノ一少部分ノ外ハ通所至ル所トシテ大便少便ノ充タサルハナク行クモノヲシテ屢シ
逆行セシム中央街ト

第十四ページ

- 雖モ夜間巡吏ノ無キ時間ニアリテハ同シク便所ト化ス主人ナキ数千ノ餓狗ハ常ニ
大便ヲアサリツツアルヲ見ル、其他中下流民ハ大便後ノ身体ノ始末ヲセサル如キ
ハ吾人ヲシテ実ニ不潔ノ極ナル感ヲ抱カシムルト雖モ身体ノ其部ノ構造ガ馬犬等
ノ獸類ト同様ニシテ特ニ拭紙等ヲ要セサルモノト觀察スルノ外ナシ曾テ吾人ハ支
那ニ於テ不潔ノ極ヲ経験セシト思ヒシニ西藏ニ於テハ更ニ甚タシキ不潔ヲ見ツツ
アリ乞食ノ如キ拉薩浮浪ノ支那人ト雖モ西藏人ニ比シテ尚清潔ト見ルベキ点アリ
- (2) 不規則一切ガ不潔ト共存ナル如ク亦一切ガ不規則ナリ例ヘバ食事ノ如キハ其時間
ト食量毫モ一定セズ要ハ所望ニ応シ之ヲナス差支アルトキ食慾ナキトキハ終日食
事セサルハ普通ナリ但シ“不一定”ガ一定セルハ所謂西藏茶（Buttered tea）ヲ飲
ムニ朝起ヨリ晩寝ニ至ルマデ如何ナル用件アルトモ時間ト場所ヲ問ハズ苟モ静止
セル寸閑ヲ得ル以上ハ殆ンド十分間又ハ長クテ三十分間毎ニ必ズ飲茶セサルベカ
ラズ此不規則的飲料ハ全西藏人ヲ通シテ略一定セル惡習慣ト見ルベシ国民ニ毫モ
“時間的”觀念ナキ事及ヒ“衛生思想”ナキ愚昧ノ結果ハ万事ヲ通シテ規則アル
生活規則アル務メノ必要ヲ解スル能ハサラシム、
- (3) 疾病西藏ニ於テハ疾病ハ実ニ等閑視セラル医術ハ古代ノ旧法土式ニシテ専門ノ医
師ナク主トシテ僧侶ノ副業ナリ疾病ニ関スル統計ナク病名、死因等ノ不明ナルモ
ノ多シ天然痘ヲ除ク外ニ猖獗ナル流行性疾病ナキモノノ如シ患者モ看護ノ任ニア
ル人モ其病状ヲ医師ニ見セ薬ヲ求ムルハ其病氣ガ著シク發達セル頃即チ素人ニテ
ハ看護スル能ハサル重症ニ臨シテ始メテ診察ヲ乞フヲ普通トシ当然死スヲ免ルベ
キ患者ニシテ死スルモノ多シ患者ガ療病思想ナキト共ニ不完全ナル医師、衛生ヲ
目的トセル設備絶無ナリ、西藏人ノ疾病ニ対スル恐怖心ハ実ニ著シキモノニシテ
少シク重態ニ陥レバ必死ヲ覚悟ス病因ヲ自己ノ不衛生不摂生ニ帰セズシテ前生ノ
因縁ナリト思ヒ又惡鬼病神等ノ祟リト思惟シ一度病ヲ得ンヤ※先ツ諸神ニ加護ヲ
仰ギ、惡鬼除去ノ式ヲ行ヒ所謂迷信のノ手段ヲ講スルハ吾人ノ最モ興味ヲ以テ見

聞スル

※先ツ仏ニ祈リ之ヲ供養シ僧ヲ招シテ祈祷式ヲ連日行ヒ、

第十五ページ

所ナリ之レガ為メ大家ニアリテハ費ス所ノ費用実ニ莫大ニシテ祈祷費ニ数千数万
円ヲ投スル者アリト云フ

不潔不規則ハ実ニ是ノ病因ナリト雖モ比較的ニ（予想外）病氣少ナキト猖獗ナ
ル伝染病ナキハ西藏ノ此地方ニ於ケル氣候ガ寒冷ナルト晴天多ク雨量湿度ノ少ナ
キト乾燥ノ甚ダシキ天恵ノ状態ハ病菌ノ発生又ハ存在ニ適当ナラシタザル為ニ起
因セルモノカ？

天然痘ハ実ニ西藏固有ノ流行悪性疾病ニシテ西藏人ノ半数以上顔面ニ此病痕ヲ
残ササルハナシ

此他ニ如何ナル流行病ノ悪性ナルモノガアルカハ詳カナラズ、

(4) 補 (A) 西藏人最上流ヲ除イテハ家宅内多数ノ居室ヲ有スルニ拘ハラズ日常
昼間ノ座所ハ他人ノ応接スル時モ事務ヲ執ルトキモ勉強スルトキモ雑談又ハ遊戯
スルトキモ食事スル時モ夜寝ルトキモ只一ノ座席ニ固着スルノ悪風アリ (B) 冬
季ヲ除キ家屋内ニハ南京虫充填セリ主ニ夜間来襲シ之ガ為メニ蒙ル苦痛ハ大ナリ
ト雖モ之レヲ除去スル積極的方法ヲ講スル如キ賢者ハ西藏人中二三ノ外ニナシ
(C) 虱ハ西藏人ト共存生活セル重要ナル寄生虫ニシテ上下ヲ通ジ虱ヲ規制セシ
メサルモノハ西藏人ニアラス吾人ハ不幸ニシテ此特權ヲ有セサルガ故ニ常ニ異人
視セラル、(D) 僧侶ヲ問ハズ西藏上下常ニ鼻煙草ヲ常用ス、鼻タバコハ白灰色
ノ細粉ニシテ次キノ如キ混合成分ヲ有ス：——(イ)印度産(?)ノタバコノ葉ヲ細
粉ニセシモノ；(ロ)細砂塵(ハ)人畜ノ糞ガ乾燥シテ砂塵ト混セシモノ(ニ)唾痰其病菌ヲ
有セル塵埃已上、

此内(イ)ハ主成分ニシテ(ロ)(ハ)(ニ)ハ自然ニ混入セシモノニシテ特ニ
加入セシメシモノニアラズ、此ノ特製鼻タバコハ先ツ鼻孔ヨリ押込ミテ気管ニ達
セシムルヲ以テ快トセリ近時西藏ノ一首相(shökhang氏)等ハ此鼻タバコノ代
用ニ日本ノ宝丹ヲ試用セシニ結果良好ニシテ近来病氣少ナシト語レリ、鼻タバコ
ト宝丹トヲ比較セル大臣ノ言水冷火熱ヲ説クガ如シ

(E) 風俗習慣、調査報告第一号第十一項御参照

(F) 彼我交通法、同上第九項御参照

(G) 其他ハ第一号各項ニ渡リ拉薩ニ関スル調査御参考

第十六ページ

第二 日喀則城

- (A) 人口。後藏 (Tsang province) ノ大都市 Yeru Tsang-po 川ト Uyangchu 川トノ交流点ニ位置シ海拔約一万二千三百呎。人口約二万五千乃至三万 (?)
- (B) 居住外人。拉薩ニ等シト雖モ数ニ於テ夫々少ナシ最近状態ニアレバ邦人河口氏一行 (凡テ三名?) ハ此地ニ滞在ストイヘリ会見者ノ談ニヨレバ他ノ二名ノ邦人ト云フハ怪シキモノニシテネポール人ナラント云フ
- (C) 気候。拉薩ニ酷似スルトイヘドモ四季ヲ通シ拉薩ヨリハ稍不良ナリ。即夏ハ稍高温ニシテ冬ハ稍低温ナリ (拉薩ノ示度ヨリハ) 雨量ハ大差ナシト云フ西藏此地方特有ノ砂塵風ハ拉薩ヨリ激烈ナリト云フ
- (D) 風俗習慣等拉薩ト大差ナシ若シ其異ナル点等ヲ比較スレバ：^{ママ}着衣裝飾ニ於テ僅カニ異ナル所アリ (婦人ノ頭飾等ハ著シク異ナル事前号風俗写真中ニアルガ如シ)

言語、発音ヲ同シクスレトモ異種ノ名称及使用法ヲ有スモノ二三アリ概シテ言ヘバ二者異ナル点ナシ只拉薩語ハ優美ニシテ不規則語多ク官話、標準語トシテ中央政府ニ使用セラルノニ反シ Shikatse 語ハ文語多ク混入シ音ノ美ヲ欠クト雖モ語ノ性質ハ良好ニシテ学語トナスニ適スルノ感アリ

人情ハ拉薩都人ノ輕薄虚礼多キニ反シ Shikatse 人ハ尊厚朴訥ナル情アリ辞礼ノ修飾モ甚タシカラズ從テ拉薩人ハ伶俐ニシテ Shikatse 人ハ稍世事ニ迂キノ感ヲ与フ。其他ノ風習等ハ毫モ Lhasa ト異ナルナシ

- (E) 衛生状態拉薩ヨリハ稍不良ト見レバ可ナリ
- (F) 彼我ノ交通曾テ後藏ニ於ケル交通上ノ中心タリシガ英ガ Gyantse ニ拠リテ中心ハ此地ヲ去ルニ至レリト雖モ西部西藏及ビ Nepal ヨリスル、商人巡礼者等ハ必ズ同地ヲ通過スルヲ以ツテ甚タシキ打撃ヲ被ラザルモノノ如ク Gyantse ニハ約 50 哩アリテ通常二日程、拉薩ヘハ約百五十哩ナレドモ途中一万六千以上ノ峠一カ所ト Yeru-Tsangpo 渡シノ障碍ヲ加ヘ普通一

第十七ページ

週程トス若シ Yeru-Tsangpo ヲ出来ウル限り利用スレバ約四日又ハ五日ニシテ拉薩ニ達ス。交通機関ハ調査第一号第九項ニ述ベタルニ準拠ス。備考 Shikatse ヨリ下航シテ Chushus (Kyi 河ト Yem 川トノ交流点) ニ至ル間ニハ中間ニ一カ所ノ激流アリテ水山巖ノ間ヲ通シ舟ヲ通セシムルニ若干ノ工事ヲ施スヲ有ス。若シ此地

点ニ工事ヲ施シ川蒸気艇ヲ通セシムルヲ得レハ Shikatse ヨリ Chushus ニ下航シ次ニ Kyi 川ヲ Lhasa アテ遡航スルニハ他ニ難工ノ地点ナキガ如ク多少ノ浚渫ヲ施セバ優ニ通航ノ望アリ（我が入蔵路ヲ示セル地図中 Yeru 川ニ点線ヲ以テ示セル部分即チ此ノ難所ニシテ陸路スラ無キ所ナリ。）

尚 Shikatse Zong ハ達頼法王政府下ノ最大要ノ一州ナルヲ以テ近時郵便線ヲ延長セント計画中ナリ

(G) 其他ノ特筆スベキモノナシ。第一号調査 Shikatse ニ関スル調査御参考。

第十八ページ

第三 Chamdo（察木多）

- (1) 人口。東部西藏 Kham ニ於ケル一大市場ニシテ Mekong 河ノ上流即チ Chamdo 川ノ形成セシニ支流ノ合流点ニアリ人口七千内外アリトノ説ナリ
- (2) 居住外人支那人最モ多ク約千ニ垂スト云フ支那ノ衙門（領事館ノ如キ）アリ駐屯兵ハ 1912 ニ三百アリト云フ、

僅カノ Mahomedans 商人アリ其他少数ノ蒙古人 Koko 人 Bhutan 人等ヨリ他ノ外人ナシトノ説 (3) 氣候拉薩ニ似ルト雖モ冬季ハ降雪アリト云フ

- (4) 衛生状態拉薩ニ比シテ遙カニ不良ナリト云フ、
- (5) 風俗習慣等、中央西藏ニ比シ大ニ異ナルモノアリ身体ノ飾り方、衣服等何レモ特種ノ型ヲ有ス言語ノ如キハラッサニ於テ充分通ゼズ人情ハ比較的温良ナレドモ性質勇敢ニシテ死ヲ畏レズ所謂西藏兵ノ強敢ナリト称セラルモノハ此地方出身ノ土兵ナリ
- (6) 交通等拉薩ヘハ約一ヶ月半ヲ長トシーヶ月ヲ最短トス、打箭爐ヘハ約半ヶ月又ハ二十日間ニシテ支那拉薩間ノ本道ニ当リ重要ナル地点トス途中数多ノ險嶺障礙アリテ彼此ノ交通ハ由来困難ナリト云フ 或種ノ地図ニハ此土地ノ東境ヲ以テ蔵支ノ国境トスレトモ西藏政府ニテハ打箭爐ヲ以テ支蔵国境ト見タリ然レドモ此曖昧ナル Chamdo-Dachienlu 間ハ事実ニ於テ支那ノ勢力下ナリト云フ、
- (7) 附 Chamdo 以西 Gianda（江達）以東ハ目下支蔵南軍ノ衝突地点ニシテ戦局今尚終局セズ

第十九ページ

第四、庫の及如托克

此両地今尚不明経緯度又ハ適當ノ地図アラバ御指定願フ。（曾テ御送附申上ゲ

ル地図中ニ有リヤ否ヤヲモ、)

漢字ノ地名ヲ知レルモノ拉薩ニ無キヲ以テ目下支那人間ニ於テ搜索中、{|從來ト異ナリ拉薩ニ於ケル漢字ナルモノハ殆ンド其存在ヲ認メラレズ政府ノ支那トノ往復文スラ多クハ西藏語又ハ英語ヲ以ツテシ重要ノモノニ限り支那訳ヲ附スル位ノモノナリ| 今後地名等ニハ西藏語 (Roma 字ニテ) 又ハ英語版地図ノ例ニ從ヒテ御下檢下サラバ幸甚、

《附》 第五 攻孜 Gyantse

- (A) 後藏 (Tsang) ニ於ケル唯一ノ一大市場ニシテ人口一万余西藏ニ於ケル交通網ノ一大支撐点ナリ繁榮ナル事 Shikatse ヲ遙カニ凌駕スト云フ西藏ニ對スル貿易モ亦此地ヲツノ集散地トナス
- (B) 居留外人トシテ Mahomedan, Nepales, 支那人, 蒙古人, Bhutan 人, Shikim 人及少数ノ印度人ノ外ニ常住三名ノ英人 (前号既述) 及 50 名ノ印度兵アリ此地外此地ニ旅行スル英官吏ハ数名アリト云フ、
- (C) 英ノ郵便電信局アリ近來又電企画中ナリト云フ、
(其他交通ニ関シテハ第一号第九項御參考、)
- (D) 氣候 冬季ハ拉薩ヨリ寒ク夏季ハコレヨリ暑シト云フ、
- (E) 衛生狀態、ハ Cham^マbi^マ 二次イデ良好ニシテ西藏中ニテハ最モ清潔ナル一ナリト云フ、(英人ノアルタメカ?)
- (F) 風俗習慣等、大抵 Shikatse ノ風ニ酷似スレドモ目下ハ漸次後藏風ト前藏 (Ü) 風トヲ混用シ尚印度ノ影響ヲ受ケツツアリト云フ言語ハ Shikatse トモ Lhasa トモ稍異ナル所アリ、印度語漸ク實用ノ域ニ入ラントシツツアリ、
文明品ノ如キモ Lhasa, Shikatse ニ比シ其供給力大ナリト云フ
西藏緞緋ノ原產地ハ實ニコノ Gyantse ヲ中心トシテ其ノ附近ナリトス、
Gyantse ハ Gyantse Zong ノ所在ニシテ西藏政府ニ於ケル有力ナル Zong ノ隨一ナリ、

第二十ページ

《附》 第六 Chumbi 地方

- (A) Chumbi Valley 一帯ノ地ハ西藏ニ於テ最モ風致ニ富メル地方ニシテ海拔九千乃至一万尺ノ間ニアルヒマラヤ山系ニ屬シ人口モ亦比較的稠密ニシテ主ナル市場ハ Yatong (国境) Rinchangang, Chumbi, New-Chumbi (又ハ Shashima) Lingmo 等トス、

- (B) 居留外人トシテハ Bhutan 人ヲ最多トシ Sikkim 人 Nepale 人少数ノ印度人英人及支那人蒙古人等トス。
- (C) 衛生状態ハ天然のニ療養地トシテ適當セルガ上ニ近来英ノ努力ニヨリ清潔西藏第一ト称セラル清流ノ貫通セシ長原（巾一哩位）各所ニアリ森林アリ氣候温和（冬季ハ降雪アレドモ）ニシテ西藏内地トハ全ク面目ヲ異ニシ Darjeeling ト Kashmir トヲ折衷セルガ如キ風致ナリト聞ケリ。

第二十一ページ

調査第七項

{西藏内道路ノ状況殊ニ青海四川及印度方面ヨリ入藏ノ諸道路ノ状況}
 (道路ニ関シテハ路幅，屈曲，土質，並沿道ノ地形——山腹道カ平地道カ断崖絶壁ノ有無等——車馬ヲ通シウルヤ沿道村落ノ貧富，橋梁有無及抗拒力等ヲ詳細ニ調査セラルノヲ希望ス。)

総論

西藏内ノ諸道路ヲ概評スレバ極メテ不完全ニシテ惡道多ク自然交通ノ必要ニ逼ラレテ人馬ニ踏ミツケラレテ作り上ゲラレタル野蛮道ト云フノ外ナシ。天然ノ障礙^マト對シテハ多クノ勞力ヲ要セズシテ除去シウル外積極的ニ道路ヲ作り又ハ改修等ヲナサズ急坂，山腹道，絶壁，難道所々アリ屈曲又多ク両山巖間ニ於ケル屈曲所々ニ於ケル如キハ長形ノ物件ヲ運搬スルノ妨害トナル事甚ダシ峻坂ニアリテハ通常平均 1/2 乃至 1/5 ノ傾斜アルモノノ如ク觀察セラル地盤ハ山道ニアリテハ一般ニ堅固ニシテヒマラヤ山脈中ノ道路ニ見ル如キ崩壊ハ屢々ナシト云フ。

山腹道，絶壁道通過中不時ニ山岩ノ転墜シテ人畜ニ死傷ヲ生スル如キハ往々之レアリ何レノ道路モ未ダ車ヲ全通セシムルニ至ラズ又冬季ハ降雪，夏季ハ溜水又ハ出水ノ箇所アリテ通行ニ甚タシキ困難ヲ来ス故ニ一般行旅ハ秋春ノ季ニ於テスルヲ可トス沿道ノ村落ハ概シテ貧ニシテ到底之レヲ印度及支那内地ニ比スベクモアラズ普通ノ商道ニ於テモ文明国ノ一中隊ヲ通過セシメントスレバ其需要^マヲ充分供給スル事ハ困難ナルベシ況ンヤ戰時ニ於テヤ曾テ英軍侵入ノ当時（1903-4）最初約三千ノ兵七千ノ一行ハ其糧食ハ無トシテ之ヲ印度ノ兵站基地（Siligri）ニ之レヲ仰ギ西藏内ニ供給ガ最初ヨリ絶無ト見タリ普通旅人ナラバ食糧品中麦粉肉類塩水ヲ得ル事容易ニシテ少量^マノ野菜其他ノ穀類（米ハ絶無）少量ノ薪炭ヲ得ル事容易ナル場所モアリ地点ニヨリテ水ト薪炭ニ乏シキ所アリ多ク人家ノ無キ場所トス薪炭ハ獸糞ヲ主トスルガ上ニ空氣稀薄

ナルヲ以テ充分ナル燃燒作用ヲ起サズ

西藏ト兵ヲ構フルニハ先ヅ天險ト戦ヒ氣候ト戦ヒ生活上ノ困難ト

第二十二ページ

戦ハサルベカラズ一昨々年支那二千余ノ兵ガ万難ヲ冒シテ拉薩ニ到着シ駐屯兵ト協同シテ奮戦シタレドモ強敵ハ西藏軍ニアラズシテ糧食ノ欠乏ト云フ敵ナリ遂ニ弱兵西藏旧式軍ノ為メニ敗ラレ駐藏大臣（Amban）以下百官悉ク拉薩ヲ引キ上ケ帰国スルノ不体裁ヲ見ルニ至レリ。

橋梁等概シテ不良ニシテ極大河ト小河ニハ之レナシ宿泊所トシテハ印度—Gyantse 間約十五哩乃至二十哩毎ニ Bangalow ノ設ケアルト Lhasa—Dacheenlu 間ニ支那設ノ駅舎アル外土人ノ旅舎馬小屋ノ如キモノアルノミニシテ天幕携帯セザレバ旅行ノ目的ヲ達スル能ハザルベシ幸ニシテ此不便ノ土地天候常ニ快晴ニシテ降雨少ナキ故ニ旅行（天幕携帯ノ）ニ適當セリ。

以下拉薩ヲ到着地点トセル入藏ノ諸道ニ就キ諸方面ヨリ聞キ得タル事及自己ノ実見実調査及推測ヲ合セ記ス固ヨリ詳細ヲ望ム能ハスト雖モ他日ノ完成ヲ期シ兎ニ角一通リ略調査ヲ記ス。

第一、青海方面ヨリスル道路

- (a) 道幅広狭毫モ一定セズ。狭キ所ハ僅カニ一人一畜ヲ通シ広キ所ハ広茫タル草原ナリト云フ（商人ノ談）
- (b) 傾斜他ノ西藏内ノ諸道ニ比シ其傾斜優ニシテ行旅容易ナリト（同上）
- (c) 屈曲亦少ナク山巖狭間道ノ甚ダシキモノナシ（同上、）
- (d) 土質知ラズ——未調査
- (e) 沿道地形山腹道断崖絶壁道等少ナク草原多シト云フ（同上、）
- (f) 車ヲ通スル能ハスト雖モ牛馬及駱駝ヲ容易ニ通行セシム遠ク蒙古方面ヨリ新疆ヲ横リ青海ヲ経テ拉薩ニ来ル駱駝商隊ハ主ニ春秋ノ候ニ多ク駱駝ノ通行シウル事ニヨリテ道路難易略察スルニ足ル、
- (g) 沿道ノ村落極メテ少ナク数日間村落ナキ所又多クノ部落ハ天幕生活セル畜牧ノ民ノミ多シト云フ（同上、）
- (h) 沿道村邑ノ大ナルモノ即チ市場トモ云フベキナルハ

Nak'chu（拉薩ヨリ約2週間程）Tongke（?）Sirim（=Sirtim?）Chek'ompo（?）等ノ市場アリト云フ（同上）支那西寧及甘州又ハ肅州ノ各地方ニ出ズルニハ此等ノ諸邑通スルモノト相像セラル他日詳細ナル経過地点各ヲエテ報告申上グ。

第二十三ページ

- (i) 抵抗力, 天然性抵抗力トシテ天険(比較的少ナケレドモ)寒冽, 村落人口稀薄ニシテ供給力微弱ナル等人為的ニハ殺人, 強盗最モ多ク行旅困難ナリト, 政治上, 国際上ノ抵抗力ハ極メテ弱ク西藏政府ノ承認サエウレバ入蔵ハ最モ容易ニシテ拒止スル所殆ンド無シト云フ(巧ニ扮装スレバ)

第二 四川省ヨリスル道路

- (a) 路幅一定セサルモ概シテ狭隘ナルト云フ。(旅行商人ノ談)
 (b) 傾斜甚タシト雖モ荷物ヲ搭載セル普通牛馬ノ通行ニハ大ナル支障ヲ生セズ先年支那ノ侵入軍ハ数個ノ七璫山砲ヲ馬又ハ騾馬ニテ容易ニ拉薩マデ運搬セリ.
 (c) 屈曲山腹道絶壁道山岩狭間道ニ屈曲多シト云フ馬牛等ノ全身長以内ノ長サヲ有スル物体ナラバ支障トナラサレドモ之ヨリモ著シク長キ物件ハ通過シ能ハサル所アリト云フ(同上)但シ多少ノ工事ヲ施シツツ巧行進スル時ハ此障碍ヲ除ク事ヲウト云フ,
 (d) 沿道地形谷道山腹道断崖道, 絶壁道各所ニアリ平地道ハ極メテ少ナシ打箭爐ヨリ Lhasa ニ至ル大小約七十余ノ峠ヲ越エザルベカラズト云フ(同上)
 (e) 車馬ハ目下利用スル能ハズ (f) 土質——知ラズ未調査.
 (g) 沿道村落西部中ニテハ比較的富メル部分ニテ会々一兩日間村落ナキ所ヲ通過セザルベカラズト雖モ其他ハ糧食等ノ供給力ハ普通旅人ニハ容易ナリト云フ, 十五哩乃至廿哩毎ニ支那式ノ駅舎アリトノ説也沿道村落ノ大ナルモノハ Dechen, Met'uk'onkan; Giamda; Hearigo; Alado; Pempa; Shopado; (及ビ Zitho) Chamdo; Traya; Balang; Litang 及 Lachenlu; 尚別路ハ Chamdo ヨリ Derge 及 Nyarong ノ諸大邑ヲ経テ Tacheinlu ニ達スルモノアリ
 (h) 橋梁不完全ナレドモ凡テノ河流ニ架セリト云フ, (同上)
 但シ目下拉薩ト支那トノ国際的交通絶ヘ加フルニ交戦中ナルヲ以テ橋梁ノ完全ニ現存スルノ有無ヲ確言スル能ハズ
 (i) 抵抗力, 天然ノ抗拒トシテハ以上ノ天険ト冬季ノ降雪ト供給力ノ

第二十四ページ

充分ナラサル事等,

人為的抗拒力トシテハ需要ニ応セサルコト, 盗難(強盗)アルコト, 及政治上ヨリ入蔵ヲ厳禁スルコト即支那方面ヨリハ支那官憲ニヨリ西藏内ニテハ西藏官吏ニヨリテ拒止セラル(西藏内ニテハ支那政府ノ旅券(護照)ハ無効ナリ)

第三、印度方面ヨリスル道路、

数篠ノ入蔵路アリ、本道＝本商道トナレルモノハ Lhasa-Darjeeling (or Siliguri) Via, Gyantse, Phari, Chmbi ナリ

- (a) 路幅一定セズト雖モ Darjeeling-Gyantse 間ハ西藏内第一ノ良道ナリ目下英ハ瀕リニ改修ヲ加ヘ居レリ Lhasa-Gyantse 間モ不一定ナレドモ Gyantse-Darjeeling 間ニ比スレバ劣等ナリ、
- (b) 傾斜所々ニ急傾斜ヲ有スル山道（峠）アリ但シ Gyantse-Darjeeling 間ニハ甚ダシキ急坂ハ目下漸々除去セラレツツアリト云フ、
- (c) 屈曲 Lhasa-Gyantse 間ニハ甚タシキ屈曲アリテ工事ヲ施スニアラサレバ十呎乃至十五呎位 (?) ノ長サヲ有スル物件ヲ通過セシメル能ハサル所アリ Gyantse-Darjeeling 間ニハ此種ノ障碍ハ全ク除カレタリト云フ、
- (d) 土質、Lhasa 及附近ハ主ニ石灰岩層ヲ成セリ Lhasa ヨリ Chushur ニ至ル Kyi 川ノ流域ハ石灰岩層モアレドモ各所ニ花崗岩層多シ、Kyi 川及 Yeru Tsangpo 川中ノ石岩ハ主ニ黑色ノ石英及花崗岩ノ砂礫ヨリ成ル Tsangpo ノ流域ニ於ケル此本道トノ交叉点附近ハ花崗岩ノ外ニ粘岩層（外成岩）ヲ各所ニ見ル、之ヨリ Gyantse ニ至ル通路ハ（余ノ実見ニ非ズ）石灰岩層ナリト云フ。南行シテ Kagmar ニ至ル中間ニアル所謂 Red Gorge 地方ハ花崗岩ニシテ Kagmar 附近ハ数個ノ温泉アリト云フ、是ヨリヒマラヤ山脈中ニ入り Chumbi Valley, Dotak 附近ハ花崗岩、粘板岩ノ外ニ泥岩層多シト云フ。是ヨリ以南 Chumbi 谿原地方ヲ通シ片麻岩雲母片岩層ヲ主構成層トス Tista 川ノ流域（以下実見）ト本道トノ交叉点附近ハ黑色ノ粘板岩層泥岩層ヲ主トシ Darjeeling 附近ハ主トシテ雲

第二十五ページ

母片岩層ヲ以テ構成セラル、

- (e) 沿道地形、山道、谷道、平地道断崖絶壁ヲ通ズル道等各種アレドモ險惡甚シト云フニ非ズ主ナル峠ヲ列举スレバ

Khamba pass	S. L.	16600f	Lhasa ヨリ約 45 miles
Kharo pass	〃	16300f	Khamba pass ヨリ約 52 m
Tung pass	〃	15200f	Kharo pass ヨリ約 125 m
Jelep pass	〃	14390f	Tung pass ヨリ約 42 m

其他余ノ曾テ通過セシ地方ニ於テ Tsangpo 川ハ Chusur 附近ニ於イテ Kyichu (Kyi 川) ハ Nethang 附近ニ於イテ一面ハ絶壁、他面ハ深水又ハ絶壁ヲ通スル險

道等アリ商業上ハ重要視スル程ノ障碍力ヲ有スル所ニアラズト云ヘドモ軍ノ略術上ハ経視スルヲ許サズ、実ニ Kyi 川及 Yaru Tsangpo 両河ノ交流点ハ印度ニ対シ拉薩ノ咽喉ニシテ拉薩ノ生ノ過半ハ此地点ニ於テ左右セラル

- (f) 車道、車ヲ全通セシムル能ハスト雖モ Gyantse-Phari 間ハ充分ニ此ヲ利用スル事ヲウ、既二十余年前（1903）英軍侵入ノ当時此ノ間ニ Ekka-gari（一種ノ馬車）ヲ軍ノ運搬用ニ使用シタルノ实例アリ、
- (g) 沿道ノ村落、西藏中ニテハ最モ文明化シタル村落ヲ有シ Gyantse 及 Chumi ノ如キ市場アリ相当ニ供給力ヲ有シ概シテ豊富ナル村落アリ文明品ノ供給力ニ欠ケル事ハ西藏ヲ通シ何レモ同一ノ不便状態ニアリト云ヘドモ此道路ニ於テハ印度ニ近キダケ多少ノ文明ノ余光ニ浴スルノ感アリト云フ

沿道ノ各所ニハ十哩乃至廿哩毎ニ英ノ Dak Bangalow アリ西藏ノ各道路ヲ通シ食糧中食肉ハ最モ豊ナルノ概アリ

沿道村落ノ重ナルモノハ

Lhasa ヨリ Nettang; Chusul; Pelta; Ralung; (or Gyantse); Kagmar; Phari; (Sharsima)

Kalimpong (or Darjeeling, Siriguri 等)

- (i) 抗拒力、天然性抗拒力ハ冬季ノ雪寒ノ外ハ近来漸次ニ除去セラレツツアリ之ニ反シ人為的抗拒力ハイヨイヨ強大トナリ（国際上）Darjeeling

第二十六ページ

Gyantse 間ニ於イテハ其警戒嚴重ニシテ秘密入蔵ハ最モ困難ナリトス印度 Darjeeling Kalimpong 附近ニ於イテ普通遊覧客ニ対シテスラ特別ノ注意ヲ払ヒ外旅行者ノ最モ不快トスル所ナリ殺盜其他ノ難ハ殆ンド全滅シ西藏中最モ安全ナル地方也

第四 其他ノ入蔵路

支那方面ヨリスル内青海及四川ノ外ニ雲南ヨリスルモノアリ

印度方面ヨリハ Bhutan 經由ノモノニヨリ其東境ノ Dewang-ri 及西藏ノ Tsunazong 經由 Lhasa ニ通スルモノ及ビ其西境ヨリスルモノハ印度境 Boxa Station ヨリ Bhutan, Paro ヲ経テ西藏ノ Phari ニ出スルモノ、Tashichumzong ヲ経テ（又ハ Punaka）西藏 Kagmar 附近ニ出スルモノトアリ、

Nepal ヨリスルモノハ普通首府 Khatumandu 經由 Kyirong pass ヲ越エ Shakya-Shikatse 又ハ Gyantse ヲ通シテ Lhasa ニ入ルモノ、（余ハ Nepal ノ東端 Elam ヨリ Everest mt ト Khanchinjang mt 両峯ノ中間ヲ横ギリ Motidung 湖ヲ通り Shikatse ニ出ツルノ道ヲトレ

り)

Sikhim ヨリスルモノハ Darjeeling ヨリ Sikhim, Lachen ヲ経テ西藏ノ Khambazong ヲ
経 Shikatse 又ハ Gyantse ニ出スルモノ其他 Chinese Turkisten ノ各地方ヨリスルモノ、
Ladak Leh ヨリスルモノ等ノ諸道アレドモ天然ノ障碍力強力ニシテ人馬ノ交通スラ容
易ナラズ加フルニ殺盜、難多ク沿道ノ供給力極メテ微弱ナリトス特ニ Leh 及 Chinese
Turkistan 地方ヨリスルモノハ数日間村落絶無ノ所多シ、此等ノ通路ガ困難ニシテ重
要ナラサルダケ政治上国際上ノ抗拒力ハ極メテ薄弱ニシテ西藏政府ノ証明ヲ有セルモ
ノ又ハ同人種同宗教ノ国民ナラバ入蔵ハ比較的容易ニシテ強盜、殺人及道中ノ困難ヲ
賭ストモ国境通過ノ如キハ容易ナリトス、

要スルニ西藏内ノ諸道ハ工事ヲ施スニ非ラズンバ商業上ノ目的ニモ軍事上ニモ著シ
キ支障ヲ生スルコト今日ノ現状ノ如シ先年全盛ヲ振ヒシ支那駐劄大臣及支那人ガ今日
ノ如キ破滅ニ陥リ支那ノ勢力トシテ

第二十七ページ

何等 Lhasa ニ認ムベキモノナキニ至リシ一原因ハ策源地トノ連絡線ヲ完全ニセザリシ
ハ明ナリ、

第二十八ページ

調査第八項

〔 金江、怒江、雅魯藏布江、其他河川ノ障碍力
水深、水幅、河幅、兩岸ノ景況（斜面力、堤防力、斷崖力）橋梁ノ有無、降
雨ニ際シ増水ノ景況 〕

第一 金江

- (a) 水深、支那（打箭爐）拉薩ニ通ズル本道トノ交叉点ニ於テハ水深一米乃至三米内
外ナリトノ説（一土人ノ談）
- (b) 水幅、同渡河点ニ於テハ 40 乃至 50 米アル由（同上）
- (c) 河幅、同点ニ於テ最短 40 米最長 150 米乃至 200 米内外ナラント云フ、（同上、）
- (d) 兩岸ノ景況、斜面ノ所及小シク斷崖ノ所アリ（同点ニ於イテ、）堤防ハ目下ナシ
トイヘリ、（同上、）
- (e) 橋梁、アリ、長サ約 40 米幅約二米半位（？）普通ノ搭載ヲ施セル牛馬二列行進ヲ
ナス事ヲウルノ幅ヲ有スト云フ、（同上、）
- (f) 夏季降雨ノ際ハ約 2 米弱ノ増水ヲ見ルト云フ（同上）冬季ノ最減水ノ水面ヨリ、）

第二 怒江

知ラズ……未調査,

第三, 雅魯藏布江,

- (a) 水深詳細正確ニ調査シタルコトナキモ曾テ余ノ通過シタル流域 Shikatse ヨリ Chushur ニ至ル間ニ於テ最深ト想像セラル部分ハ水深約十五米乃至二十米位ナルベシ (魚舟ニ繫ケル碇綱ノ十五六米許リナルヲ全部水中ニ浸マスマデ碇ノ水底ニ着セザルヲ実見セリ) 平均水深ハ二米内外ナルベシ Lhasa-Darjeeling ノ本道ノ交叉点 Chaksam ニ於テ八十米弱アリトノ説ナリ,
- (b) 水幅. Chaksam ニ於イテ水幅 180 米乃至二百米也
- (c) 河幅. 同地点ニ於イテ約三百米ナリ

第二十九ページ

其他水中三四百米ノ所河巾一哩以上ニ及ブ所アリ.

- (d) Chaksam ニ於テハ小断崖アレドモ渡河点ニハ僅カノ斜面存ス此ノ正対岸モ同様傾斜面ヲ有ス,
Yeru Tsang (雅江) ヲ通シ其兩岸ハ堤防ノ設ケナシ平面地点断崖絶壁, 傾斜面, 急傾斜面各所ニアリ
- (e) 橋梁 Chaksam ニハ昔 (今ヨリ約四百余年前?) 架設セラレタル鉄吊橋アリ長サ約四十余米幅 (通行点幅) 約一呎余ニシテ同時ニ一人以上ノ人間ト牛馬等ハ絶対ニ通行ヲ許サレザリキ, 今日ニテハ単ニ歴史の一遺物トシテ保存セラル、ニ過ギズ後藏 Shikatse ヨリ Chaksam 以東橋トイフベキモノハ目下此外ニ絶無ナリト云フ,
- (f) 増水, 夏七八月頃水量尤モ大ナル時ニ於イテハ冬季最小量水ノ面ヨリ約三米内外ノ上昇ヲ見ルトイフ,
- (g) 渡河用ノ舟ニ二種アリ, 即チ木舟ト皮舟ノ二トス木舟ハ主ニ河ヲ横ギル際ニ用ヒラレ舟頭ニハ木製ノ馬首ヲ飾リ舟ノ形ハ長方形ノ箱型ヲナス. 西藏語ニテ“車”ノ事ヲ རྩོམ་མཁོ་ལོ། “木馬輪”ト云フ如ク舟 (ལྷོ) ニハ此ニ相当セル普通語 (学語ニハアリ) ナシト雖モ舟ノ实体ガ即チ“水上ヲ行ク木馬”ヲ意味ス, 此舟ハ牛馬ナラバ十五頭乃至二十頭ヲ搭載シウベク人間ノミナラバ四五十人ヲ載セウルモノトス渡河法ハ舟中ノ櫂口舟側ニ繫ケル繩ヲ陸上ヨリ引キ寄スルノ協同法ヲ以テセリ,

次ニ革舟ハ渡河及航河ノ兩用ニ使用セラル木製ノ骨組ニ（長方形）Yak 牛ノ皮ヲ張りタルモノナリ土語ニテ此革舟ヲ ཀོ་འ་ (ko-wa) ト云フ Kowa トハ革ノ意ナリ、約二十人内外ノ人間ヲ載セウル外家畜ハ羊ヲ除キ他ハ搭載スル能ハズ

河川ノ下航スルハ皆コノ Kowa ニヨルモノナリ、（遡航スルコトヲ知ラズ）河川ノ兩岸ハ前記ノ如ク所々ニ岸壁アルヲ以テ河川ニ沿フニ道ヲ通スルハ局部ニシテ全部ニ及ハズ故ニ下航セル Kowa ハ再ヒ上流発航点ニ持チテ帰ラサルベカラズ舟夫ハ一人ノ力能クコノ一隻ノ Kowa ヲ背オヒ長途ヲ行ク重量（Kowa ノ）八貫内外ナラント推測セラル、

- (h) 曾テ日露戦争ノ当時、英軍ガ此河ヲ Chaksam ニテ渡河セシ

第三十ページ

ハ 1904 ノ八月ニシテ六百五十ノ英兵ト四千余ノ印度兵アリ、拾ポンド砲及七ポンド砲各々二個ト数個ノ機関銃、及所要従軍労働者ト此等ノ衣、食（人、馬）住（天幕）ヲ有セル一行ハ数個ノ木舟ト革舟ト四個ノ Berthon-boat ヲ以ツテ渡河セシニ敵ヨリ何等ノ妨害ヲ蒙ル事ナクシテ全部渡河ヲ終了スルニ要セシ日数ハ六日間ナリシト云フ、但シ当時一木舟ガ一往復ニ要セシ時間ハ約三十分ニシテ一日三十回ノ平均ナリシト云フ、彼等ノ帰途ハ此地ヲ上流ニ去ル事約十哩水幅約百余米ノ地点ヲ選ビ無論何等ノ妨害ナクシテ約三日間ニ渡河ヲ終了セシメタリ但シ渡河セシ人畜物件ノ数量ハ殆ンド前ト同シケレドモ水幅ノ狭キト（前往ノ地点ハ約 180 米内外？）前ノ経験ノ然ラシメタル上ニ多分木舟ノ数豊カナリシナルベシト想像セラル、

- (i) Shikatse—Chaksam 間ニハ一カ所舟航ナシ能ハサル激流地点アリ、（Chaksam ノ上流約二十哩ノ所）此地点ヲ改修工事ヲ施セバ此二点ハ通常三日間ニシテ下航スルヲ得ヘシ Chaksam ヨリ下流即以東ハ約二百哩ノ間ハ土人ノ言ニヨルニ水流緩慢ニシテ河幅水幅共ニ広ク優ニ大形ノ木舟ヲ航行セシムルニ足ルト言フ、

因ニ Chaksam ニ於ケル水流ノ速サハ一時ニ約哩弱ナラント云フ、

其他支那ニ通スル方面及青海ニ通スル方面ニハ幾多ノ大^{འཕྲུལ་ལྷོ་ཁྱུ་}少^{འཕྲུལ་ལྷོ་ཁྱུ་}河川アレドモ大低金沙江ノ類ナリト云フ、但シ北部西藏地方ニテハ夏季ノ外ニ水ナキモノ多キヲ以ツテ架橋セル河川ナシト聞ケリ、印度方面ニ対スル通路ニ当ル川河ハ何レモ良好ナル橋梁アリ但シ大河トシテハ Yeru Tsangpo 及 Tista ノ兩河ノ外ニナシ前者ニハ橋梁ナキモ後者ニハ良橋アリ、

概論スルニ西藏内ノ道路ト云ヒ河川ト云ヒ商業上ノ目的ニスラ充分適當シタルモノナリ、天險ト河川ハ実ニ道路ノ大支障トシテ西藏ヲ封鎖國タラシムルモノナリ、若シソレ西藏内ニ於テ軍事ノ行動ヲトラントスルニハ天險ニ加工シテ良道路ヲ開キ河川ニ良橋ヲ通シ策源線ノ健全ヲ計ラバ数百ノ兵能ク西藏全土ヲ侵略スル事ヲウ、

英、支ノ如キ数千ノ大兵ヲ動カスノ愚ヲ学ブ必要ナシ、

第三十一ページ

調査第十五項

{西藏利源及将来ノ予測}

第一 西藏利源

従来其利源ト見做サルベキモノハ牧、農、鉍ニアルモノノ如ク商業ハ甚ダ幼稚ニシテ従来ハ主トシテ Chinese, Nepal, 及 Mahomedan 商人ニヨリテ殆ンド占有セラレ羊毛ヲ除イテハ西藏人ニ商権絶無ノ有様ナリシガ支那ノ勢力ガ中央西藏ニ全滅シテ以来ネポール、マホメツダン商人ニモ多少影響シ今ヤー変シテ西藏商人ノ手ニ移ラントセル時機ナレドモ機敏ニ欠ケル愚商人ナル故此機会ヲ以ツテ發展スルノ計画ヲ立テザリシタメ反ツテ商業界ノ波瀾ヲ生シ物価騰昇シ目下緊急ナル状態ニアリ、工業ニ至リテハ更ニ幼稚ノ域ニアリ美術工芸ニ関シテモ特筆スベキモノナケレドモ仏教ノ伝播ト共ニ多少見ルベキモノナキニアラズ要スルニ西藏ノ利源ハ当分之レヲ天然品又ハ未製品ニ待ツノ外ナク目下西藏ノ製品トシテ特筆スベキモノヲ發見セズ

- (A) 牧畜業、由来西藏ニ於ケル最大利源ニシテ羊、山羊、ヤク、ヲ以ツテ主トナス、此等ハ西藏人ニハ一日モ欠クベカラザル衣類ト食用ノ原質ニシテ西藏人ノ用ヒ余シタルモノハ之レヲ印度ニ輸出ス、其額実ニ莫大ナリト雖モ最近時ノ統計ヲウル能ハズ其他牛馬、騾馬、驢、青海新疆地方ヨリ産スルモノヲ主トシ西藏ニテハヤクト共ニ只一ノ交通機関トシテ重要視セラル、
- (B) 鉍業、現状ニ於イテハ採金鉍ノ主ナルモノ三カ所アリ其最良ナルモノハ東部西藏ノ Litang 及 Nyarong 地方ニシテ次ハ西部西藏ノ Gangis 川ノ上流ニ近キ地方 Simla ノ東北部ノ地方ニシテ次ハ Bhutan ノ東境ニ近キ Tsuna zong ヨリ北行約二日程ノ所ニアリ、外ニ各地方ヨリ少量ノ採金アリ銀ハ Nyarong 地方ヨリ産ス、(打箭爐ノ西方一帯)採金法ノ幼稚ナルハ勿論、砂中ヨリ砂金ヲ採ルニ水洗ノ方ニヨルトイヘドモ如何ナル式ナリヤ詳ニセズ又其産額ノ統計モ得ズ他日実地調査ノ日ヲ待

ツ、

(C) 農業、農産物トシテハ大麦小麦ヲ主トシ豆類、大根等ノ野菜類

第三十二ページ

ヲ多少ニ産スレドモ其量西藏人ノ需要ヲ充スニ過ギズ

(西藏全人口ハ百五十万乃至二百万ト概算セラルトモ事實政府ノ權下ニアル全人口ハ百万位ナルベシ) 中央西藏ヲ通シ耕作ニ着手セラレシ事ナキ田野ハ約全野ノ半ニ及ブ蓋シ河澍ヲ利用セラルト国民ノ少ナキ上ニ勤勉ナラサルト納税ノ關係上放棄セルモノナリト見ラル、

大麦粉ハ国民上下ノ區別ナク欠クベカラザル常食ニシテ小麦ハ寧口副食物ナリ、豆類モ亦家畜ニ必要欠クベカラズ野菜ハ大根及馬鈴薯ヲ主トシ青菜及白菜モ・スレドモ概シテ欠乏セリ故ニ大根ヲ除キテハ野菜ノ價格ハ最モ高シ

(D) 商業、西藏産商品ノ主ナルモノハ羊毛、ヤク毛、及尾、土製羅紗、麝香、土製毛氈等ニシテ外来ノ商品ノ主ナルモノハ茶、(磚茶) 絹織物、羅紗類其他ノ織物類及雜貨日用小間物品トス、

羊毛ハ輸出品ノ第一位ヲ占メ磚茶ハ輸入品ノ第一位ヲ占ム、羊毛ハ政府直屬二三商人ノ占売ニシテ北方西藏ノ政府ノ權、余リ大ナラサル地方ノ牧民ノ外ニ一般人民ニ此特權ナシ、

磚茶ト絹織物ハ支那人其他羅紗雜貨ハネポール、マホメダン及西藏人ニヨリテ商ハル、商風ハ小売風ニテ首府 Lhasa ノ主ナル商店ハ約五百ヲ出デズ其他ハ多クノ露店ナリトス、日常雜貨、日用品ハ皆印度ヨリ輸入セラルモノニシテ原產地ハ獨、米、粳、似、日、印度ヲ主トス日本製品ハ主トシテマッチ(オーストラリア、スヘデンノモノト競争ス、) 小間物、雜貨、文具品、石鹼等ヲ見ル、英國品トシテハ上等ノラシャ類ノ外小刀アルノミニシテ粗製、乱造、廉価ノ品物ハ獨、米、粳、日、印ニ限ラル、陶器類ハ主ニ支那産ナレドモ日本ノ偽製品カトモ思ハル、宝石宝玉類ハ支那蒙古印度地方ヨリ來ルトルコ石、眞珠、珊瑚ハ欠クベカラザル裝飾品ナリ、トルコ石ノ値ハ一定ノ標準ナク全ク鑑定ニヨリテ良否ヲ定ムルガ如シ、眞珠ハ重量ニヨル粗品多キタメ値モ驚ク程ノモノナシ、珊瑚ハ普通品ニシテ我五十錢銀貨(旧式ノ) ト同重量ヲ有スルトキハ其値約六円位ニシテ優等品ハ十五円乃至二十円位ガ今日ノ相場ナリ、金剛石、ルビー、等モ必要ノ裝飾品ナレドモ優等少ナシ、其他文明武器ノ價格ハ非常ニ暴騰シ兵銃、獵銃、短銃ハ文明地ニ於ケル

第三十三ページ

原価ノ三倍五倍乃至七倍ニ達ス。

通貨ハ西藏政府鑄造ノ銅貨ニハ左ノ数種アリ、

Khak'ang (我二錢五厘位) Karmanya (約五錢) Chbegye (約 7½ 錢) Shok'ang (我約十錢)〔此外 Khapchbe (約一錢三厘位) Khacha (約十二錢五厘) アレドモ名称ノミニシテ実貨ヲ有セズ〕銀貨ニハ Tranka (約十五六錢) 之レヲ數個ニ切断シテ Karmanya 及 Chhegye, Shokhang 等ヲ人民各自ニ製シ市場ヘ通ズ

外ニ Ngusang (我約一円) ト云フアリ、近時一般人民ハ之ノ金ヲ喜ハズ九十錢位ニ通用スルノミ。特ニ Lhasa 以外ニテハ信用セラレズ反ツテ Darjeeling 地方ニ知ラル、

支那通貨トシテハ四川省鑄造ノ五十錢貨(約四十八錢ノ相場)ハラッサ市場ニテ最モ勸迎セラレ其他支那ガ Lhasa ニテ鑄造セシ十五錢銀貨、三十錢銀貨(我相場ニテ)モ歡迎セラル西藏政府ノ銀貨ハ実ニ不評判ニシテ古キモノハ多少ノ割引ナクシテハ通用セズ支那ノ勢力ガ地ヲ払ヒタル今日モ其通貨ノミハ古ノ旧態ヲ改メズ勢力偉大ナリト云フベシ次ニ印度貨幣、紙幣ハ共ニ未ダ直接通用セズト雖モ其勢力侮ルベカラズ所謂 Rupee ハ約六十五六錢位ニ通用シ紙幣モ又同種ノ相場ニテ換金行ハル

露貨及露ノ紙幣ハ余リ嬉シガラレズ主トシテ蒙古商人ニ通用セルヲ見ル西藏政府発行紙幣ナルモノハ從來ナシト云フ、

度量衡ハ最モ不完全ニシテ(A)尺度ノ制ナシ多ク手指、腕及兩腕ノ長サヲ以ツテ測ル但シ商品ノ輸入品ニ対シ織物ノ長サヲ計ルトキハ其幅員ト等シキ長サヲ以テ測ル、即チ其正方形ヲ以テ標準トス支那式ノ一尺位ノ尺度ハ時々裁縫師ニ使用セラルノヲ見ル、大形ノモノ例ヘバ家室ノ大キサ、田地距離等ハ兩手ヲ張りタル長サ又ハ足歩ヲ以テ計算セラル重量、秤アレドモ分銅ハ怪シキモノナリ小重量ノ秤ハ近來外入ノモノアレドモ土式ハ主ニ通貨ヲ以テ相比重量ヲ計算スルニ過ギズ例ヘバ真珠ヲ買ハントスルニハ銀幾何ノ重サ、値幾何ト云フガ如シ、客積客量ヲ計ルモノモ大小数種アレドモ同種ノ客計器ノ内ニ多少ノ大少ヲ見ル概シテ西藏人ニハ物ヲ測定計算スルノ概念乏シク多クノ度量衡ヲ要スル商品ハ目分量手加減ヲ以テ売買セラル、

第三十四ページ

第二、将来ノ予測、

(A) 牧畜業. 今日西藏ノ山羊, ヤク等ニ於ケル斯業ハ単ニ外敵ニ対スル保護ノ外自然ノママニ放任シテ尚西藏全国民(200,000)ノ需要ヲ充タシ余裕ハ之レヲ外国ニ輸出ス輸出額(羊毛)ハ之レヲ精細ニ知ル能ハズト雖モラッサニ於ケル専売商人ノ手ヲ経テ印度ニ輸出セラレタル総額ハ1912ニ於テ大約百六十万斤乃至百八十万斤ナラント云フ, 若シ今日ノ如ク斯業ヲ遊牧民等ノ占業ニ任セズ食草飼養法養殖法等ニ適當ノ方法ヲ施シ貿易業ヲ専売商人ノ手ヨリ回復スルニ至ラバ羊毛ノ産額及其性質ニ於テ優ニ現在ノ倍額ニ達スベシト信ゼラル. 羊毛ガ西藏人ノ衣類ノ主ナルモノニシテ土式毛布, 及西藏製緞・及其他苟モ綿ノ代用トシテ西藏ニ於テハ欠クベカラザル原料トナルガ上ニ其肉ハヤク肉ト共ニ西藏人ノ生命ヲツナケル一要素ナリ. 他日西藏ニ鉄道ヲ見ルノ日此等ノ美味ノ肉ハ外人モ亦其恩恵ニ浴スルノ日アルベク比較的廉価ノ羊毛ト共ニ内外ヲ利スルコト尠ナカラサルベシ,

ヤク毛ハ冬春ノ交ニカケテ之ヲ刈ルトキハ羊毛ニ代ル良質ヲ有シ其毛黒褐色(白色ハ少ナシ)ナレバ Blanket ノ製造ニハ適當ナルベシヤクノ尾ハ船具用ノ繩ノ製造, 其他一切ノ Brush 類ヲ製スル為メ年々印度ニ輸出セル額ハ増加シツツアリト云ヘリ 1912ニハ約五千斤以上ニ達セリトノ説アリ尚副産物タル Butter ハ其質善良美味廉価ニシテ優ニ貿易品トナスノ価値アレドモ交通上ノ状態ガ改革セラレズシテハ望ムベカラズ因ニ西藏高原ニ於ケルヤクノ特性ハ (a) 牛ト等シク重荷ヲ以テ長途ノ行旅ニ堪ユ, (b) 海拔一万五六千以上ニ達スル及ブ空氣稀薄ナル嶮峻ノ山道ヲ容易ニ服役通行ス, (c) 寒冽ニ堪ユル性最モ強ク二万尺以上ノ最寒冷ニアリテモ凍死スルコト稀ナリト云フ, 雪中ト云ハズ氷上ト云ハズ彼等ノ寢所トナスニ足ル, (d) 三日乃至五日間ハタトヒ食草欠乏ストモ服役ニ支障ヲ生セズ, (反雛獸ニシテ胃ニ自由ヲ有スルタメカ) (e) 西藏ニ於テハ特ニ彼等ノ食物ヲ給スルノ要ナシ, 何トナレバ服役後彼等ヲ放逐スレバ食物ノアル所ニ至リ勝手ニ食スレバナリ, 以上其欠点トモ云フベキハ速力ノ遅キコト牛ニ等シ(但シ日本ノ牛ノ速力ニ等シ)次ハ其性質ノ温順ナラサルコト即チ人間ニ危害ヲ加フル等ノ傾向ハ毫モナケレドモ人ヲ恐怖又ハ忌避スルノ性ヲ有スル如シ単ニ労働ニ就クラ嫌フ為メ反抗ヲ僅ニ示スノミ,

第三十五ページ

是等ハ当然ノ欠点ト見ルベキモノト云フベシ蓋シヤクハ生活上ニ於テ毫モ人類ノ

恩恵ニ浴セズ然モ人間ニ労働ヲ献シ綿花ヲ与ヘ、美肉、乳、(Butter)ヲ供給スルガ上ニ皮、骨ヲモ需要ニ供ス。凡ソ世界中最モ有利ナル家畜ナルベシ、次ニ馬、騾馬ノ良善ナルモノハ主ニ青海方面(蒙古等)ヨリ産スレドモ一般ニヨリ高原産ノモノハ寒冷ト天陰ニ適合セリ。{先年印度総督ガ^マライ^マ法王ニ献シタルアラビヤ産及濠州産ノ乗(上)馬ハ入蔵後 Phari ヨリ Samding ニ至ル途中ニ於テ悉ク死セリ(夏七月ヨリ八月ニカケテ)} 西藏高原ヲ通シ此種ノ畜類ノ特長ハ実ニ天陰ノ往復ニ適シ寒氣ニ堪ユルニアリ粗食小品ニ甘ンジ寒天ニ養曝シテ(既ヲ要セズ)服役スルノ特性ヲ有スル点アリ軍馬ノ一部トシテ之ヲ養成スルノ望アリ、

- (B) 鉱業、採金所ハ三カ所ノ外各所ニ小産出ノ採金所アリト雖モ之レガ実地ヲ調査シ能鉱脈等ノ分布状態ヲ研究スルニアラザレバ予測スル能ハズ西藏ヲ通シ金銀銅其他金属鉱及実用鉱物、宝石類ノ産出ハ有望ナルモノノ如シ、ト雖モ由来西藏ノ国是トシテ農ヲ以テ本トセル故ニ鉱業其他ノ鉱物発掘ハ“水、土”ヲ中毒疲弊セシメルト称シ又ハ諸神ノ怒リニ触レテ人類ニ不運ヲ生スト迷信シ此種ノ業ヲ忌避スルコト今モ猶然リ愚蒙ヲ啓クハ急務ニ属ス、目下西藏ニ於ケル磁産ノ主モナルモノハ金銀ノ外ニ亜鉛、鉛、黄銅鉱、黄鉄磁、石墨泥炭及灰白色ノ石炭、硝石、硫黄、等ハ屢々市場ニ見ル其他ノ磁産ノ有無及数量ノ予測ハ未調査、尚塩ハ北部西藏ノ湖底ニ沈殿結晶セシモノ又ハ結晶(湖底)セシメテ之ヲ採集シ其量多キガ如シ、

- (C) 農業、由来農ヲ以テ国本トストハ西藏ノ国是ナレドモ高原寒地山景ニ充テル西藏ハ広大ナル田野ヲ有スル能ハズ現今耕作ヲ施サレタル面積ハ全平野面積ノ半パニ過ギザル人口ノ稀薄ニシテ進取ナキ国民ニハ今日ノ不振ナル状態ヲ以テスルヲ優ニ全人口(約二百万)ノ生命ヲ維持スルニ足レバナリ土地寒冷ニシテ冬季ハ水利ナク終年耕作ヲ連行スル能ハスト雖モ土地肥沃ニシテ穀類野菜ハ多クノ労力ヲ要セズシテ^マ牧^マ獲アリ肥料ノ如キハ年一回ニ人糞肥料ヲ施スニスギズ夏季ハ水量増加シ耕作ニ従事スルト雖モ水ナキ所ハ放棄セラレ無限ノ水量ヲ有スル Yeru Tsangpo ノ水、ラッサ平原ニテハ Kyi 川ノ水アレドモ之等ヲ利用スルコト殆ンドナシ、若シ灌漑ノ法ヲ講シ(極メテ容易ナリ)国ノ税制ヲ改革シ一般

第三十六ページ

人民ニ積極的ノ農業精神ヲ起サシムレバ耕作地ノ面積ハ今ヨリハ優ニ倍数ニ達シ産額ハ三倍乃至五倍ニ達スルノ日ヲ見ルベシト信ズ

西藏内ニ新ニ運河ヲ設クルコトハ当分西藏ノ官民上下ガ愚昧ナル間ハ其反対ア

ルヲ免カレズト雖モ吾人ノ觀察スル所ニヨレバ印度地方ニ於ケル家畜動力ニヨル吸上式ノ（浚渫船ノ連鎖バケツの構造ヲ有スル如キ）灌漑法ニ依ル時ハ何川ノ兩岸ニ沿ヘル地域ハ反対ノ方向ニ著シキ傾斜^マ面^マヲ有セサル限り幾部分此水利ヲ応用シウルモノト思考セラル北部西藏ニハ廣大ナル草原アレドモ之地方ハ牧業ニ適シ農業ニハ適セズ

（附）製茶業．西藏人ノ茶（Buttered tea）ハ主食物ノ一ニシテ吾人ガ副食視スル飲料トハ大ニ異ナリ麦粉ト共ニ主食物ノ一対ヲナス市場ニ於テハ常ニ通貨ノ代用ヲナスコトアリ目下 Lhasa 市場ニ於ケル茶ハ殆ンド磚茶ニ限ラル最近数年間ニ西藏人ガ支那ヨリ輸入セシ磚茶ノ記録ニ上リシモノノミニテモ一年間ニ二千万斤ニ達スト云フ，実費消額ハ此以上ニ上ルベシト想像セラル，磚茶一個ノ重量約六斤内外ニシテ長方形（約十寸×5寸×2.5寸）立体形ヲナスヲ普通トス重量容積常ニ一定セルモノニアラズ多少ノ差違ヲ同種ノ茶ニ於テ見ル今日市場ノ相場ハ約次ノ如シ，

Dru-T'ang 第一等品ニシテ此内ニテモ数種ノ階級アリテ最モ優等品ニシテ重量多キモノハ一個（約六斤位，但百二十斤）我四円五十銭次ハ約四円位，目下支那ヨリ輸入順潮ナラザルヲ以テ多少昇騰セリ，平常ハ約四円三十銭及三円八九十銭ノ相場ナラン（上流中流用）

Dru-nyi 第二等品ニシテ此内ニテモ多少ノ優劣アリ上等品ハ一個（五斤強？）約三円強トス平生ノ相場ナラバ三円又ハ三円強弱ナルベシ，（中流以下用）

Gyepa 最下等品ニシテ貧民等ノ用フルモノ重量約三四斤値約一円内外トス，
（備考）日本人ガ一斤ノ茶ヲ数日ニ分チテ飲ムニ異ナリ通常上流ノ五人家内ニテハ一日ニ二斤乃至三斤ノ茶ヲ要スルモノト見ルベシ，

実ニ磚茶ハ対西藏輸入品トシテ今後幾十年間ハ確實ナル貿易品ナルベシ，而シテコノ磚茶ハ一ニ支那四川省ヨリ輸入セラルノモノニシテ西藏内ニ産セズ是ニ於テ茶樹栽培製茶業ハ将来西藏内ニ於テ之

第三十七ページ

ガ実現ヲ見ルニ至ラバ茶ノ供給者需要者共ニ莫大ノ利益ヲ被ルベシ，只茶樹ガ西藏ノ土地ニ於テ能ク栽培^マセラレ之ガ支那製ト拮抗スルヤ否ヤノ疑問ニアリ，試栽培^マノ候補地トシテハ拉薩ヨリ約十五日程ノ東方ヨリ壺ヶ月程ニ及ブ範圍即チ上 Kong-po 下 Kongpo ノ兩地方ナリトス，Kongpo 地方ノ状態ハ詳シク知ラズト雖モ該地ノ産物トシテハ各種穀類，林檎，梨，桃，クルミ，葡萄等ノ菓物^マ，松，竹，

樹等ヲ生シラッサヨリハ氣候ヨク全土草木ヲ見サルナシト云フ（林業ノ望アリト云フ、）他ノ候補地トシテハ Chumbi 地方ナレドモ英ノ治下ニ移レバ地租、營業稅等其他ノ規定施行セラルコトノ患アルヲ以ツテ莫大ノ利益ハ望ムベカラズ、拉薩自身ニ於テハ未ダ曾テ試育セシコトヲ聞カズト雖モ余ガ一年間ノ觀察ニヨルニ氣候寒冽ト云フ外ニ別ニ欠点ヲ見ズ即（a）水利ハ Kyi chu ノ水ヲ利用スルコトヲウ、（b）冬季降雪ナシ、春四月頃ノ降雪一二回アルヲ注意スレバ可ナリ、（c）降霜ハ未ダ見タルコトナシ、湿気ナキガ故ニ（d）土地ハ肥沃ナリ、（e）土地ハ常ニ乾燥セリ、（f）土質花崗岩ト石灰岩其他石英、粘板岩ノ成土ヲ主トス（g）晴天多シ、

先ツ今後数年間 Kongpo 地方ニ於テ試験的ニ茶樹栽^{ママ}培製茶業ヲ開始シ支那品ニ匹敵スルヤ否ヤヲ研究スルノ余地アルト共ニ将来斯業ノ西藏内ニ於ケル有望ナル利源ノ一ナルコトヲ確信スルモノナリ、

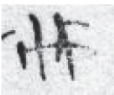
注

- 1) 「不明部分 1」参照.



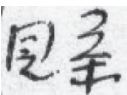
不明部分 1

- 2) 「不明部分 2」参照.



不明部分 2

- 3) 原文ここで改行.
4) 図 1 参照.
5) 図 2 参照.
6) 次頁図 3 参照.
7) 「第二」か.
8) 「不明部分 3」参照.



不明部分 3

- 9) 「不明部分 4」参照.



不明部分 4

- 10) 「イ」は「エ」の誤りか.
11) 「反故」の意か.
12) 「独数」は「独断」か.

気象観測表

【天気記号】

校訂者注：表中に用いられる天気記号は以下のとおりと推察される。

天気記号については、現在と大正年間のものいずれとも差異があり、断定することができない。また、英印政庁が用いた天気記号の体系とも若干異なる。以下は、青木師の天気に関する記述、青木師の『西藏拉薩天気概況』（1947 外務省調査部第3課）、東京管区気象台総務部業務課の筒井裕次氏の情報、をもとに、校訂者と鈴木理子氏が再構成したものである。

- ⊕：快晴
⊖：晴れ
○：曇り 及び 雨
⊖：雪

天気記号に付属の矢羽根は、風向と風速を表すので、「T」のような形状のものも矢羽根と思われる。

当時の天気図は、円内の縦線については矢羽根に垂直に引く習慣があったようなので、⊖も⊖も、「晴れ」であろうと推測される。

(例) 現在  大正4年当時 

【雲の種類】

Ci	: Cirrus	卷雲
Cu	: Cumulus	積雲
Str	: Stratus	層雲
Nimb	: Nimbus	雨雲
Ci-Cu	: Cirro-Cumulus	卷積雲
Ci-Str	: Cirro-Stratus	卷層雲
Str-Ci	: Strato-Cirrus	層卷雲
Cu-Ci	: Cumulo-Cirrus	積卷雲
Str-Cu	: Strato-Cumulus	層積雲
Cu-Nimb	: Cumulo-Nimbus	乱層雲

気象観測表

DATE January 1914	Weather 8.A.M.	Cloud 8.A.M.	Minimam [F]	Maximam [F]	Remarks
1st	⊕⊖	cu-ci	2.5°	31°	
2	⊖	cu-ci	7°	32°	
3	⊕⊖	cu-ci	8°	32°	
4	⊕	—	9°	36°	
5	⊕⊕	—	11°	35°	
6	⊕	—	10°	38°	
7	⊕⊕	—	9°	35°	
8	⊖	str-cu	7°	39°	
9	⊕⊕	—	5°	35°	
10	⊕	—	10°	?	
11	⊖	str-cu	10°	?	
12	⊖	ci-cu	11°	?	
13	⊖	cu-ci	9°	?	
14	⊖	Nimb	19°	44°	
15	⊖	Nimb	?	?	
16	⊕⊕	—	4°	34°	cloudy later
17	⊕⊕	—	9°	38°	〃 〃
18	⊕⊕	—	10°	40°	
19	⊕⊕	—	9.5°	38°	cloudy later
20	⊕⊕	—	20°	39°	Remarkle Minimam c.l.
21	⊖	str-cu	16°	36°	cloudy later
22	⊖	〃 - 〃	12°	35°	〃 〃
23	⊕⊕	—	6°	34°	〃 〃
24	⊕⊕	—	5°	33°	
25	⊕	—	7°	35°	
26	⊖	cu-ci	?	?	
27	⊖	cu-ci	12°	36°	
28	⊖	cu-ci	15°	38°	
29	⊖	cu-ci	16°	41°	
30	⊖	str-cu	17°	38°	
31	⊖	cu-ci	15°	36°	

※全日ヲ通シ午後ハ多ク曇天又ハ多雲トナリ風方ハ西ニ変スルヲ常トス 概況 早朝ハ概ネ快晴又ハ晴レ；多クハ東微風又ハ静穏；西風時ハ天候概シテ不良ノ傾向アリ、又温度高キモノナリ東風ノ時ハ是レニ反ス全月ヲ通ジ午後ハ多ク曇天又ハ多雲トナリ風方ハ西ニ変ズルヲ常トス、最低温度ハ確實ナルモ最高温度ハ寒暖計ノ置場所ニ從ヒ一定セズ則チ周囲ノ状態及家屋ノ構造位置等ニモ関ス日光直射下ニ於テハ百度内外ニ上昇スルヲ常トス、以上

気象観測表

DATE Feb. 1914	Weather 8.A.M.	Cloud 8.A.M.	Minimam	Maximam	Remarks
1	⊖	ci-cu	8°	37°	
2	⊕	—	7°	36°	
3	⊕	—	9.5°	37°	
4	○	str-cu	16°	38°	
5	⊖	str-cu	24°	33°	sand-storm at 3 p.m.
6	⊕	cu	18°	37°	
7	⊕	ci-cu	6°	36°	
8	⊖	str-cu	10°	38°	cloudy later
9	⊕	—	23°	45°	warm, cloudy later
10	⊕	—	14°	39°	cloudy later
11	⊖	ci-cu	10°	?	〃 〃
12	⊖	str-cu	20°	37°	〃 〃
13	⊕	—	14°	?	〃 〃
14	⊕	—	14°	40°	
15	○	Nimb	21°	41°	dull weather sand storm at 3 p.m.
16	⊖	ci-cu	23°	43°	sand-storm at 2 p.m.
17	○	str-cu	22°	42°	cloudy all day long s. storm at 4 p.m.
18	○	〃 〃	24°	39°	sand storm at 4 p.m.
19	○	〃 〃	20°	40°	sand storm at 3 p.m.
20	○	str-cu	19°	38°	sand storm at 3 p.m.
21	⊕	—	5°	32°	fine-cold
22	⊕	—	10°	33°	〃 〃
23	⊕	ci-cu	15°	39°	
24	⊕	—	22°	40°	
25	⊖	str-cu	20°	45°	cloudy later s. storm at 3 p.m.
26	⊕	—	13°	41°	cloudy later
27	⊕	ci-cu	21°	42°	cloudy later
28	⊕	—	17°	41°	

備考 本月ノ天候ハ一般ニ午前ハ良好ニシテ午後ハ陰悪ニ変ジ砂塵風ヲ起スヲ常トス概シテ午前ハ風向ハ東ニシテ午後ハ西ニ変ズ気温ハ一月ニ比シ稍温暖ヲ増ス昨年十二月以降全冬季ヲ通ジ短時間ノ微降雪アリシ外終日降雪（又ハ降雨）積雪ヲ見タル事ナシ。

Lhasa Tibert

1st march 1914

訂正

気象観測表第六頁ニ定メタル“風向”中 Ely wind Wly wind トアルヲ次ノ如ク訂正ス。

Wly wind Wly wind

仍テ従来第六頁以下二十五頁ニ至ル風向ハ旧符号ニヨリ第二十六頁以下ハ新符号ヲ採用ス。他ハ風向符号ハ従前ノ通りナリ。

気象観測表

DATE March.1914	Weather 8.A.M.	Cloud 8.A.M.	Minimam	Maximam	Remarks
1	☉ _T	ci-cu	20°	41°	cloudy later
2	☉	ci-cu	21°	43°	" "
3	☉ _T	ci-cu	18°	43°	" "
4	☉ _T	Nimb	19°	48°	snows on hills with dust 3 p.m.
5	☉	str-ci	16°	49°	
6	☉ _T	—	20°	49°	
7	☉	stor-ci	27°	49°	cloudy later
8	☉	—	28°	48°	" "
9	☉ _T	—	18°	43°	
10	☉ _T	?	?	43°	
11	☉ _T	—	32°	49°	with sand dust from 11AM to 9 P.M.
12	☉ _T	—	31°	45°	sand storm for a time 3 p.m.
13	☉ _T	str-ci	27°	46°	with sand dust from 4 to 7 p.m.
14	☉ _T	—	28°	48°	
15	☉ _T	—	17°	46°	cloudy later
16	☉ _T	—	12°	38°	Fine whole day cold
17	☉ _T	—	26°	45°	
18	☉ _T	—	22°	45°	
19	☉ _T	str-ci	28°	47°	sand storm for a time after noon
20	☉ _T	cu	30°	48°	with sand dust
21	☉ _T	—	26°	?	sand storm after noon
22	☉ _T	?	28°	50°	
23	☉ _T	cu	25°	42°	
24	☉ _T	cu	24°	40°	with sand at 4 p.m.
25	☉ _T	—	17°	47°	fine cold
26	☉ _T	—	22°	60 (?)	
27	☉ _T	—	21°	48°	
28	☉ _T	—	25°	55° (?)	
29	☉ _T	str-cu	29°	52°	cloudy fine interval
30	☉ _T	—	18°	48°	
31	☉ _T	—	30° (?)	47°	

気象観測表

DATE April. 1914	Weather 8.A.M.	Cloud 8.A.M.	Minimam	Maximam	Remarks
1st	☉ _T	Nimb	28°	53°	little snow in the morning & evening
2	☉ _T	ci-cu	24°	49°	little snow in early morning
3	☉ _T	/	?	47°	
4	☉ _T	/	25°	?	
5	☉	Nimb	29°	55°	little snows upto noon
6	☉	Nimb	28°	47°	5 inches-snowfall continuing it till noon from last night
7	☉ _T	—	26°	47°	fine whole day
8	☉	ci-str	28°	45°	Halo appears after and at 7 p.m.
9	☉	str-ci	30°	56°	
10	☉ _T	—	30°	50°	
11	☉ _T ?	str-cu ※	26°	56°	※ ci-str (?)
12	☉ _T	Nimb	28°	49°	little now in morning (ママ)
13	☉	Nimb	28°	54°	little snow in morning
14	☉	〃	26°	54°	
15	☉	ci-cu	27°	54°	
16	☉ _T ?	cu (?)	28°	46°	afternoon
17	☉	ci-cu	25°	50°	
18	☉	Nimb	25°	46°	little snow
19	☉ _T	—	23°	48°(?)	
20	☉ _T	ci-str	24°	47°	at 2 p.m. for a time
21	☉ _T	str-ci	25°	46°	cloudy later
22	☉ _T	ci-str	32°	49°	later
23	☉ _T	str-cu	31°	53°	snows on hills in early morn.
24	☉ _T	/	26°	55°	
25	☉ _T	/	28°	58°	cloudy later
26	☉ _T	ci-str	34°	60°	Halo appears cloudy after much rain in the night
27	☉ _T	ci-str	?	?	Halo; cloudy after & at 4 p.m. to 6
28	☉?	/	33°	61°	after noon fine later
29	☉ _T	/	30°	50°	
30	☉ _T	/	27°	52°	

備考 屢々降雪ヲ見ル事 1913 (大正二年度) 四月ニ似ルト雖モ昨年四月ニ比シ其量ト回数ニ於テ増加セリ経験アル方面ヨリ聞クニ昨年 (1913) ハ雨量欠乏シ收穫ハ例年ニ比シ少ナカリシト雖モ今年 1914 ハ相当ノ雨量アリシ為メ予相有望ナリト以テ本年四月ノ気象ガ平年ノ比斯節ニ稍似ルヲ想像スルニ足ル (已上)

